

For a bridge to peace across the ocean

～平和の架け橋となるために～

平和への 思いウムイ

令和2年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業

報告書



沖縄県

序

2020年、沖縄戦が終結して75年の節目の年を迎えました。その間、時が経つにつれて、沖縄県では戦争体験者の方々が少なくなり、戦後生まれが人口の約9割を占めるようになりました。そのため、沖縄戦の実相や戦争体験者の記憶をどのように次世代へ伝えていくのかが、課題となっております。

一方、私達が暮らす世界はグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて行きかう時代へと大きく変容を遂げております。政治・経済・人的交流の深化に伴い、やがて人種、宗教、国籍の違いを超えて互いに理解し合う、平和な時代の到来が期待されました。

しかし、2019年12月には、沖縄平和賞の第1回受賞者であるペシャワール会の中村哲医師がアフガニスタンで凶弾に倒れるという突然の訃報があり、依然として世界では地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域があることを思い知らされました。このような直接的な暴力のほか、貧困、飢餓、差別、人権の抑圧、環境の破壊などの構造的な暴力が横行しているのが世界の実情です。さらに、今まさに全世界で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、人々の命と生活が脅かされる未曾有の事態にあります。この感染症は病気への恐れが不安を呼び、その不安が差別や偏見を生み出し、社会を分断させるという恐さを秘めています。

これら課題の解決に向けては、世界中の人々がそれぞれの立場や違いを認め合い、協力し、信頼し合い、国際社会が一体となって取り組むことが重要です。そうして心穏やかで真に豊かな未来を築くことができるのです。

このような考え方に基づき、沖縄県では、共通の歴史体験を有する近隣諸国とのネットワークの構築及び平和な社会の実現に貢献できる国際的な視野並びに平和を愛する心を持つ人材の育成を図るため、「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業を実施しました。本事業では、沖縄県をはじめ多くの住民が犠牲となった戦争などの共通体験を有する韓国、台湾、ベトナム、広島、長崎など、アジア地域の学生29名がオンラインを通して、自国のみならず近隣諸国の歴史や経験を共に学び、戦争の悲惨さや命と平和の尊さについてあらためて思いを馳せ、史実とそこから得られる教訓を次世代に継承していく方法について考えました。

本報告書は、令和2年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業の取り組みをまとめたものであり、沖縄とアジア諸国、広島、長崎の学生がとらわれのない心で交流し、互いの理解を深め、平和への思いを共有するまでを記録しています。本報告書を通じて、事業の成果を理解していただくとともに、学校など教育の場において平和教育や国際理解教育等に活用されれば幸いに存じます。

また、参加学生が国籍や言葉、文化の違いを超え、本事業を通じて培った「平和への思い（ウムイ）」を基に、人的ネットワーク＝「平和の架け橋」を構築し、アジアだけでなく世界全体で平和な社会が実現できるよう活躍することを期待します。

最後に、本事業の実施にあたり、参加学生の募集・選考、事前研修の実施に御協力をいただいた参加国・地域の大学をはじめ、講義を担当していただきました石川隆士琉球大学教授、沖縄歴史教育研究家の大城航様に、心から御礼申し上げます。

2021年2月
沖縄県子ども生活福祉部
部長 名渡山 晶子

目次

序

第1部 事業概要

1. 目的	2
2. 実施主体	2
3. 事業内容	2
4. 実施期間	3
5. 実施体制	3
(1) 実施団体の人員配置	3
(2) 新型コロナウイルス感染防止対策	4
6. 参加国・地域における実施事業	5
(1) 参加者選考	5
(2) 事前学習	6
7. 「オンライン共同学習」日程	9
8. 沖縄県の平和推進の取組に関する動画制作	10

第2部 オンライン共同学習

1. 参加者紹介	12
2. オンライン共同学習	25
(1) オンライン共同学習の概要	25
(2) 1日目 開会式、アイスブレイク、講義、動画放映	28
(3) 2日目 各地域発表（広島、沖縄、韓国）	36
(4) 3日目 各地域発表（長崎、台湾、ベトナム）	58
(5) 4日目 ディスカッション（争いはなぜ起きるのか・平和な状態とは何か）	81
(6) 5日目 各地域のアクションプラン発表	96
(7) 5日目 閉会式	104

第3部 事業評価

1. アンケート結果	106
2. 総括評価	111

第4部 資料編

1. オンライン共同学習の様子	114
2. 報道記事	118

第 1 部 事業概要



1 目的

沖縄県民は 75 年前に沖縄戦という悲惨な戦争を経験し、多くの方が犠牲になった。しかし、その悲しい沖縄戦を経験した人々の高齢化によって当時の実状を伝え残すことが難しくなっており、二度と悲劇を繰り返さないために若者の平和を愛する心を育むことが重要となっている。

本事業は、沖縄と同様に、悲惨な戦争体験などを有し、体験の継承と平和構築に取り組むアジア諸国と日本の学生が共に学びつつ相互理解を深め、平和について考える機会を提供する。それにより、各国・地域の平和教育・平和活動に資するとともに、本事業で培った絆により平和構築のためのネットワーク形成と広く平和のために活動する人材を育成し、事業の成果を平和教育などに継続的に活用することを目的とする。本事業では、目的を達成するために以下の 4 つを目標とした。

歴史や文化の異なる各地域で発生した戦争や事件を理解することで、相互理解を促進し、多様な視点から平和について考える機会を提供する。

過去の戦争や事件から教訓を学び、それを発信することで参加地域の平和教育・平和活動に貢献する。

平和構築に寄与する人材の育成に貢献する。

参加地域間を結ぶ人的交流ネットワークの構築に寄与する。

2 実施主体

主催 沖縄県 子ども生活福祉部 女性力・平和推進課
受託事業者 「平和への思い」発信・交流・継承事業委託業務コンソーシアム
(特定非営利活動法人沖縄平和協力センター (OPAC)、株式会社うるま AV センター)

3 事業内容

令和 2 年度「平和への思い」発信・交流・継承事業は、昨年度、沖縄県平和祈念資料館が実施した事業の継続事業である。韓国、台湾、ベトナムの大学生と沖縄、広島、長崎の大学生がそれぞれの地域で起った戦争や事件の歴史を相互理解し、戦争と平和について意見交換を行い、平和な社会づくりを目指すアクションプランを策定した。

昨年度は、沖縄に全参加者が集まり合同宿泊研修を実施したが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外、県外からの大学生の往来が出来ず、沖縄とそれぞれの拠点を Web 会議ソフト Zoom を用いてオンラインで結び、5 日間の「オンライン共同学習」を実施した。昨年度は日本側の参加は沖縄のみであったが、今年度は広島、長崎を加え原爆投下の実相を伝え、戦争がもたらす被害について広い範囲で学習した。

当初、カンボジアからの参加も計画していたが、「オンライン共同学習」開催の直前に、カンボジア国内で新型コロナウイルスの感染が広がり、学校を含む公共施設が閉鎖される措置がとられたことから、危機管理等の問題のため、急きょカンボジア側から不参加の申し出がなされた。

4 実施期間

2020年11月24日（火）～28日（土） 日本時間 14：00～17：00

台湾とベトナムは時差があるため、開始時間は以下の通り。

台湾…13：00 開始 ベトナム…12：00 開始

発信場所／那覇市人材育成支援センター まーいまい Naha

「オンライン共同学習」実施に先立ち、10月～11月中旬まで、各地域で事前学習を実施した。

5 実施体制

事業責任者

沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課 主査 前田 昌哉
 沖縄平和協力センター（OPAC）理事長 仲泊 和枝

「平和への思い」発信・交流・継承事業委託業務コンソーシアム

（特活）沖縄平和協力センター

理事長 仲泊 和枝
 事務局長 樋口 洋平
 研究員 金城 愛乃

（株）うるま AV センター

代表取締役社長 武田 誠 映像撮影責任者 喜瀬 慎也
 技術主任 西 政信 動画制作責任者 高良 史朗
 配信管理責任者 宮城 光司

（1）実施団体の人員配置

総括責任者（事業総括・運営）

仲泊和枝（沖縄平和協力センター理事長）

- 2009年～2014年まで沖縄県平和祈念資料館及び沖縄県立博物館・美術館が実施した、JICA 草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア平和博物館づくり」にて、プロジェクトマネージャー補佐として従事。
- 2016年～2017年に JICA 草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア博物館から発信する平和教育普及プロジェクト」のプロジェクトマネージャーとして事業を運営。
- 2019年度（令和元年度）「平和への思い」発信・交流・継承事業の総括責任者として事業を運営。

担当者①（事業運営補佐）

樋口洋平（沖縄平和協力センター 事務局長）

- 2010年～2015年まで JICA 草の根技術協力事業「沖縄・東ティモール紛争予防協力」の現地業務調整員として事業運営を担当。
- 2016年～2019年まで外務省専門調整員として在東ティモール日本大使館勤務。
- 2019年度（令和元年度）「平和への思い」発信・交流・継承事業にて担当者（事業運営補佐）として携わる。

担当者②（動画制作）

金城 愛乃（沖縄平和協力センター 研究員）

- 2016年～2019年まで特命助教として国立大学法人琉球大学勤務、「太平洋島嶼地域特別編入学事業」の運営を担当。海外大学に対するプロモーションを目的に事業成果の動画・リーフレット・報告書の作成およびデザインに携わる。

テクニカルディレクター

武田 誠（株式会社うるま AV センター 代表取締役社長）

- 県内において数々のイベント、施設の音響、照明、映像の設備管理等に関わる仕事に従事。代表的なイベントとして「沖縄全島エイサーまつり」のフィナーレリユージョンを過去7年間担当。他、ホテルの大型映像をはじめクリスマスイルミネーション、プロジェクションマッピング等県内外の施設のテクニカルディレクションを行う。

技術主任

西 政信（株式会社うるま AV センター技術主任）

- 県内において数々のイベント、施設の音響映像設備等に関わる仕事を担う。RBC ビジョンにおいて約20年間放送・音声・映像に関わる仕事を経験。音響と映像、デジタル、アナログの知識においては経験に裏付けされた実籍を有す。

配信技術管理

宮城 光司（株式会社うるま AV センター映像配信担当）

- フリーのラジオディレクターとしてラジオ番組を担当後、現在まで数多くの番組を担当。ラジオ制作で培ったノウハウをネット業界にも応用し、ポッドキャスト、ネットラジオを配信。ツイキャス、YouTube ライブ、など多くの配信とラジオ映像制作で活動中。

映像撮影

喜瀬 慎也

- 県内外のテレビを含む番組の多数の撮影を担当。沖縄関連のサッカー、バスケットボール試合中継などの実績があるカメラマン。

動画制作

高良 史朗

- 県内外のテレビ番組を多数制作した実績を有す。

(2) 新型コロナウイルス感染防止対策

各地域の参加者に、事前学習やオンライン共同学習参加の際には、マスクを着用し、消毒液を各拠点に設置、参加者間の社会的距離を確保したり、換気をおこなったりするなどの感染対策の協力を依頼した。特に沖縄の拠点は、参加学生に加えて、実施団体事務局、オンライン配信スタッフ数名が同じ会場に集まるため、参加者の日々の体温チェックを欠かさず、定期的に換気するなどの措置を取った。

6 参加国・地域における実施事業

(1) 参加者選考

参加者の選考については、資格要件を以下の通りとし、各国・地域からそれぞれ5名を選考した。韓国は、大学の授業が重なり、また、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、大学が非対面授業を実施していたことから、応募者が少なく4名となった。

- 原則として各募集国・地域に在住する大学生であること。
- 事業の主旨を理解し、将来自国での平和教育・平和活動に携わる意思のある者で、事業参加国の若者と連携して平和発信に寄与する意思のある者であること。
- 事前研修と沖縄で行われる「オンライン共同学習」に原則全日程参加できること。

【参加国・地域における学生の応募・選考・窓口機関への委託】

窓口機関は、本事業の趣旨・目的を十分理解しているという観点から、令和元年度の先行事業に参加した機関に依頼した。ベトナムについては、昨年度はハノイ市の大学に依頼したが、本年度は、学習対象の「ベトナム戦争」により関連が深い同国南部（ホーチミン）に位置する大学に依頼した。今年度新しく参加した広島、長崎については、平和教育や国際関係の学部を有する複数の大学と調整し、依頼した。沖縄県は、県内の各大学に周知し公募した。窓口機関には、参加学生の学びを指導する指導者の配置も依頼し、指導者は「オンライン共同学習」に帯同した。参加者の募集・窓口機関は以下の表のとおりである。

	対象国・地域	募集・窓口機関
1	日本（沖縄県）	実施団体が直接県内大学から公募。 琉球大学、沖縄大学、沖縄キリスト教大学院大学から参加
2	日本（広島県）	広島市立大学
3	日本（長崎県）	長崎純心大学
4	カンボジア	国立トゥール・スレン虐殺博物館（大学と協力）
5	韓国	国立済州大学校
6	台湾	台湾国立政治大学
7	ベトナム	ホーチミン市師範大学

なお、カンボジアは参加学生を決定するも、カンボジア国内の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、「オンライン共同学習」への参加を断念した。

(2) 事前学習

【パワーポイント資料作成】

「オンライン共同学習」開催の前に、募集・選考を担った機関に対し、自国・地域で起った戦争や事件をテーマとして、選考された学生に対し、事前学習の実施するよう依頼した。

事前学習では、指導者の下、参加者は歴史的な学習のみならず、そこから得られた教訓を継承することの必要性やその方法、平和への思いなどをまとめ、「オンライン共同学習」で発表できるように、それぞれの国の概要説明を加えた内容のパワーポイント資料を作成した。

【動画作成】

「オンライン共同学習」に先立ち、参加チームにはそれぞれの地域を紹介する5分以内の動画の作成を依頼した。動画については、昨年度のように参加者同士が直接会える機会がないことから、参加者同士が互いをより身近に感じてもらえるように、自分自身や現地の様子、各地域の戦争や事件を紹介している遺構、博物館、資料館、記念館などを紹介する内容とした。

対象国・地域	学習対象
日本（沖縄県）	沖縄戦
日本（広島県）	広島県における原爆投下
日本（長崎県）	長崎県における原爆投下
韓 国	濟州島 4.3 事件
台 湾	2.28 事件
ベ ト ナ ム	ベトナム戦争



◆沖縄県

場 所：沖縄平和協力センター、沖縄県平和祈念資料館
 実施日：2020年11月10日、11月24日、他
 指導者：元社会科教諭 沖縄歴史教育研究家 大城 航



◆広島県

場 所：広島市立大学、広島市平和記念公園など
 実施日：10月31日、11月7日、11月21日の正午から約1時間、他
 指導者：広島市立大学大学院 平和学研究科 教授 水本 和実



◆長崎県

場 所：長崎純心大学、浦上天主堂など
 実施日：11月16日、11月23日
 指導者：長崎純心大学 人文学部 文化コミュニケーション学科 准教授 石井 望





◆韓国

場 所：済州大学校、英慕園など
 実施日：2020年9月4日～11月23日 15回実施
 指導者：済州大学校 人間社会学科 准教授 高 誠晩



◆台湾

場 所：台北 2.28 和平記念館、国立政治大学
 実施日：2020年9月～11月 8回実施
 指導者：国立政治大学 日本教育プログラム 教授 李世暉



◆ベトナム

場 所：ホーチミン市師範大学内教室、参加者自宅など
 実施日：2020年10月～11月中旬 4回実施
 指導者：ホーチミン市師範大学 日本語学部 教授 Le Thi Hong Nga



7 「オンライン共同学習」日程

2020年11月24日(火)～28日(土) 日本時間 14:00～17:30

場所：那覇市人材育成支援センター まーいまーい Naha

日付	時間(日本時間)	内容	備考
11月24日(火)	13:00～14:00	参加者入室	参加者がZoomへ入室
	14:00～14:30	開会式	
		開会あいさつ	沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課 班長 平安山純子
		関係者自己紹介	
		オンライン学習の日程説明	OPAC
	14:30～14:45	歓迎の唄、アイスブレイク	沖縄チーム、OPAC
	14:45～14:50	休憩	
	14:50～15:50	講義： 沖縄の歴史・文化	琉球大学 国際地域創造学部 教授 石川隆士
	15:55～16:05	休憩	
16:05～17:05	講義： 沖縄戦と戦後復興	元社会科教諭 沖縄歴史教育研究家 大城航	
17:05～17:25	動画放映：「平和への思い(ウムイ)」をつなぎ、伝える ～沖縄県の取組～	沖縄県の平和行政の紹介	
17:30	終了		
11月25日(水)	13:30～14:00	参加者入室	参加者がZoomへ入室
	14:00～15:00	広島チーム発表 (広島原爆投下)(学生作成動画)	広島チーム
		質疑応答	各参加地域より
	15:00～15:10	休憩	
	15:10～16:10	沖縄チーム発表 (沖縄戦)(学生作成動画)	沖縄チーム
		質疑応答	各参加地域より
	16:10～16:20	休憩	
	16:20～17:20	韓国チーム発表 (済州島4.3事件)(学生作成動画)	韓国チーム
質疑応答		各参加地域より	
17:30	終了		
11月26日(木)	13:30～14:00	参加者入室	参加者がZoomへ入室
	14:00～15:00	長崎チーム発表 (長崎原爆投下)(学生作成動画)	長崎チーム
		質疑応答	各参加地域より
	15:00～15:10	休憩	
	15:10～16:10	台湾チーム発表 (2.28事件)(学生作成動画)	台湾チーム
		質疑応答	各参加地域より
	16:10～16:20	休憩	
	16:20～17:20	ベトナムチーム発表 (ベトナム戦争)(学生作成動画)	ベトナムチーム
質疑応答		各参加地域より	
17:30	終了		
11月27日(金)	13:30～14:00	参加者入室	参加者がZoomへ入室
	14:00～15:20	ディスカッション(1)(争いはなぜ起きるのか)	OPAC
	15:20～15:30	休憩	
	15:30～16:50	ディスカッション(2)(平和な状態とは何か)	
	17:00	終了	
11月28日(土)	13:30～14:00	参加者入室	参加者がZoomへ入室
	14:00～15:00	各地域によるアクションプランの発表	広島、韓国、長崎、台湾、ベトナム、沖縄による発表
	15:00～15:10	統括コメント	沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課 班長 平安山純子
	15:10～15:15	休憩	
	15:15～15:40	閉会式	
		参加者代表者による感想発表	参加者代表者による感想発表
	15:40～16:00	閉会の言葉	沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課 課長 榎原千夏
		懇談会、写真撮影	
16:10	解散		

8 沖縄県の平和推進の取組に関する動画制作

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者の往来を取りやめたことにより、県内におけるフィールドワークにかえて、沖縄戦の実相と沖縄県の平和推進の取組をまとめた動画を制作し、「オンライン共同学習」で活用した。動画は、これまでに沖縄県に蓄積された資料及び戦後 75 年事業などの新たな事業を撮影取材した映像を用いて、沖縄戦の実相、歴史的教訓、戦後復興、沖縄県の平和推進の取組、次世代への継承と平和を希求する「沖縄のこころ」の発信という課題への対応をまとめた。

この動画を「オンライン共同学習」の初日に放映し、視聴した学生からは、美しい沖縄は過去に悲惨な戦争を経験しており、その経験から平和な社会づくりを目指している様子がよく分かったとの感想を多く得た。

動画は、日本語のナレーションに、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、クメール語（カンボジア）の字幕を付けたものをそれぞれ制作しており、沖縄県のホームページからアクセスできる。

動画：「平和への思い（ウムイ）」をつなぎ、伝える ～沖縄県の取組～（22分） 英語字幕付き



フルバージョン（22分）



前半部分（約 8 分）
沖縄戦と戦後復興



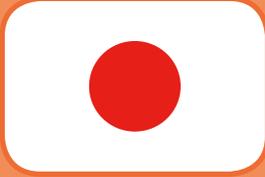
後半部分（約 12 分）
沖縄県 平和への取組



第2部 オンライン共同学習



1 参加者紹介



広島
Hiroshima, JAPAN



Arai Natsuko

名前
新井 夏子

所属
広島市立大学 国際学部 1年

自分を表す3つの言葉
のんびり、マイペース、おばあちゃん

コロナ禍の過ごし方
普段ほとんど観ない映画やドラマを観た。長編小説を読んだ。

コメント
私にとっては、このプログラムで交流する都市はどこも何かしらのつながりがあり、とても身近に感じられます。身近だからこそ、その県や国の大学生の発表を聞き、交流してみたいと思い、このプログラムへの参加を決めました。



Sato Yu

名前
佐藤 優

所属
広島市立大学 国際学部 1年

自分を表す3つの言葉
笑顔、優柔不断、ディズニー

コロナ禍の過ごし方
外出はスーパーに行くぐらいしかせず、家でけじめのないだららとした日々を過ごしてしまいました。

コメント
広島に進学したからこそできる経験であったし、日本人として原爆の被害を中心に、平和について考えたいと思ったため、応募しました。



Omiya Hikaru

名前
大宮 ひかる

所属
広島市立大学 国際学部 1年

自分を表す3つの言葉
忍耐性、協調性、優柔不断

コロナ禍の過ごし方
ほとんど家から出ることなく、今まで忙しくて見る事が出来なかった映画を観たり、本を読む、動画を観るなどして過ごしました。また、家族との時間が増えたのでご飯を一緒に作ったり、近所を散歩したりもしました。

コメント
生まれたころから広島に住んできた私は、大学で広島県外から来た同世代の人と交流する機会が増えました。そこで広島歴史や戦争に対する思いは広島で平和学習を受けて来たからなのだと改めて感じ、恵まれた環境だったと知りました。これまで様々な境遇の人に教えていただいたことを、これからは自分から発信できるようになりたいです。



Fujimoto Kai

名前
藤本 海

所属
広島市立大学 芸術学部 1年

自分を表す3つの言葉
注意力散漫、お調子者、
気になりがち

コロナ禍の過ごし方

外出自粛が厳しかった時期は全くと言っていいほど家から出ずに映画やYouTubeを見て過ごしていました。大学の授業も最初の頃はなかったりあってもオンラインだけだったので家で過ごしていました。

コメント

大学での事業の一環で参加することになりました。これまで勉強してきていない様々な観点からヒロシマのことや平和のことを学びなおしたいと思い、応募しました。



Okazaki Yuumi

名前
岡崎 裕美

所属
広島市立大学 大学院
平和学研究科 修士課程 1年

自分を表す3つの言葉
マイペース、個性、好奇心

コロナ禍の過ごし方

セミナー参加、映画鑑賞（有名な戦争映画など）、読書、手紙や本棚の整理など

コメント

私は広島平和記念資料館で被爆の実相を伝える仕事をしています。この4月から広島市立大学大学院平和学研究科に進学しました。県外やアジア諸国の学生の皆さんと交流しながら戦争や平和について考えることのできるこの事業に魅力を感じ、応募しました。仕事においても研究においても有意義な時間を持つと考えています。



Mizumoto Kazumi

名前
水本 和実

指導担当
広島市立大学 大学院
平和学研究科 教授



韓国

Jeju, SOUTH KOREA



Lee Yong Jun

名前

李 鎔準 (リ・ヨンジュン)

所属

済州大学校
社会学専攻 4年

自分を表す3つの言葉

平和、愛、信頼

コロナ禍の過ごし方

非対面式の講義に参加しながら、読書や個人的な時間をより効果的に過ごしています。

コメント

以前よりアジア・太平洋地域への強い関心がありました。今のアジア諸国の若者たちが平和について対話することが重要だと考えています。私は済州で社会学を勉強しており、ここからどんな平和が発信できるだろうかと悩んでいます。外国の友人たちと交流することで、積極的な意見交換ができればと思っています。



Woo Yun A

名前

禹 潤我 (ウ・ユンア)

所属

済州大学校
社会学専攻 2年

自分を表す3つの言葉

ゆび、ゼリー、消しゴム

コロナ禍の過ごし方

読書や映画鑑賞など、室内でできることをやっている。

コメント

済州4・3事件について学んだことをきっかけに、地元に痛みの歴史があったという事実を知ることができました。痛みの歴史を共有する各国の人々と交流し、歴史を学び、視野を広げたいと思い、応募しました。



Kang Bok Soo

名前

康 福受 (カン・ボックス)

所属

済州大学校
社会学専攻 4年

自分を表す3つの言葉

農夫、天下泰平、挑戦する人

コロナ禍の過ごし方

慣れてない非対面式の日常生活に慣れようとしている。

コメント

あらためて済州4・3事件について学習したい、沖縄をはじめ東アジア諸国・地域のさまざまな課題と解決方法について議論したいと考え、この事業に応募しました。



Ha Nae Kwon

名前

河乃權 (ハ・ネグォン)

所属

済州大学校
社会学専攻 4年

自分を表す3つの言葉

自分を表現できる言葉はないです。

コロナ禍の過ごし方

孤立している生活は意外と楽しい。

コメント

以前から平和や共生といったテーマに興味があったので、応募しました。



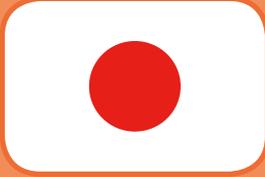
Koh Sung Man

名前

高誠晩 (コ・ソンマン)

指導・通訳担当

済州大学校
人間社会学科 准教授



長崎

Nagasaki, JAPAN



Hirayama Ayaka

名前
平山 絢香

所属
長崎純心大学
比較文化学科 3年

自分を表す3つの言葉
マイペース、粘り強い、明るい

コロナ禍の過ごし方

時短で簡単に、美味しい料理が作れるレシピを見ながら、チャーハンや親子丼など様々な料理を作りました。両親に料理を食べてもらって「美味しい」と言われた時に達成感を感じ、料理を作ることの楽しさを学びました。

コメント

私は長崎県出身で幼少期の頃から平和学習を通じて戦争の恐ろしさを学んできましたが、他県の人と交流した際にまだ他県に戦争の知識が広まっていないことを認識しました。今回の学習を通して、原爆についての知識をもっと身につけ、平和について考える時間を設けたいと思います。



Yamada Anna

名前
山田 晏菜

所属
長崎純心大学
比較文化学科 3年

自分を表す3つの言葉
ポジティブ、明るい、能天気

コロナ禍の過ごし方

私のバイト先は食料を売っている店なので、お店が開いていたのでバイトをしたり、家でまったり韓国ドラマや様々な国の映画をみたりしてゆっくりしました。

コメント

このプログラムに誘われて、私自身も長崎に生まれて平和教育を受けてきて、興味があったので参加を決めました。



Umeda Shiori

名前
梅田 詩織

所属
長崎純心大学
比較文化学科 4年

自分を表す3つの言葉
行動力、臨機応変、個性的

コロナ禍の過ごし方

私は「ロックフェスティバルと社会の影響」について研究しています。コロナ禍で開催中止・延期したフェスやライブが数多くある中、ファンの想い、アーティストの想いやソーシャルディスタンスの対策など様々な視点から研究し、その資料集めに時間をかけていました。

コメント

長崎に原爆が投下され今でも被爆された方々がいる中、平和活動を通して知ることができた私たちは原爆について伝えていく義務があると思い、今回の事業への参加を希望しました。私たち若い世代は原爆や戦争について様々なことを学び、平和への大切さと、原爆・戦争の悲惨さを世界中の人々にもっと伝えていかねばならないと思います。



Mizumachi Mana

名前
水町 舞愛

所属
長崎純心大学
比較文化学科 3年

自分を表す3つの言葉
マイペース、単純、冷静

コロナ禍の過ごし方
友だちと電話をしたり、オンライン飲み会をやってました。

コメント
長崎に原爆が投下されて70年以上が経ち、被爆者の方々の直接の声がきけなくなっていっているのが現状で、私たち若い世代が発信していかなければならないと思い、理解を深めるためこの事業に応募しました。



Takahashi Eiko

名前
高橋 英子

所属
長崎純心大学
比較文化学科 4年

自分を表す3つの言葉
集中力がある、辛抱強い、多面的視点を持つ

コロナ禍の過ごし方
外出を控え、自宅でコロナについての情報を調べていました。そして、コロナ禍でも快適に過ごせるよう、今までは有償であったサイトが無償となっているのを見て、今までと違った人との繋がりを感じる生活を送りました。

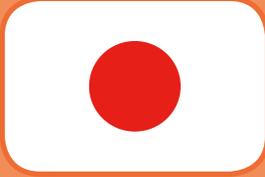
コメント
新型コロナの流行で、今までの生活と現在では一変しています。そんな今だからこそ、平和な日常がいかに大切な事が分かります。今回、この平和学習に参加して、各国の学生たちと過去の戦争の出来事を通して、未来の自分たちが共に平和に暮らしていける世界について話合いたいと思い参加を希望いたします。



Ishii Nozomu

名前
石井 望

指導担当
長崎純心大学
人文学部 文化コミュニケーション学科 准教授



沖縄 Okinawa, JAPAN



Tsuhako Akari

名前
津波古 明璃

所属
沖縄キリスト教学院大学
人文学部 4年

自分を表す3つの言葉
好奇心旺盛、脇役、表現好き

コロナ禍の過ごし方

コロナの問題やBLM運動など、社会で起きていることについて普段より思考する時間が増えました。また、趣味のお絵かきをSNSで発信することを始めました。

コメント

皆が生きやすい世界や沖縄について考えるために応募しました。大学での学びの中で世界の出来事が自分事になり、生まれ育った沖縄にも興味がわき、現在は沖縄の歴史やアイデンティティについても勉強中です。事業を通じ沖縄のことを深く理解して県外やアジアの学生に発信し、沖縄以外の戦争の歴史についても学びたいと思います。



Chinen Yukari

名前
知念 ゆかり

所属
沖縄キリスト教学院大学
人文学部 4年

自分を表す3つの言葉
好奇心旺盛、感受性高め、
沖縄人

コロナ禍の過ごし方

地元の糸満市で新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用モデル事業のテレワークを通し、糸満市のふるさと納税の改善点を探したり、取引先を増やすために業者まわりをしたり、地元が元気になるような活動をしていました。

コメント

今まで何度も沖縄戦について話を聞いたり、本を読んだり、慰霊の日に平和祈念公園でウートーしたりしてきましたが、県外・海外の方とはそこまで深く話す機会がありませんでした。このオンライン共同学習で私たちの平和に対する思いを伝えたいです。



Miyagi Marino

名前
宮城 真梨乃

所属
沖縄キリスト教学院大学
人文学部 4年

自分を表す3つの言葉
笑顔、真面目、ツッコミ

コロナ禍の過ごし方

塾のアルバイトがオンライン授業に切り替わり、オンライン授業をやったり、筋トレをしたりしていました。

コメント

歴史を自分で学び直し、過去の戦争から学ぶもの、自分の言葉で自分の調べたことを人に伝えたいと考えており、悲惨な経験をした私たちのご先祖たちからの言葉を次に伝える使命があると考えています。そのことを忘れずに、他の場所の戦争体験を知り、同じ平和への思いを持つコミュニティで平和のあり方について考えたいです。



Miyagi Nanami

名前
宮城 七珠

所属
沖縄大学
人文学部3年

自分を表す3つの言葉
穏やか、フレンドリー、責任感

コロナ禍の過ごし方

外国語の勉強や本を読む事、自然の中で遊ぶことで、ただただらと過ごすことを避けました。

コメント

高校生の時に参加した沖縄県の事業で平和構築について学び、沖縄戦や東南アジアの戦争の歴史、平和構築にとっても関心が湧きました。昨年度の本事業報告会を見て、来年は私も参加者になりたいと思い、今回応募しました。



Kishaba Taichi

名前
喜舎場 大智

所属
琉球大学
国際地域創造学部3年

自分を表す3つの言葉
「好奇心」と「行動力」の「化け物」

コロナ禍の過ごし方

オンラインでできることを見出し、学内では Toastmasters で台湾や九大のクラブとジョイントミーティングをしたり、学外では、沖縄県の若者を育成するイベント LEAP DAY の運営メンバーとして積極的に動いています。

コメント

私はこの事業を通して戦争について改めて見つめ直し、県外や外国の方々が持つ価値観を吸収していきながら、沖縄の若者が戦争や基地について考えるきっかけを作っていきたいと考えています。自発的または主体的に学ぶ平和学習を通じて、学習の中に自分で問をたて、他の人と共有・発信することができる場所を創っていきたいです。



Oshiro Wataru

名前
大城 航

指導・講義（沖縄戦）担当
元社会科教諭
沖縄歴史教育研究家



台湾

Taipei, TAIWAN



Kao Yu-Ching

名前
高于晴（コウウセイ）

所属
国立政治大学
日本研究プログラム
修士課程2年

自分を表す3つの言葉
明るい、努力家、ユーモア

コロナ禍の過ごし方
台湾では感染者が多くないためいつも通り過ごしましたが、人が集まる所に行く場合は、常にマスクを着用しています。

コメント
卒業論文で沖縄の久米における中華文化について研究しました。今回のプログラムを契機として、沖縄における他の分野についてもより深く学べることを望んでいます。



Takeda Hiroki

名前
竹田 宏生

所属
国立政治大学
日本研究プログラム
修士課程2年

自分を表す3つの言葉
少し几帳面、緊張しやすい、物事を最後までやり遂げないと気が済まない

コロナ禍の過ごし方
仕事と学業の両立、修士論文の計画

コメント
アジア各国の学生が、「平和」に対して思うことを知りたいです。



Feng Jia-Wei

名前
馮家瑋（フウカイ）

所属
国立政治大学
日本研究プログラム
修士課程1年

自分を表す3つの言葉
努力家、挑戦心、前向き

コロナ禍の過ごし方
家で本を読む

コメント
他の国の人と交流し、様々な意見を聞きたいと思っています。



Cheng Shi-Yuan

名前
鄭詩遠 (テイシエン)

所属
国立政治大学
日本研究プログラム
修士課程1年

自分を表す3つの言葉
勤勉、積極的、素直

コロナ禍の過ごし方

自分の能力を伸ばすためたくさん勉強した。教員試験と英語能力試験 (TOEIC) を受験した。また、音楽教室で講師として学生にピアノを教えていた。さらに、大学院の卒論テーマに関する資料を集めていた。

コメント

アジア諸国の学生と一緒に学びつつ、相互理解を深め、平和について考えたいです。また、台湾の228事件について関心があるので、グループメンバーと一緒にプレゼンテーションをしたいと思っています。この機会に台湾をアジアの人たちに紹介したいです。



Lin Yi-Yu

名前
林易佑 (リンイユウ)

所属
国立政治大学
日本研究プログラム
修士課程1年

自分を表す3つの言葉
冷静、賢い、正義の味方

コロナ禍の過ごし方

家で友達とPCゲームをしました。

コメント

先輩からこのプログラムを紹介されて応募しました。



Li Shih-Hui

名前
李世暉 (リセイキ)

指導・通訳担当
国立政治大学
日本教育プログラム 教授



ベトナム

Ho Chi Minh, VIETNAM



Tran Trong Tan

名前

チャン・チョン・タン

所属

ホーチミン市師範大学
日本語学部

自分を表す3つの言葉

よく笑う、厳しい、活発

コロナ禍の過ごし方

師範大学での勉強を続けたり、水泳クラスに参加したり、掃除や料理をしたりしています。

コメント

「戦争」は苦悩、死、悲しみを連想します。一方で「平和」は安定、発展、幸福だといえます。したがって「平和への思い」とは各国の平和について学ぶプログラムだと理解しており、参加できるのを嬉しく思っています。ベトナムだけではなく、戦争を乗り越えた各国から色々と学び、外国の友達を作れたら嬉しいです。



Mai Xuan Sam

名前

マイ・スアン・シャム

所属

ホーチミン市師範大学
日本語学部

自分を表す3つの言葉

ハングリー精神、我慢強さ、おもてなし精神

コロナ禍の過ごし方

日本語の能力を上げられるように家で独学していました。さらに本を読んだり運動したり掃除をしたりしました。時々外に出かけて、景色のビデオを撮影しました。

コメント

高校時代に江戸時代を舞台にしたドラマを見て、日本の文化と歴史に興味をわき、調べ始めました。特に尊敬する人物は福沢諭吉や坂本龍馬や西郷隆盛などで、明治維新は本当に素晴らしいと思っています。ベトナムと日本の歴史を調べれば調べるほどおもしろい発見があるので、この事業に参加したいと思っています。



Tran Gia Nhi

名前

チャン・ザ・ニー

所属

ホーチミン市師範大学
日本語学部

自分を表す3つの言葉

自分に厳しい人、素晴らしい内容がある漫画のファン、強迫性障害

コロナ禍の過ごし方

ヒプ・マイクの麻天狼の歌を翻訳したり、ブログで物語を書いたり、漢字と文法を学んだりします。

コメント

中学時代にベトナム戦争に関する本を読んだことはありますが、私たちの世代は戦争を完全には理解していません。人間が直面するのは刀剣と盾による戦いだけでなく、武器のない戦い、例えば新型コロナウイルスとの戦いもその一つだと考えています。私は普通の人ですが、平和が大切であるというメッセージを広げていきたいと考えています。



Pham Hoang Nguyen

名前

ファーム・ホアン・グエン

所属

ホーチミン市師範大学
日本語学部

自分を表す3つの言葉

創造的、開放的、
話しかけやすい

コロナ禍の過ごし方

日本とベトナムにおけるコロナの情報が気になったり、好きな日本語の番組を見たりしました。さらに、新しい料理も作ってみました。

コメント

この事業は日本語のスキルを向上できる貴重な経験になると考えています。また、戦時中のベトナムはどうだったか、どう乗り越えたか、といった情報を皆さんに少しでも紹介できればと思います。沖縄やアジア各国の歴史的な出来事と平和構築に向けた立派な取り組みについて知り、その知識を身につけたいと思っています。



Co Ngoc Phuong Trang

名前

コ・ゴック・フーン・チャン

所属

ホーチミン市師範大学
日本語学部

自分を表す3つの言葉

よく笑う子、変な趣味を持っている人、スポーツ漫画が好きすぎる人（オタクのレベルまでではない）

コロナ禍の過ごし方

寮で友達とスポーツ（バドミントン、サッカーなど）をしたり、ファンタジー小説（十二国記）を読んだりしました。日本語能力を高めることは勿論、将来の仕事のために、IT業界に関する職業を調べながら、プログラミング言語も学び始めました。

コメント

私と同世代のベトナム人は本格的な戦争を体験したことがないと思われます。ですが、ベトナム戦争が残した計り知れない余波を目撃すると、戦争が私たちにどれほどの痛みを与え続けているかが分かるようになりました。世界に向けて、平和への思いを受け継ぎ、それを世界の友達に幅広く伝えていきたいと思っています。



Le Thi Hong Nga

名前

レ・ティ・ホン・ガー

指導・通訳担当

ホーチミン市師範大学
越日文化・教育センター
センター長

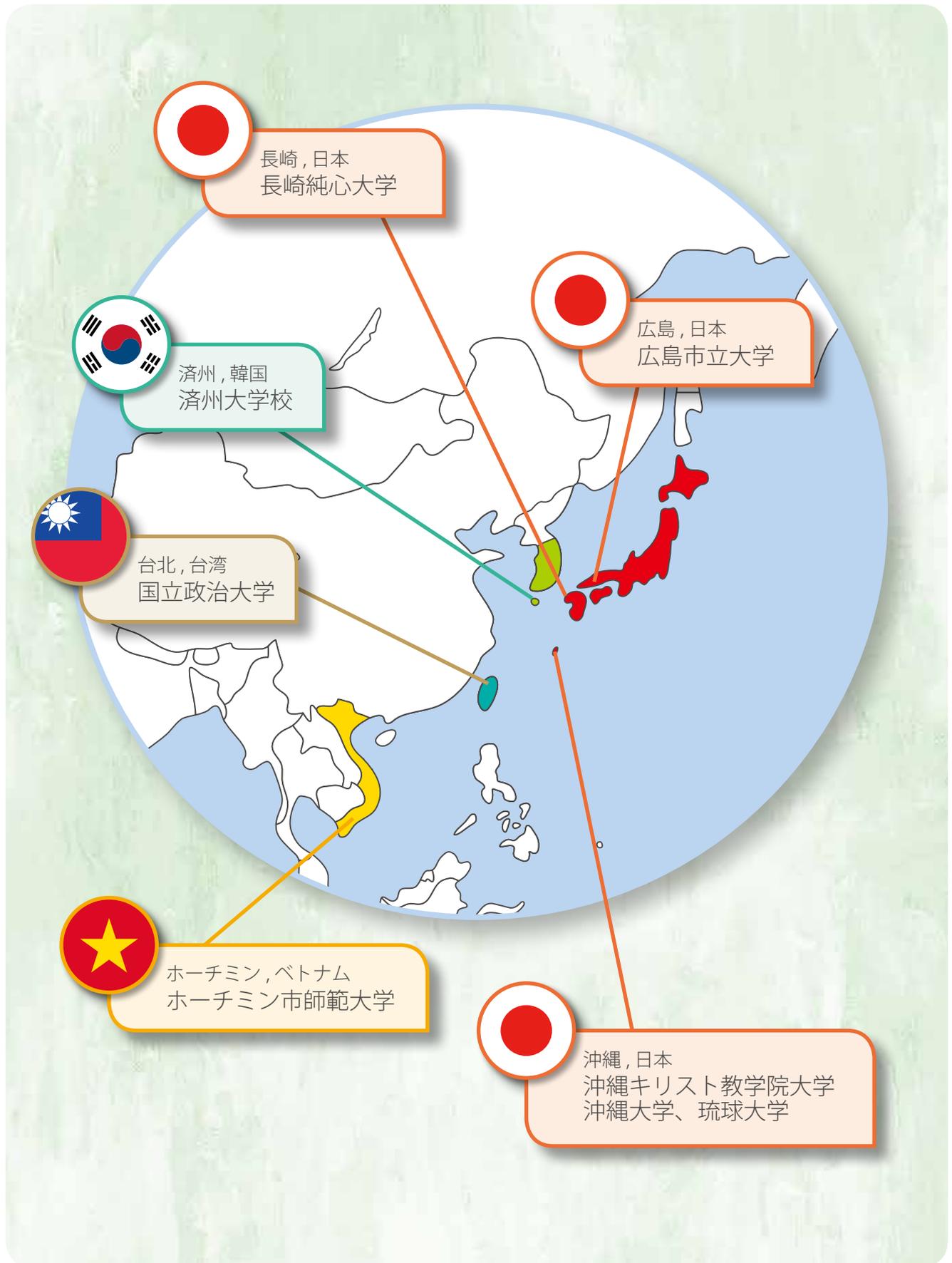
Cao Le Dung Nghi

名前

カオ・レ・ズン・ギー

指導・通訳担当

ホーチミン市師範大学
日本語学部 日本語教員



2 オンライン共同学習

(1) オンライン共同学習の概要

【リハーサル】

「オンライン共同学習」はインターネットを通して web 会議ソフト Zoom を利用し、沖縄と県外、海外をつないで行う。本番に滞りなく通信できるかを確認するため、本番の数日前に、沖縄から各参加地域の指導者のそれぞれのパソコンにつなぎ、リハーサルを実施した。リハーサルでは、各地域のインターネット通信環境を確認するだけでなく、指導者同士の顔合わせ、事務局との打合せのうえ、本番に向けてあらかじめ詳細な確認、調整を行った。

【本番実施日、内容】

2020年11月24日(火)～28日(土)の5日間、各日とも日本時間の14:00から約3時間の日程で、沖縄県、広島県、長崎県、韓国、台湾、ベトナムの参加学生が、あらかじめそれぞれの地域で事前学習してきたテーマについて、パワーポイント資料などを用いて発表し、活発な質疑応答がなされた。

また、本事業は非対面のため、より参加者同士を身近に感じてもらうための工夫として、参加者には、事前学習の際にそれぞれの地域を紹介する5分程度の動画を作成してもらった。学習テーマ発表時に動画を紹介し、お互いが住んでいる地域の理解が深められた。(次ページ参照)

日 程	内 容
11月24日(火)	開会式 講義(沖縄の歴史・文化、沖縄戦と戦後復興)、アイスブレイク、沖縄県制作動画放映
25日(水)	各国地域の学習テーマ発表、質疑応答 広島(広島原爆投下)、沖縄(沖縄戦)、韓国(済州島4.3事件)
26日(木)	各国地域の学習テーマ発表、質疑応答 長崎(長崎原爆投下)、台湾(2.28事件)、ベトナム(ベトナム戦争)
27日(金)	ディスカッション(争いはなぜ起きるのか・平和な状態とは何か)
28日(土)	アクションプラン発表(各地域) 閉会式

(詳細日程9ページ参照)

※日本との時差は、韓国±0、台湾-1時間、ベトナム-2時間で、どの地域も午後の時間帯で無理なく実施できるようにした。

【使用言語】

基本的に日本語を使用言語とした。台湾、ベトナムの参加学生は日本語学部にも所属しており、発表や質疑応答、意見交換は各自日本語で対応できた。また、台湾、ベトナムの指導者は日本語が堪能であるため、必要に応じてそれぞれの学生に通訳した。韓国は現地語での発話であったが、韓国の指導者も日本語が堪能であり、すべての内容を指導者が逐次通訳し学生の理解促進に努めた。

【参加学生作成動画】

沖縄チーム

自己紹介、沖縄の文化、平和祈念公園、首里城など



台湾チーム

2.28 事件記念館、関連映像など



韓国チーム

済州島の映像、済州島 4.3 事件関連施設など



ベトナムチーム

自己紹介、ベトナムの地域、大学の紹介など



長崎チーム

自己紹介、浦上天主堂など



広島チーム

独自で作成した広島市の様子、「平和」とは何かを伝えるビデオなど



【会場】

沖縄からの配信会場は、那覇市の「那覇市人材育成支援センター まーいまーい Naha」のホールを借り実施した。同会場は、インターネット環境が整い、大型スクリーンが完備されており、オンラインでの研修に適していた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3つの蜜（密閉・密集・密接）を避ける対策に適した広い会場であった。

同会場は沖縄の参加学生の拠点でもあり、沖縄チームは5日間を通して同会場に集まった。



【インターネット配信】

インターネットを通して利用するweb会議ソフト Zoom は、インターネットの環境さえ整えば個人のパソコンで容易にオンライン会議などができる。しかし、本事業では、海外を含めた複数の拠点をつなぎ学習を滞りなく進めるため、個人レベルのパソコンでは対応できない。そのため、性能の高い機器を投入し、熟練された技術スタッフがオンライン配信業務を担当した。技術スタッフのきめ細やかな運営で、大きな問題もなく5日間のオンライン共同学習が実施できた。



【司会進行】

オンライン共同学習は非対面であり、参加者同士はスクリーンの向こうにいる。そのため、お互いの距離を感じたり、意見交換も遠慮がちになりかねないことが危惧された。その距離感のある空気を少しでも和らげ、学習の場が楽しい雰囲気になるように、司会進行者は所どころで参加者に対して砕けた質問を投げかけたり、5日間を通して沖縄風の帽子をかぶったりして、参加者の緊張をほぐす工夫をした。参加者は、終始丁寧で行き届き、かつ、楽しい司会進行に満足している様子であった。



(2) 1日目 開会式、アイスブレイク、講義、動画放映

オンライン共同学習の初日は、沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課の開会のあいさつの後、沖縄チームが三線を奏で沖縄の唄を歌って歓迎した。

その後、参加者同士で参加者の地域に関する質問を投げあうアイスブレイクを行った。それぞれの興味・関心のある事柄を質問し合い、楽しいひと時を過ごした。

休憩後に、参加学生に沖縄について学んでもらうため、2つの講義（沖縄の歴史・文化、沖縄戦と戦後復興）を行い、最後に沖縄県制作の平和推進の取組に関する動画を鑑賞した。

参加者学生は、初めて、しかもオンラインで会う者同士で、緊張と距離を感じているようであったが、時間が経つにつれ徐々に緊張もほぐれてきたようであった。

また、参加学生一人一人の参加意識が高く感じられ、非対面という環境にあってもお互いで良い研修にしようという意気込みが感じられた。





沖縄の歴史・文化

石川隆士 | 琉球大学 国際地域創造学部 教授

琉球・沖縄の本質を表現する視点のひとつに、「結」という考え方がある。これは日本の伝統的な考え方である「以心伝心」と比べるとその違いがよくわかる。以心伝心はみんなが同じことを思っているから言わなくても分かるよね、という考えに基づいた言葉である。一方で「結」は、みんながその違いや多様性を尊重しあいながら結びつき、協力し合うという姿勢である。ユイマール、助け合いという言葉にもあるこの考え方の前提には「断絶」があり、だからこそそれをつなぐ必要性、つながることのありがたさが分かる。その意味で、実に沖縄特有の精神であると言える。今日はその「結」というキーワードの下、琉球・沖縄の歴史、文化について話していきたい。



沖縄は日本の南方に位置し、亜熱帯の海に囲まれた島々からなる。かつては琉球王国と呼ばれる独立国家であり、地理的特性から中国や東南アジア各国との交易により独特の文化を形成してきた。当時の琉球王府は、大交易を繰り広げたこの結の精神を「万国津梁（ばんこくしんりょう）の鐘」の銘文として首里城の梵鐘（ぼんしょう）に刻んだ。その大意は、「琉球は、南海の恵まれた地域に位置し、朝鮮のすぐれた文化を集め、中国や日本とは重要な関係にあり、この二つの国の中間にある理想的な島である。船を通わせて諸国の架け橋となり、各国の産物や宝物は琉球にあふれている」という内容で、東アジアをまたにかけた王国の自信と誇りに満ちあふれている。しかし琉球王国は1609年の薩摩藩島津氏（鹿児島）からの侵攻をきっかけに日本政府の支配下に置かれるようになり、1879年に明治政府によって「沖縄県」が誕生した。

交易時代の技術や交流は、南国風土の中で独特の文化に昇華した。沖縄は空手発祥の地と呼ばれ、中国の舞踏術の影響を受けたと言われている。敵を倒すためではなく友達にするその技術は、まさに結の精神に基づくものと言える。また、琉球舞踊は琉球王国時代に中国からの「冊封使」をもてなす舞台芸術として発展し、こうした舞踊の役割も結の精神を示すものと言えるだろう。加えて沖縄の伝統的な料理もこの時代の影響を受け今なお進化し続けており、海の幸や野菜、豚肉などのヘルシーな食材を用いることで、健康志向の現代を牽引している。

以上のように沖縄・琉球の歴史と文化は常に近隣諸国との交流によって形成され発展してきた。国と国との関係はともすれば対立になりかねないが、歴史を見ても分かる通り沖縄・琉球の人々はそれを交流・融合の機会と捉えてきた。現在沖縄は基地問題という大きな対立に向き合っているが、それを柔軟に取り込み歴史・文化の豊かさへ還元してゆく結の精神を持っていることは疑いがなく、おそらくこれも未来の大きな平和・幸福へのプロセスなのだと思う。その意味でこのグローバル時代において「結」の精神はもっとも必要とされるものであり、21世紀の新たなる世界の架け橋、万国津梁として沖縄はその経験を生かしていくことになるだろう。

質疑応答

沖縄の伝統料理の中で特に発展した料理があれば知りたい。 | 韓国

美味しい料理が多いので難しい。沖縄の外から見た場合と中から見た場合で違うと思うが、中でも沖縄そばはたくさんの種類がある。ゴーヤーチャンプルーなどは割と味の統一があるが、沖縄そばは各地域でそれぞれの味で発展してきていると思う。



カチャーシーはなんのために踊るのか？ | 沖縄

カチャーシーとは「かき混ぜる」という意味で、大本には融合させていくという意味がある。様々な人が集まる場を融合させるものであり、セレモニーや結婚式などで踊られるのもそういう意味合いだと思う。先程の質問で出てきた「チャンプルー」もかき混ぜるという意味。このあたりが「結」の精神に通じているかと思う。



以前琉球大学の学生と交流する機会があり、その時シーサーというものを教えてもらった。これはどういうもの？ | ベトナム

これは獅子の守神で、一方が口を開け一方が口を閉じているのが特徴である。口を開けている方で幸運を招き、口を閉じている方で邪悪なものを締め出すということである。(石川)

シーサーは家の前や玄関などにいることが多く、小さな人形としてつくることもある。(沖縄チーム)

世界遺産の首里城が昨年燃えてしまったときの心情を教えてください。 | 長崎

マブイ（魂）がなくなってしまうようで、意気消沈してしまった。しかしもう一度建て直そうという気持ちがみんな強く、単に地域だけでなく時間も超えてつないでいこうとする力を感じている。(石川)

首里城はよく行く場所ではなかった。私は2、3回しか行ったことがなく、一度も行ったことがない人もいる。でも実際に燃えてなくなってしまう時は信じられなかった。首里城と一緒に見えない何かがなくなってしまうようで寂しくなった。しばらくは燃えた首里城を見ることができなかった。(沖縄チーム)

自分も落ち込んだ。首里城には沖縄人としてのアイデンティティが詰まっていたのかなと思う。首里城がなくなったことで沖縄の人が自らの拠り所を理解してそれに向かって歩いていくということが今までよりも強くなったので、「結」の精神を再確認できたと実感している。(沖縄チーム)

沖縄戦と戦後復興

大城 航 | 元社会科教諭 沖縄歴史教育研究家

沖縄戦

沖縄戦とは、一般には1945年3月の終わりから9月にかけておこなわれた米軍による戦闘を指し、日本と主に中国、アメリカが繰り広げた15年戦争、アジア太平洋戦争の最終盤の戦いである。1941年、日本軍が真珠湾を攻撃、東南アジア各地に侵攻してアジア太平洋戦争が勃発するが1943年には米軍が優勢となり1944年にはサイパン島を米軍が占領した。そして日本本土を攻撃するための前線基地として沖縄の占領が計画された。



1945年3月23日、米軍は沖縄攻略作戦を開始し、26日には沖縄島の西にある慶良間諸島に上陸、4月1日には沖縄島の中部西海岸に上陸した。当時、日米の戦力においては日本軍が圧倒的に不利であった。そのため住民を根こそぎ動員し、兵隊や軍の補助として使っていて、これは沖縄島の北部から南部どの地域でも同じだった。

沖縄は小さな島であり、住民は逃げることもかなわず「鉄の暴風」の犠牲となった。しかし、地理的な要因だけが犠牲をつくったのではなかった。要因の一つとして日本政府による意図的な情報の発信があげられる。日本の兵隊は「アメリカ軍につかまると男は戦車の下敷きにされ、女はレイプされた後に殺される。弾にあたりたり自殺した方がましな死に方ができる」という話を流し続けていた。これは政府によって意図的に流された情報で、当時の女性週刊誌にも「鬼畜米兵（アメリカは鬼や動物よりも野蛮であるという意）」という言葉や、アメリカ軍は恐ろしい存在であるという旨の記事が掲載されている。特に10代の若者はそういった情報を信じ、自殺あるいは突撃して亡くなった。当時9歳だったある女の子は、初めてアメリカ兵を見たときに「鬼だというけど人間に似てるね」と思ったという。また、極度の食糧不良状態に陥ったことも多くの犠牲者を出した要因である。特に石垣島や波照間島では住民が森や山の中に強制的に避難させられ、マラリアや栄養失調で約3,600人の方が犠牲となった。宮古諸島や八重山諸島では、空襲はあったが米軍の上陸はなく地上戦は行われなかった。しかしこれだけ多くの死者が出た。弾が飛ぶことだけが戦争ではない、ということである。

沖縄戦の学習をするとき、ほとんどの内容が住民の被害で終わってしまう。しかし沖縄戦では台湾や朝鮮の方も犠牲になった。太平洋戦争においては沖縄の人々も大陸に出征し、中国や東南アジアの多くの人びとに被害をあたえている。また、台湾では沖縄の者が教師として日本語を教えるなど、植民地支配に協力していたこともあった。日本軍は理解できない言葉を恐れ、琉球諸語を使ったものをスパイとして処刑していた。この日本語を徹底的に教え現地の言葉を封じる、という動きは台湾や朝鮮、東南アジアや南洋諸島でも同様であった。実は台湾や朝鮮での日本語教育の方法は、沖縄における日本語教育の成果と反省をもとに実施された様子が見えてくる。沖縄人は日本語を修得し日本人になることで、差別から逃れ支配者側に立とうとした。このような点において、沖縄人は植民地支配や民族差別において被害と加害の両面を持っていたといえる。私たち沖縄人は戦争による被害だけでなく、植民地支配や徴用工・慰安婦といった帝国日本の加害の面も見なければならない。しかし、その面が不十分なことが現在の沖縄戦学習の大きな課題といえるだろう。

戦後復興

沖縄戦の結果、沖縄は米軍が統治することになった。米軍は住民を収容所に隔離している間に多くの土地を接収しており、現在日本において問題になっている普天間飛行場も民間地を接収してつくられたものである。部隊の拡大や訓練地の拡張から、さらに多くの土地を米軍は求め、1953年には、銃剣を突き付けて住民を制止させ、ブルドーザーで家・畑をつぶしフェンスで囲っていった（銃剣とブルドーザー）。それに対し沖縄の住民は「島ぐるみ闘争」という大規模な反対運動を起こした。これ以後沖縄では米軍の統治を否定し、日本にもどる「復帰運動」が起こるようになった。

1965年にアメリカ軍がベトナム戦争に本格的に参戦し、沖縄の米軍基地はその最大の拠点となった。浦添市にあるキャンプ・キンザーは「ミサイルからトイレトーパーまで」が集積・保管され、ベトナムへと輸送された。米軍基地が活発化するなかで、基地での雇用や米兵を相手とした飲食業を中心に経済が活発化する「ベトナム景気」がうまれた。しかし、この戦争がアメリカにとって正義のない戦争であること、戦争の残酷さがテレビなどを通して伝わり世界各地でベトナム反戦運動がおきたことなどから、沖縄でも反戦運動が活発化した。この戦争において、沖縄の人びとは米軍基地を通してベトナムの人びとに対し、加害の側となった。ベトナム戦争は近年も米軍による枯葉剤の使用によりダイオキシン汚染に苦しんでいる人々がいたり、2013年に沖縄県内の基地返還跡地からダイオキシンを含んだ物質が入った大量のドラム缶が発見されるなどして、米軍を通して沖縄にも大きな影響があった。

その後沖縄は軍隊のない島をめざし復帰運動が一気に盛り上がり、1972年に日本に復帰し、沖縄県が復活した。

沖縄の歴史は東アジアとつながりながら変遷してきた。特に沖縄戦や米軍統治は東アジアの国際状況の影響を受けてきた。米軍統治下の車のナンバープレートには「キーストーン オブ パシフィック」、太平洋の要石、と書かれており、米軍が沖縄をアジア戦略の拠点と位置付けていたことがわかる。そしてそれは台湾の2.28事件、朝鮮戦争、ベトナム戦争、核兵器の拡大へとつながった。沖縄が平和で豊かな島になるには、世界、特にアジアの歴史や社会を知り、情報をつかみ、対応していかなければならない。

戦争や軍の統治という歴史体験から、沖縄は最も大切な言葉として「命どう宝」という言葉を訴え続けてきた。「命どう宝」とは「命は宝」という意味で、これはみなさんはあたり前のことだと思っているかと思うが、はたしてそうか。人は戦争を始めるとき、戦争のさなかに、国・民族・政治体制・正義を最も重要なものとして訴える。そして大きなもののためには小さな命は犠牲になっても仕方がない、と考えがちである。それが戦争の論理である。そして「大きなもののための犠牲」は「かっこいいもの」とする風潮があり、たびたびエンターテインメントとして消費される。しかし、実際の戦場においては、弱い者から犠牲になっていき、そしてその死はいつも無惨で悲しいものであった。国籍・民族・性別・門地・障がいの有無・年齢に関係なく、ただ生きているということだけでその命が尊重される、という社会を目指さなければならない。「命どう宝」という言葉は、その重い宿題を私たちに突きつける言葉なのだと私は考えている。今回の研修で、この宿題の答えに少しでも近づけるような、実りのある交流ができれば幸いである。

質疑応答

沖縄の言葉を使える人は現在どのくらいいるか、今その言葉をどうやって守っているか知りたい。 | ベトナム

うちな一ぐちを話せるのは主に高齢者の方方で、40代以下で話せる人はほとんどいない。ユネスコでもうちな一ぐちは危機言語として指定されており普及もうまくいっていないのが現状。若い世代と一緒に考えていくべき宿題だと考えている。

ベトナム景気について詳しく教えてほしい。 | ベトナム

ベトナム戦争時にアメリカ軍は一度沖縄を中継していた。そのため米兵向けの商売や雇用がうまれ沖縄の人たちに収入が入るようになった。その結果沖縄の経済がよくなり、これがベトナム景気と呼ばれるようになった。

神風特攻隊とはなにか、どうして沖縄戦でそれが戦術として採用された？ | ベトナム

沖縄における神風特攻とは、米兵の船に飛行機で体当たりする作戦である。当時ガソリン・爆弾を含む物資が不足していたためこの作戦がとられ、船だけではなく地上でも、戦車の下に兵士が潜り込んで車体を爆破させるなど、同じような作戦が行われていた。この作戦は国のために犠牲になることは、かっこいいものだとする風潮が当時あったが、実際は物資がないため行われたことで、ほぼ強制的であったことがわかっている。

ベトナム戦争の枯葉剤により沖縄で被害を受けた人はいるか？ | ベトナム

枯葉剤で直接的な被害を受けた住民がいたという話は聞いたことがない。ただ、枯葉剤を扱っていた米兵の中ではかなり被害が出たと聞いている。

四原則貫徹について詳しく知りたい。県内で米軍向けに商売をしている人たちとの対立はあった？ | 沖縄

これは「土地を守る四原則貫徹県民大会」と呼ばれ、瀬長亀次郎らを中心とし、米兵に対して、新しく土地を奪うことは許さない、土地を利用するならお金を払うように、といったことを求めた訴えである。これに対し米軍は沖縄の飲食店の利用を禁止する命令（オフ・リミッツ）を出したため、飲食店などに携わる人は四原則貫徹の訴えに消極的だった。しかし、米軍相手の商売をしても大会に足を運ぶ人もいた。そのような人々は経済的な苦しさもあったが、米軍からの理不尽な扱いに対し釈然としないものを抱えながら将来のことを鑑み参加していた。米軍や日本による支配の中で、沖縄にはこのような複雑な賛成・反対の両側面がある。その上で僕たちがどんな世界をつくっていくかというのはとても難しいが、多面的な掛け橋になるのが沖縄だと思う。

どうして若い男性が軍隊に参加しなければいけなかった？ | ベトナム

日本軍は圧倒的に兵力がたりなかったため、子供はもちろんお年寄りまで全ての住民を軍隊のために動員した。学校がそのまま部隊になり、男子生徒は戦闘や弾丸の運搬、女子生徒は治療や手当ての補助として送り込まれたため若い人々が戦場に行くことになった。当時は国民は天皇につかえるもので、軍隊に入る



のはかつていいという社会背景があった。沖縄戦の数十年前からそのような教育が行なわれており、その先に沖縄の子供たちがいたと言える。

アメリカが沖縄にもたらした、何か良いことはあるか？ | 台湾

文化はかなりユニークになったと言える。米軍を相手にしたジャズやロックが発展し、沖縄の音楽は日本国内でも有名なジャンルになった。食文化についても、メキシコのタコスと融合したタコライスなどがある。外国の文化を取り入れて新しい文化を作っていくという、たたでは転ばない姿勢がある。こういったものがアメリカがもたらした良さと言えるかもしれないが、私は沖縄の人たちの強さによるものだと思っている。また、米軍統治の苦しい歴史を歩んだからこそ、いろいろな視点で行動する人々が生まれ、民主主義を実感として追い求める地域になっているのではないかと。それが米軍統治から学んだことではないかと思う。



(3) 2日目 各地域発表（広島、沖縄、韓国）



広島 テーマ：広島原爆投下



1941年12月に始まった太平洋戦争は、翌年6月には日本の劣勢に転じました。1944年中頃からは軍事施設の他に全国の大・中都市が無差別爆撃を受けるようになりました。夜は空襲警報が鳴るたびに逃げなければならない、配給される食べ物も十分になかったため、人々はいつも寝不足、栄養不足という状態でした。アメリカが1942年から国をあげて開発していた原子爆弾の実験が成功したのは、1945年7月16日のことでした。



1945年8月6日午前8時15分、広島市にて、世界で初めて原子爆弾が人間に対して使われました。この一発の原爆によって、広島では、1945年12月末までに約14万人（±1万人）の人々が犠牲になったと推計されています。当時広島には、日本が植民地として支配していた朝鮮、台湾、中国大陸から移り住んだり、強制連行されたりして日本に来ていた人、東南アジアからの留学生、捕虜となっていたアメリカ兵などの外国人もいました。これらの人々もひとしく原爆の惨禍に遭いました。



爆心地から2km以内、図に赤茶色で示されている範囲の建物は全壊・全焼しました。ひとつの家族の人間が全員犠牲になるのも珍しいことではなく、住民を特定する書類なども燃えてしまったため、正確な死者数を把握することはできません。



広島被害についてお話しする前に、戦前の広島がどんな街だったかを紹介します。爆心地となった場所がかつて、民家の他に旅館、映画館や商店が立ち並ぶ繁華街でした。スライドに写っている模型は、被爆前の広島町を再現したもので、今はこの場所はすべて平和公園になっています。



広島市には、街を縦断するようにいくつもの川が流れています。近くに住む子どもたちは、夏は川で一日中泳いで遊びました。



世界遺産にもなった「原爆ドーム」は、被爆前は「産業奨励館」という施設でした。まるでドームが特徴的な作りで、物産展が開かれたり、市民の絵などの展示会が開かれたりしていました。その後建物は原爆によって全焼し、鉄骨の骨組みやレンガだけが残りました。そのとき建物内で働いていた約30人の人々は、大量の放射線被爆や熱線、爆風によって即死したと推定されています。



ここからは、被爆後の広島についてお話しします。8月6日の朝は天気もよく、午前7時31分には前日の夜から繰り返されていた警戒警報も解除されて、広島の人々は安心してそれぞれの一日を始めていました。



本日は、サーロー節子さんの被爆証言を紹介します。サーロー節子さんは、13歳の時に爆心地から1.8キロのところまで被爆しました。原爆によって多くの家族や友人をなくした経験などを世界で語り、核兵器廃絶への強い思いを訴えています。



サーロー節子さんの証言に合わせて市民が描いた原爆の絵をみていただきます。1974年に国営放送局の広島支部が「市民の手で原爆の絵を残そう」と呼び掛けたところ、被爆者自身が原爆の惨状を描いた多くの絵が寄せられました。原爆の絵は写真とも証言とも違う、被爆者がその時目にした光景を頭の中でどのように記憶しているかを感じることができます。今日はそのような原爆の絵とともに、サーロー節子さんの被爆証言の一部を紹介していきたいと思えます。



私が13歳の時、米国が最初の核兵器を私の暮らす広島に落としました。私は今でも鮮明にその朝のことを覚えています。8時15分、私は窓から目をくらす青白い閃光を見ました。私は、宙に浮く感じがしたのを覚えています。



静寂と暗闇の中で意識が戻ったとき、私は、自分が壊れた建物の中で身動きがとれなくなっていることに気がつきました。私の同級生たちが「お母さん、助けて。神様、助けてください」とかすれる声で叫んでいるのが聞こえ始めました。



そのとき突然、私の左肩を触る手があることに気がつきました。その人は「諦めるな、踏ん張れ。私が助けてあげるから。あの隙間から光が入ってくるのが見えるだろう？そこに向かって、なるべく早く、はって行きなさい」と言うのです。



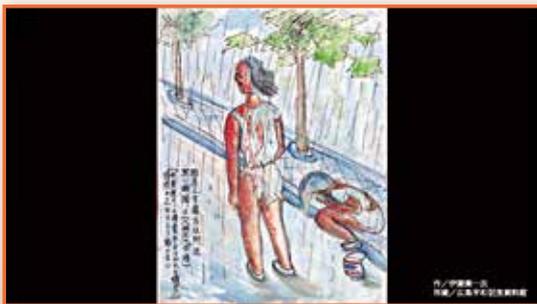
私はそこからはい出てみると、崩壊した建物は燃えていました。その建物の中にいた私の同級生のほとんどは、生きたまま焼き殺されていきました。私の周囲全体には異常な、想像を超えた破壊がありました。



幽霊のような姿の人たちが、足を引きずりながら行列をなして歩いていきました。恐ろしいまでに傷ついた人々は、血を流し、火傷を負い、黒こげになり、膨（ふく）れあがっていました。体の一部を失った人たち。肉や皮が体から垂れ下がっている人たち。飛び出た眼球を手を持っている人たち。お腹が裂けて開いている人たち。そこから腸が飛び出て垂れ下がっている人たち。人体の焼ける悪臭が、そこら中に蔓延していました。



このように、一発の爆弾で私が愛した街は完全に破壊されました。住民のほとんどは一般市民でしたが、彼らは燃えて灰と化し、蒸発し、黒こげの炭となりました。その中には、私自身の家族や、351人の同級生もいました。



その後数週間、数カ月、数年にわたり、何千人もの人たちが、放射線の遅発的な影響によって、次々と不可解な形で亡くなっていきました。今日なお、放射線は被爆者たちの命を奪っています。



広島について思い出すとき、私の頭に最初に浮かぶのは4歳の甥、英治です。彼の小さな体は、何者か判別もできない溶けた肉の塊に変わってしまいました。彼はかすれた声で水を求め続けていましたが、息を引き取って苦しみから解放されました。私にとって彼は、世界で今まさに核兵器によって脅されているすべての罪のない子どもたちを代表しています。毎日、毎秒、核兵器は、私たちの愛するすべての人を、私たちの親しむすべての物を、危機に

さらしています。私たちは、この異常をこれ以上許してはなりません。これがサーローさんがノーベル平和賞受賞式でされたスピーチの一部です。



ここからは、原爆によって起こったことを、いくつかの特徴に分けて話していきます。原爆は炸裂すると一瞬で巨大な火の玉になり、強烈な熱線が発せられます。頭上に小さな太陽が現れたようなものですから、地表の温度は3000℃から4000℃にもなり、これが人間の皮膚に一瞬で重度のやけどを負わせます。



広範囲に重いやけどをするため、皮膚がはがれてしまいます。腕からはがれて爪の先から垂れた皮膚が地面につかないよう、手を胸の高さまで上げた格好が日本の幽霊のポーズと似ているため、サーローさんの話にもでてきたように、しばしばその光景は「幽霊の行列」と表現されます。



やけどの跡はもとの皮膚のように戻らず、「ケロイド」という皮膚が赤く盛り上がった状態になりました。ケロイドは痒みや痛みを伴い、ケロイドのある箇所が突っ張ってうまく動かせなくなります。またその見た目から気味悪がられることもあり、とりわけ若い女性にとっては、大きな精神的負担になりました。



一瞬の熱線の次にやってくるのが爆風です。当時の日本の建物、特に一般市民が住む家は木造だったために、家は一瞬で爆風に押しつぶされ、外にあったものや人は吹き飛ばされ、割れて飛散したガラスやさまざまなものが銃弾のように飛んで人の体に突き刺さりました。



一瞬の熱線と爆風による破壊のあとは、火災が街を焼き尽くしました。建物に押しつぶされて抜け出せない人は生きたまま焼かれました。



自力で抜け出せた人も火の手に追われ、親を、子どもを、きょうだいを、友達を置いて逃げるしかありませんでした。この体験は、戦後も「自分が見捨てた」という罪の意識となって被爆者を苦しめました。



原爆による人間への影響は、原爆投下直後だけでなく、被爆者の一生にも大きな影響を与えています。これからその中の一つである、放射線障害について紹介します。

放射線被爆には、いくつかの種類があります。原爆が炸裂した瞬間発せられた放射線によって被爆すること、放射線物質が含まれたちりやほこりを吸い込むこと、黒い雨などです。原爆投下時に広島にいないくても、その後広島にやってきた人が放射性物質を

含んだちりやほこりを吸い込んだことによっても被爆しました。これを入市被爆といいます。また黒い雨とは、原爆投下後しばらくしてから広島市の広範囲に降った放射性物質を多く含んだ雨のことです。熱線や爆風、火災などの被害を受けなかった人々も、これによって被爆しました。



次に、放射線による影響について説明します。放射線による影響は、主に三つに分けられます。一つ目が、急性放射線障害です。多くの放射能を体内に取り込んだことが原因で、脱毛、吐血などの症状が現れ、外傷がなくても突然死に至ることがあります。全員がなくなるわけではなく、回復する人もいました。別名「原爆症」とも呼ばれます。二つ目は後障害です。被爆後、何年、何十年とたつてから白血病やがん、多重がんを発症することです。

いつ自分が病に侵されるかわからないという不安が一生を付きまといます。

最後に、日常的な体への影響を説明します。被爆したことが原因で疲れやすくなる、体がだるくなる、免疫力が低下するなどといったことがあります。これらの症状は「ブラブラ病」と揶揄され就職に影響したり差別に繋がったりしました。



「ブラブラ病」以外にも、被爆者は差別に苦しみました。被爆者に対する世間の目は冷たく、原爆に関する正確な情報がわからないために差別につながりました。「ピカの毒がうつる」と言われたり、生まれてくる子供に影響があるのではないかという考えがあったため、被爆者であることを隠して生きていくしかありませんでした。



ここまでで原爆による被害の紹介は終わりとしします。結びとして、75年前に広島で被爆し、現在に至るまで反核活動に関わり続けているサーロー節子さんのスピーチの一節を振り返りたいと思います。「広島について思い出すとき、私の頭に最初に浮かぶのは4歳の甥、英治です。彼の小さな体は、何者か判別もできない溶けた肉の塊に変わってしまいました。彼はかすれた声で水を求め続けていましたが、息を引き取って苦しみから解放されました。

私にとって彼は、世界で今まさに核兵器によって脅されているすべての罪のない子どもたちを代表しています。毎日、毎秒、核兵器は、私たちの愛するすべての人を、私たちの親しむすべての物を、危機にさらしています。私たちは、この異常をこれ以上許してはなりません。」以上で発表を終わります。

質疑応答 ◆広島への原爆投下

Q 広島では、小学校だけでなく中学校・高校でも平和学習の機会がある？（沖縄）

A 広島県の教育委員会の方針で、小中高に平和教育のカリキュラムが組まれているが、中学・高校では少ない。平和教育は主に小学校で週1回の道徳の授業などで行われている。

Q 広島市レベルで、核兵器の抑制に対して何か取り組んでいることはある？（韓国）

A 北朝鮮の核実験などが行われた際には、市として抗議文を送ったりしている。長期的な視点では、平和記念資料館を中心に様々な平和教育を実施し、核兵器の危険性や現在の状況を伝え、反核の機運を高める活動をしている。広島市と長崎市が中心となって、市長レベルで核兵器廃絶に向け協力する団体もある。

Q 戦争を起こさないために、私たち若い世代は何をしたらいいと思う？（ベトナム）

A 現在広島では、戦争被害を知るだけでなくこれからの平和に向けて何ができるかについて学ぶ機会を増やしている。戦争を回避するために戦争について考えてしまうこともあると思うが、私たちは日々の生活の中でも平和を意識して、二度と戦争が起こらない世界を目指して過ごしている。

Q 原爆の悪影響は今でも残っている？（ベトナム）

A 存命の被爆者は、放射能により多重がんなどを発症し、精神的・肉体的にも負担を抱えている。被爆二世への影響は今のところ確認されていないということになっているが、妊娠中に被曝した方の子供については原爆小頭症と呼ばれる影響が出た。それより下の世代へは、今のところ原爆の被害はないとされている。

Q 原爆の影響を受けた方々に対して何か支援はある？（ベトナム）

A 被害直後は混乱が続き十分な支援がなかったが、徐々に法整備が行われて、現在は「被爆者手帳」と呼ばれる手帳がある。これを所持する被爆者の方は医療費の一部免除や無料の健康診断などの手当を受けることができ、海外在住の方にも配布されている。

Q 世界で唯一の被爆国である日本が核兵器禁止条約に参加していないことについて、どう感じているか聞きたい。（台湾）

A 個人的にはがっかりしている。日本政府は世界の中でも核兵器廃絶に向けて積極的に動くべき立ち位置にあると思っているので、賛同するべきだと思う。





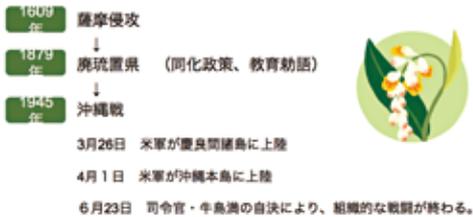
沖縄 テーマ：沖縄戦



アウトライン

1. 沖縄戦までの歴史
2. これからの課題

1. 沖縄戦までの歴史



沖縄はかつて琉球国として独自の歴史があり、東アジア各地域の架け橋として交流し繁栄しました。そして、東アジア共同体とも言える冊封体制の中で、様々な芸能や文化が花開いた時代でした。ですが、1609年の薩摩侵攻により日本の支配下におかれ、1879年の琉球処分（廃琉置県）で日本に統合されました。そこからは日本人になることを強制し、言葉や文化を奪う同化政策や教育が行われ、沖縄戦では地獄をもたらす原因となりました。



琉球藩が沖縄県となり、日本の一部となったのでそこに同化政策というのが施されました。日本へと同化させるために、琉球独自の文化が廃止されました。女性の手に入れられていたハジチも、毛遊び（もうあしびー）と呼ばれる若者の遊びも、禁止されていきました。



言葉でさえも、禁止令が出されました。日本語ではない言葉、沖縄の言葉を使うとこの方言札を首にかけられて、あたかも悪いことをして罰を受けているような感覚にさせられました。



教育勅語は、国民が守るべき道徳であり教育の基本理念として、全国の学校に配られました。戦争時に天皇のために命をかけることを強制する内容で、国民に天皇への忠誠を誓わせました。



こちらの写真は、皇民化教育を表す現存する建物で、奉安殿といいます。写真の奉安殿は、戦前、美里国民学校の敷地にありました。燃えないようにコンクリートでできており、かつてこの中には御真影とよばれる天皇の写真と教育勅語が入っていました。生徒は、ここの前を通る時は最敬礼するよう徹底されていました。



国は学校教育の中で、太平洋戦争は正義の戦いであると生徒たちに教え込みました。そして国を愛し、国の為に命を捧げることが何よりも大切なものであると毎日のように教えられました。そして、1925年の陸軍現役将校学校配属令の公布により、中学校以上の教育機関で軍事教練が実施されました。1928年、青年訓練修了者検定規程を公布し、軍事教練を成績に加えた。武器の使用法や行軍などが国語や数学と同様の正科目になりました。



戦前、沖縄には 21 の旧制中学校があり、沖縄戦では、これらすべての男女中学校から生徒が法的根拠もないまま戦場に動員されました。男子生徒は 14 歳から 19 歳で、上級生が日本軍の物資運搬や築城、対戦車用急造爆雷による体当たり攻撃などを担う鉄血勤皇隊に、下級生が通信隊に配属されました。中には 13 歳の学徒もいました。女子生徒は 15 歳から 19 歳で、従軍の看護助手として配属されました。学徒隊の戦死者は 2,000 人以上だといわれています。

実際の動員数と戦死者数はまだまだ不明のままです。写真は県立第一中学の生徒たちが銃の手入れをしている様子です。



沖縄県はどこにあるでしょうか。1 番南にある小さな島です。沖縄は昔、日本から植民地化にされ、日本側からは日本人と認められなかったことが、この戦争でもその一面を考えさせられます。沖縄戦は、日本本土を守り、時間を稼ぐことを目的とした戦いで、沖縄は日本の「捨て石」にされたのです。



この海は沖縄でもとても綺麗な海で有名です。この写真は渡嘉敷島の海です。しかし、そんな綺麗な海を代表する渡嘉敷島は沖縄戦により、心に傷をおった島でもあるのです。



右上の写真をみてください。追いつめられた住民は、昭和 20 年 3 月 28 日、この碑後方の谷間で集団自決がありました。

手留弾（左上）、小銃、かま、くわ、かみそり（下の写真）など道具を持っている者はまだいい方で、武器も刃物も持ち合わせない者は、縄で親兄弟の首を絞めたり、首を吊ったり、この世のできごととは思えない凄惨な光景の中で、自ら生命を断っていったのです。皆さんは愛する家族を手にかけるという

ことを想像できますか？そのときは、手をかけた人も家族のためを想い、行ったことなのです。家族をも手にかけた「集団自決」の犠牲者は、沖縄本島を合わせて少なくとも千人に上ります。想像を絶する惨事を私たちは忘れてはなりません。



日本軍による
追い出し

沖縄戦では、本来、住民を守るはずだった日本兵から、壕を追い出された人々が存在します。攻撃を逃れて、住民のいる壕に逃げ込んできた日本兵たちですが、長期戦を考えていた彼らは、住民のいた壕を拠点にします。そこで、住民たちは作戦の邪魔になるため、日本軍による追い出しが行われました。



日本軍による追い出し

砲弾が飛び交う中
行き場を失う人々 食料も強奪
一方的な 立ち退き命令

実際に日本軍に壕を追い出された人の日記に書かれた体験談を紹介します。「突然日本軍の兵士がやってきて、この壕は作戦上軍が利用するので、君たちは出て行きなさい、と日本刀をかざして命令された。追い出された住民たち砲弾飛びかう中、行き場を失ってしまった。」壕を追い出された人の証言は数少ないといわれています。



2. これからの課題

これからの課題についてお話しします。



課題 ~戦争経験者とのギャップ~

●沖縄の若い人や
県外から来る観光客に、沖縄の歴史・戦争・アイデンティティについて興味を持ってもらうためには…?

沖縄の現状として、戦争を経験していない世代が大多数で、若い世代が戦争経験者の苦しみに分からないといったギャップがあります。観光地や移住先として人気の沖縄ですが、県外からは海や、めんそ〜れ〜（いらっしやいませ）の雰囲気が好きで、表面的なところは見ますが、沖縄のディープな部分を見ない傾向があると感じています。それを踏まえ、沖縄の若い人や県外から来る観光客に、沖縄の歴史・戦争・アイデンティティについて興味を持ってもらうために次のことを提案します。



もし、家に帰ると
おうちがなくなっていたら…？

ひとつめは、ロールプレイを行って実感する解決策があります。例えば、普天間基地により、強制的に土地を奪われた宜野湾市民の気持ちを知る為に、実際に行われたロールプレイを紹介します。

ロールプレイの方法は、このようなものです。宜野湾市〇〇、といった地名が書かれた札を参加者に配る→一旦全員、部屋を退室→合図で部屋に戻ると、一部の札の人の机や椅子がない。

このロールプレイは、今の宜野湾市の始まりを表しています。普天間基地は、1945年の沖縄戦の最中に住民が収容所に入れられている間に建設され、帰ってきた住民はやむを得ず米軍に割り当てられた基地周辺の地域に住みました。現在は、住宅街の中にある危険な普天間基地の閉鎖にともない、辺野古新基地建設が進められています。沖縄県の民意としては、辺野古新基地建設に「反対」を主張しておりますが、政府は「普天間基地問題の唯一の解決策は辺野古への基地建設である」という姿勢を変えず、建設は強行的に進められています。もし、皆さんが何らかの事情でしばらく家を空けていて、帰ってくると家がなくなって知らない人たちの集落になっていたらどうしますか？ロールプレイは、自分に置き換えて疑似体験ができる良い例です。

このロールプレイは、今の宜野湾市の始まりを表

興味は、共感から始まる。

興味は、共感から始まります。ロールプレイ以外に共感してもらう案を今からお伝えします。



例えば、観光事業の一環で、沖縄の史跡や資料館を訪れた人にその場所の戦時中の様子をVRで再現し、見せる案です。皆さん、想像してみてください。平和祈念公園へ行って摩文仁の海のところでVRをつけたとき、血を流して倒れる人々の様子が目の前に広がるとどうでしょうか。こんな光景を繰り返してはいけないという気持ちになると思います。



戦後の沖縄には、表現活動でうちなーんちゅを励ました人物がいます。

「沖縄のチャップリン」と呼ばれた、小那覇舞天（おなは ぶーてん）という芸人は、悲しみに暮れるうちなーんちゅに「ぬちぬぐすーじさびら、（命のお祝をしよう）」と言って、笑いで励ましました。また、同じ時期に、平良新助（たいら しんすけ）という男性は戦後の沖縄復興のために「ひやみかち節」という応援ソングを作りました。「ひやみかち」は、エイッ！

と気合を入れる意味で、「ひやみかち節」はテンポが早く、明るいメロディで元気が湧いてくる曲です。彼らのように、表現を通して平和を訴えかけることも共感を得るために有効な手段です。

沖縄県は毎年、慰霊の日に行われる戦没者の追悼式で、児童や生徒によって平和の詩が朗読されます。これに加えて、詩の朗読以外にも、歌やラップ、ダンス、演劇、絵画や文学作品など、ジャンルを多様にし、子どもから大人まで各世代の思いを共有できるフリースタイル形式のイベントを開催することを提案します。色んな人に興味を持ってもらう入り口をつくるのが大切です。

課題 ~義務教育~

●地域や学校で沖縄の教育についてバラツキがある。

●沖縄の同化の歴史や沖縄戦に至るまでの流れを知らない人が多く、現在の沖縄が置かれている状況を批判せず受け入れている。



地域や学校で沖縄の教育についてバラツキがあります。沖縄の同化の歴史や沖縄戦に至るまでの流れを知らない人が多く、現在の沖縄が置かれている状況を批判せず受け入れています。

住宅街や学校のある地域に基地があること、頭上で米軍のヘリが飛んでいてもあたりまえで、これが沖縄の日常として受け入れられていることが問題だと思います。

解決策

小中学校向けに、
県で共通の教科書を作る！

沖縄の人々が、琉球史と沖縄戦の基礎を知っている状態にする。



教育の問題の解決策として、沖縄県独自の教科書を作る案を提言します。琉球史・沖縄戦の基礎の教科書を作り、県内の小中学校で取り組んでもらい、皆が琉球史や沖縄戦の基礎を知る教育をします。現在は小中学生の時に琉球史を学びたくても、「日本史」の教科書のたった2ページ分の情報でしか勉強できません。同化の歴史があって、沖縄戦があり、基地が押し付けられています。沖縄の現状と全てつながっているのに、それを知る機会すら与えられていません。

知る→共感する→問題意識を持って皆で考えることができれば平和が実現できると思います。

にふえー

ご清聴、御拝で一びたん！

Thank you for listening !

ご清聴、にふえーで一びたん！！（ありがとうございました）

質疑応答 ◆沖縄戦

Q 「集団自決（強制集団死）」という言葉があったが、みなさんはどちらの表現で習ったのか、自然に口から出てくるのはどちらの言葉の方が知りたい。（広島）

A 小中高での平和学習では「集団自決」という表現を多く使っていたように思う。ただ最近は自分の意志で選んだ死ではなく当時の環境によって起きた強制集団死だったという教え方になってきたように思う。

Q 沖縄県内でも、基地の問題などに関して分断を感じることはある？（広島）

A ある。基地に関する話をするのは喧嘩の原因になったりするので、あまり簡単ではない。私は賛成・反対を問わず話をするべきだし、沖縄のことは沖縄の人が決めるべきだと思っているので、周囲とも話したりする。ただ、最初に口を開くことはできなかつたりする。

Q 沖縄では辺野古の是非を問う県民投票や県議選など、基地問題が争点になることが多いかと思うが、これについて県外の人と温度差を感じることはある？（広島）

A ある。日本本土から来た学生とドライブなどで基地のそばを通ると「すごい」と言われたりする。自分たちからすると、ポジティブな意味合いもあるその表現にはギャップを感じる。アメリカ本国でも沖縄の基地に関する報道は少ないと聞いたので、外国も含めて県外と温度差を感じることは結構多い。

Q 2017年にチビチリガマが荒らされる事件があったが、それに対してどのように感じた？ガマに対する畏敬の念などについての教育はなかったのだろうか。（長崎）

A とても残念に感じた。なぜ起きたかは正確にはわからない。ただこれは平和教育だけの問題ではなく、世代の貧困、非行、教育サポート等の問題も背景にあり、難しい問題だと思う。

Q 台湾でも台湾語が禁止された時期があったが、現在は小学校で台湾語を教える授業がある。沖縄でも琉球諸語・しまくとぅばの復興運動などはある？（台湾）

A 沖縄にはしまくとぅばを教える授業はまだないと思うが、「しまくとぅば検定」というものがある。私は今23歳だが、母・祖母の世代がしまくとぅばを使うので聞き取ることはできる。でもそれは敬語ではないので、会議の場などでは目上の人から指摘があつたりする。そのため若い人たちがしまくとぅばを聞き取れていて、少し話すことができても、なかなか話づらい状況がある。間違えてもいいから失敗を恐れず話していくべきだと思う。

Q 沖縄人のアイデンティティについて詳しく教えて欲しい。（台湾）

A 今まで生きてきて自分が日本人であるということに疑問は感じていなかったが、大学に入って沖縄の成り立ちを考えると、自分は日本人ではないのではないかという葛藤があつた。先祖が沖縄に生まれたことで歴史に翻弄されてきた過去があり、自分の世代でも基地問題などの終わらない課題がある。台湾でも似たようなことがあるかもしれないが、沖縄人であると強く感じる人も、日本人であると感じる人も両方いると思う。

Q 沖縄人に対する差別という表現があったが、今でも沖縄に対する差別を日常で感じることはある？（韓国）

A 個人的には、差別は感じている。
理由としては全国と比較して賃金が最低ラインだったり、北海道のアイヌが日本政府に認められているのにうちなーんちゅはそうではなかったりすることなどである。
また、基地の是非を問う県民投票で反対が上回っても、日本政府にその民意が反映されないという状況がずっと続いている。以前の大阪都構想に関する市民投票の際には大阪の民意が認められたのに、沖縄の場合だとそうならないのが疑問。





韓国 テーマ：済州島4.3事件

2020年度
「平和への思い」発信・交流・継承事業
オンライン共同学習
2020年11月25日（水）
国立済州大学校（韓国）



みなさん。こんにちは。わたしたちは韓国・済州大学チームです。



わたしは、WOO YUN A と申します。済州大学社会科学部2年生です。

韓国チームは4人のメンバーで構成されています。指導教員は高誠晩先生です。

私たちが発表するテーマは済州島4.3事件と平和についてです。

まだ終わっていない、20世紀におけるアジア・太平洋紛争史

- 沖縄戦（1945年～）
- 長崎への原子爆弾投下（1945年～）
- 広島への原子爆弾投下（1945年～）
- 台湾2・28事件（1947年～）
- 済州島4.3事件（1947年～）**
- ベトナム戦争（1955年～）
- カンボジア大虐殺（1975年～）

まず、済州島4.3事件とは何でしょうか？

20世紀におけるアジア・太平洋地域の紛争史から見ると、済州島4.3事件は、沖縄戦と、長崎・広島への原爆投下、そして台湾2.28事件に続いて、1947年3月から1954年9月まで済州島で起きた民間人虐殺事件をいいます。



当時の東北アジアと朝鮮半島をめぐる国際情勢について簡単にお話します。

1945年8月、朝鮮は日本の植民地支配から解放されます。

ご覧の写真は、1945年、ソウルにあった朝鮮総督府です。

日の丸がアメリカの星条旗に入れ替わっています。

南朝鮮は、日本による支配体制から、アメリカによる

支配体制に変わったのです。冷戦時代の序幕を見せる象徴的な写真です。



1948年には、南朝鮮と北朝鮮に、それぞれ異なる政府が成立します。

民主主義を支持する「大韓民国」と、共産主義を支持する「朝鮮民主主義人民共和国」との間の対立や葛藤もはじまります。

1950年6月に勃発した朝鮮戦争が代表的な衝突でした。



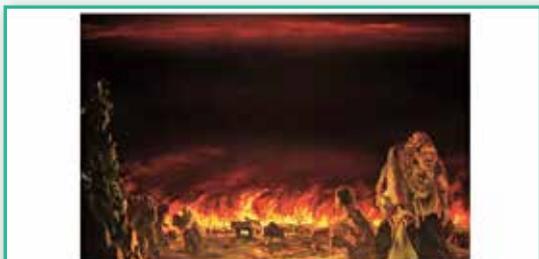
デモ、ストライキ、「蜂起」(1947～1948年)

一方、こうした南北朝鮮の葛藤や分断政府の樹立に対して、1947年3月1日、済州島では、多くの民衆が強く反対し、デモとストライキで抵抗します。そして、1948年4月3日には、南朝鮮のみの単独政府樹立を妨害するため、蜂起を決行します。



韓国政府(軍や警察)による討伐と大虐殺(1948～1954年)

米軍政と李承晩政府は、大韓民国政府の正統性を否定する、こうした済州島人民たちの動きを「暴動」「反乱」と規定します。それから、多くの軍や警察を済州島に派遣し、強硬な鎮圧を命じます。



殺される済州島

済州島に派遣された軍や警察は、無差別な討伐作戦を強行します。

村と家が燃え、老若男女を問わず、約3万人の住民が殺害されます。

島の共同体は完全に崩壊しました。



「一日 (ハル)」

一方、武装隊と討伐隊の間には、どちらにも属さない多くの住民たちがいました。

「一日 (ハル)」というタイトルのこの絵からは、当時、済州島民たちが直面した悲劇的な状況を推測することができます。

住民たちは、昼は討伐隊の暴力の前に、夜は武装隊の暴力の前に、屈従しなければなりませんでした。

民主主義体制への移行 (1987年～)

「済州4.3事件真相糾明及び犠牲者名誉回復に関する特別法」の制定 (2000年)

済州4.3事件の「過去清算」の現段階は？

このような状況が7年7ヶ月の間続きましたが、討伐隊と武装隊、住民の間の加害と被害は複雑に入り混じってしまいます。

このような済州島4.3事件の複雑さにより、2000年に、済州4.3特別法が制定されてから現在まで、「誰が犠牲者なのか」をめぐる国家と個人の間で葛藤が続いています。



金大中大統領、済州4.3特別法に署名 (2000年)

この写真は、2000年、金大中大統領が「済州4.3特別法」に署名する様子です。



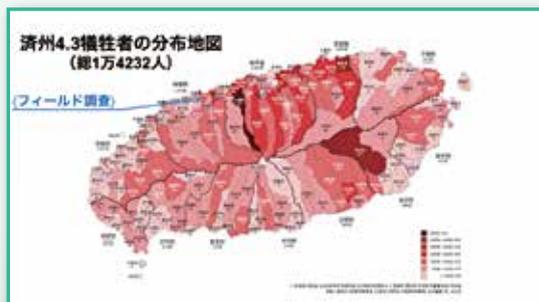
この写真は2018年4月3日、済州4.3平和公園で開催された追悼式に出席した文在寅大統領が献花をして、遺族たちと会う様子です。

今日、韓国社会は、済州島4.3事件が残した後遺症と複雑な葛藤を乗り越えて、和解と共存、平和、癒しを語る、新しい時代へ移行するために多くの努力をしています。

しかし、過去に何が起きたのか、その真実を追い求めようとする努力よりは、急いで傷を癒し、平和と共存のメッセージを発信しようとする動きが、

新たな葛藤をもたらすのではないかと、懸念にもなります。

こうした問題は、平和の発信と交流、継承をめぐる議論において必ず扱われるべき問題ではないでしょうか。



平和を語るにあたっては、過去を正しく知ることが何よりも重要です。

しかし、济州島 4.3 事件の場合、暗い過去よりは明るい未来、美しい平和がより優先されます。

このような状況に、私たちはどのような批判的な介入もしくは、異議申し立てが可能でしょうか？

こうした問題意識に基づき、われわれは 4.3 事件の傷跡が残っている济州島の北側のある村をフィールド調査しました。



济州島 4.3 事件の傷跡は、济州島のいたるところで残っています。

この村の住民たちは 2003 年に「英慕園」という記念空間を作りました。

「英慕園」は、日本による植民地支配と、解放後の济州島 4.3 事件、そして朝鮮戦争で犠牲になった村民たちの名前が刻まれています。

「英慕園」は、济州島 4.3 事件の被害者の霊を慰め、歴史的な意味を繰り返さし考える意味で作られた、慰霊の聖地です。

村の人々は、二度とこのような悲劇が繰り返されないように、平和を祈っています。

この場所は、「济州島 4.3 事件」の痛みを乗り越え、平和と人権の大切さを気づかせる場所であると同時に、次の世代に記憶を伝える空間でもあります。



しかし、一見平和に見えるこの慰霊空間は、暴力と野蛮、恐怖の歴史を速いスピードで清算しようとする欲望を内在しています。

文在寅大統領も、今年 4 月 3 日、この場所を訪ねて「和解と共存の聖地」として意味づけました。

平和を発信するにあたって必ず議論すべきいくつかのステップが省かれてしまったからです。

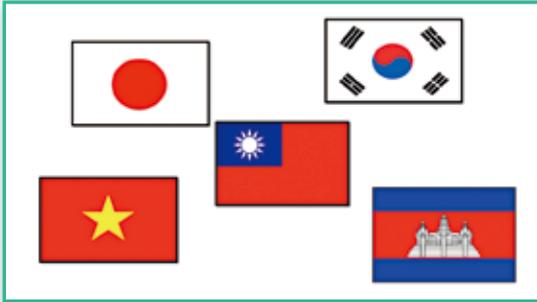


追悼式 (毎年1月3日)

今日も「英慕園」は平和です。

追悼式も毎年執り行われています。

しかし、直接または間接的に、济州島 4.3 事件のトラウマを持っている村人の心は、いまだに複雑です。



いま私たちは濟州から、どのような平和を語る事ができるでしょうか。

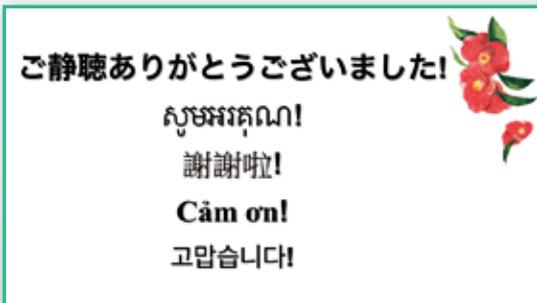
私たちは過去の悲劇を二度と繰り返さないために、歴史をどのように学ぶべきでしょうか。そして、そこから得た教訓を、次の世代にどのように継承するべきでしょうか。世界平和実現のため、どのような架け橋の役割を担うべきでしょうか。

3ヶ月間の事前学習を通して、私たちは数回にわたって討論をしました。

その結果、ある暫定的な結論に至りました。それは、平和とは、単なる崇高な「感じ」ではないということです。平和とは、平和に見えるものではなく、至難な議論や論争を経てはじめて得られるものです。

そうするうちに、時には反平和的な葛藤の過程もあるでしょう。

そして、最後にもう一つ付け加えますと、今回のオンライン共同学習に参加するわれわれは各国を代表してここに集まっていますが、国家主義の論理がけっしてこのような問題を解決することはできないという点も確信しています。



ご静聴ありがとうございました!

質疑応答 ◆ 濟州島 4.3 事件

Q フィールド調査に関する情報があったが、その場所を選んだ理由を教えてください。(台湾)

A 「英慕園」と呼ばれる祈念碑があるため、ここを調査の場とした。
濟州島 4.3 事件について、韓国は過去の葛藤をなくす方向で平和を実現しようとしている。私たちはそれに疑問を持ったことから、祈念の場があるこの場所を選ぶことにした。

Q 島の中で罪のない住民が多く亡くなったという点が沖縄と似ている。
2018年に文在寅大統領が濟州島を訪問したということだが、当時の被害者の方達は、この取り組みについてどう感じているのか。(司会)

A 濟州島民や当時の被害者は韓国政府の動きについて満足している。大統領が島を訪問し 4.3 事件被害者の追悼式に参加したのはこれが 2 回目で、とても貴重な機会となった。ただ現代の韓国ではこの事件を悲劇化する風潮もあるため、そのような動きに対しても注意深く観察している。

Q この出来事は自国内での加害と被害が複雑に絡んでいると思う。
韓国国内でこの事件について学んだり、継承したりする機会はある？(広島)

A この事件は加害者と被害者が入り混じる複雑な事件だが、小中高では国家権力の濫用による民間人虐殺として学ばれている。これは韓国政府が濟州に派遣した討伐隊・軍・警察による被害が、3万人の犠牲者の 8 割を占めているためである。



(4) 3日目 各地域発表（長崎、台湾、ベトナム）



長崎 テーマ：長崎の原爆投下



1【原爆による戦災孤児について一県立養護施設 向陽寮一】

1945年8月9日、長崎市上空で原子爆弾が落とされました。原爆による死者は73,884人、重軽傷者74,909人、合計148,793人（長崎市原爆資料保存委員会の昭和25年7月発表の報告）という多くの人が被害を受けました。



生き残った人達も、後遺症で苦しむ人、家が消失して生活に苦しんだ人が大勢いました。その中でも大変だったのが戦災孤児です。

両親や兄弟を無くし頼る人も無かった子供たちは、路上生活を送っていました。そのような子供たちは、捨てられた残飯を食べ、またアメリカ軍が捨てた紙煙草を拾い、それを作り直して売るなど、生きるためには何でもしていました。そんな子供たちは、世間から見捨てられ蔑まれた存在でした。

The Boy Standing by the Crematory

photo by Joe O'Donnell ジョー・オダネル「焼き場に立つ少年」



古いアムステルダムでの1枚。戦災孤児が向陽寮に連れてこられる場面が写されていた。室の山崎孝雄さん（長崎市の区 向陽寮事務）

戦災孤児を保護するために、1948年2月4日に長崎県は養護施設 向陽寮（こうようりょう）開設しました。子供たちが安全に生活された施設でありましたが、保護された子供たちは、それまでの経験から周囲の人間を信じられず、暗い表情をしていたそうです。しかし、周囲の助けもあり徐々に子供たちは心を開いていきましたが、やはり家族の事を忘れられず寂しい思いをしていました。



戦の子と心と対する子供たち（左）（長崎市の区 向陽寮事務）

当時、向陽寮でボランティアを行っていた人は、自宅に子供たちを泊ませた事があったそうです。特別な事は何もしなかったが、家庭に飢えていた子供たちは家庭の雰囲気にも味える事が出来て、とても喜んでいました。

平和な時代には、家庭で親や兄弟たちと暮らすのが当たり前だと思います。

しかし、戦争が起これば家族を失い孤独になってしまう事、家族を孤独にさせてしまうことが起こって

しまいます。原爆や戦争は多くの方が亡くなり、また生き残った者の未来も変えてしまいます。そして一番大きい影響を受けるのは、自分一人では生きていく事が出来ない子供たちです。原爆や戦争の災禍は、戦争が終わった後も人々を苦しめるものである事を忘れてはいけません。向陽寮は、今は大村に移転し、社会福祉法人光と緑の園の経営となっています。



2【山里小学校（旧山里国民学校）】

山里小学校（旧山里国民学校）は、爆心地から北へ約700mの位置にあり、被爆当時は現在ある小学校の運動場側に校舎が建てられていました。

山里小学校

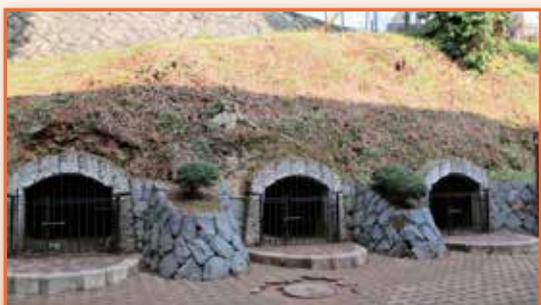


山里小学校 上空



当時、防空壕を掘る作業などで出勤をしていた教職員32名のうち、26名と用務員の2名が死亡し、生存者は4名だけでした。また、作業を手伝っていた生徒や近所の住民も被爆し、数多くの方々が亡くなりました。

山里国民学校



山里小学校 防空壕



8月9日は夏休みで児童は学校に登校していませんでしたが、校区が爆心地に近いこともあり、多くの児童が自宅で被爆し、その後の調査により在籍児童数1,581名のうち、約1,300名が自宅やその周辺で死亡したと言われています。

あの子らの碑



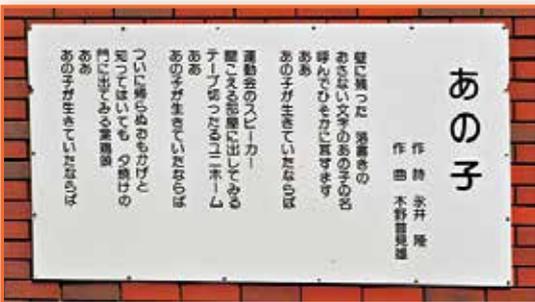
【あの子らの碑】

長崎医科大学病院で放射線医学を研究していた永井隆博士の発案により、被爆から4年経った、昭和24年の春、生き残った山里小学校の児童たちが体験した原爆の悲惨さを多くの人々に知ってもらおうと、児童が書いた体験談をもとに「原子雲の下に生きて」という本として出版しました。

この本の印税によって「あの子らの碑」が作られました。本が売れたお金はもちろん子供たちにも配ら

れたが、「あの子らの碑」を建てる資金のため、日々の生活に困る中、喜んでお金を差し出したそうです。こうして集まった金額は当時4万円でした。「あの子らの碑」を建てるために必要なお金は11万円でしたが、残りの7万円は永井博士が寄付し、建てることができました。

あの子らの碑 拡大



以来、山里小学校では毎年8月9日に、平和のシンボルでもあるこの碑の前で「平和祈念式」を行い、亡くなった多くの方々のご冥福を祈り、今後悲惨な戦争、争いがないように平和を願い、世界平和への誓いをしています。

そして、「平和祈念式」では永井博士が作詞した山里小学校の第二の校歌として歌い継がれている「あの子」という歌を歌います。



また校門下の坂道には、永井博士から寄贈された50本の桜が植えられています。

この桜は「永井桜」と呼ばれ、児童や地域の人々に親しまれ、毎年春にはきれいな花を咲かせています。



発展していった学校であり、「純心学園」という1つの組織において原爆の被害が大きかったため、今の私たちの生活が当たり前ではないということ、そしてここまで復興し活気あふれる学校になった背景には原爆という残酷な過去があるということをしっかり理解していく必要があるという思いがあります。

3【純女学徒隊について】

以下、私たちは主に3つのことについて話します。まず初めに「純女学徒隊について」、次に「純女学徒隊の生徒たちについて」、そして最後に「日本が戦争をやめなかった理由」です。

私たちが純女学徒隊について紹介しようと思ったのは、私たち自身、長崎純心大学に通っているということが1番の理由です。

私たちが通っている長崎純心大学は原爆の復興から



純心学園 原爆2日前

①純女学徒隊について

戦局が厳しくなると学生・生徒までが「学徒動員」として兵器工場で働くことになり、1944年になると高等女学校の2年生以上、つまり13～14歳の少女たちまでが学業を離れて毎日工場で働いていました。

動員された純心高等女学校の生徒たちは学校ごとに部隊の形を作り、これを「純女学徒隊」と呼びました。このような状況下で、1945年に原爆が投下され、「純

女学徒隊」の生徒たちや教員を含めた214名の命が奪われました。

原爆落下時は、原子爆弾の爆風と熱風により、建物は崩壊し、次々に火災が発生しました。爆心地から約1.2kmの場所にあった純心高等女学校の校舎も崩壊し午後には火災によって焼失しました。



純心学園 原爆3日後

残っていた生徒は死亡、各部署で働いていたシスター達も、みんな負傷しました。他のシスター達が学校に到着したころには、校舎はすでに燃えており、純心の創立者であり、当時校長を務めていた江角ヤス先生も重症を負ってしまいました。

この出来事は、純心女子学園が創立してからちょうど10年を迎えた頃でした。江角先生は教え子を亡くしたことから、「どうして再び教壇に立つことが出来るよう。余生を教え子たちの冥福を祈って過ごそう。」

と決心し、学校を閉鎖する準備を始めていました。しかし、亡くなった生徒の父兄たちの「子どもが、あれほど愛し、最期まで心配していた学校を閉鎖しないで下さい。」という訴えにより、江角先生は「あの子どもたちが純心が続くことを望んでいたのであれば、どんな苦勞があっても学校を復興しよう」と強く思うようになり、純心女子学園を再建することを決意し、現在に至ります。

また、江角先生の心の中には自分は原爆で亡くなった教え子たちの供養のために生き残らせて頂いたので、「純女学徒隊」の生徒が原爆で命を落とすことなく生きていたら行っていたであろうことを自分が代わってしなければならない、という思いが強くあり、そのことを江角先生は「私は原爆のあとかたづけのために生き残らせて頂きました」と表現していました。



そして、今私たちが通っている長崎純心大学の近くにある恵の丘原爆養護老人ホームは原爆で亡くなった生徒たちに代わって、残されたその両親のお世話をしたいという江角先生の願いから開設されました。



②純女学徒隊の生徒たち

次に純女学徒隊の生徒たちについて説明します。戦争当時は、私たちより若い年齢の子が、国のために自分の命をかけて死ぬことを覚悟していなければならない時代でした。

ここで、純女学徒隊だった増田ヨシノさんと松本妙子さんの話をしたいと思います。まずは増田ヨシノさんです。

当時13歳だった増田ヨシノさんは、長崎県の離島である五島の富江町に住んでいました。そのころ、五島列島の近くではアメリカ軍の哨戒機の砲撃が始まっていたため、定期船の出航は禁止されていました。そのような理由から、海上

の往来はできなくなっていたそうです。

父親はヨシノさんに自宅から近い五島高等女学校に転校することを進めましたが、ヨシノさんはそれを承知しませんでした。

ヨシノさんにも島にいる間に学校から電報がきて、学徒隊動員の知らせがきていました。ヨシノさんはそれを喜んで、出発の前日には父母に黙って近所の家から遠方の縁故の家まで挨拶に回ったそうです。

出発の日、港に行こうとして、家をでたヨシノさんはすぐに戻ってきました。

次のセリフは増田ヨシノさんが両親に向かって言った言葉です。

「また、なんか、忘れたもんがあったとね」

母が声をかけた。ヨシノは笑い声で呼びかけた。

「とうちゃん、かあちゃん、もう一度、顔ばみせてくれんね」

この引用部分から、増田ヨシノさんは13歳の年齢で死ぬことを覚悟しているということになります。



一方で、死を覚悟をすることができずにおびえている人もいました。それが専攻科（五年生に相当）の松本妙子さんです。

次のセリフは松本妙子さんが級友に向かって言った言葉です。

「いつか、死なんばばってん、爆弾でだけは死のうごとなかね。うちは、ひどう、このごろ、恐ろしかとさ」

8月8日原爆が落とされる前日、工場の帰り分かれ道にきたときに、松本妙子は立ち止まって言った。

「今晚、うち死ぬごたる。みんな祈ってね。最後の別れやけんで、みんなさよならば丁寧にしゅうや」とふざけた。生徒たちは声をあげて笑ったが、妙子が言うのがほんとだと思って、急に悲しそうな顔になって、まじめに別れのあいさつをした。



原爆はその翌日に投下されて、妙子の言葉は本当のさよならになってしまった。



旧校舎 (昭和12年竣工、昭和20年8月9日焼失)

今では考えられないことが昔は現実だった事実から私たちは目を背けてはいけなく、戦争の恐ろしさを決して風化させてはなりません。

しかし、長崎に原爆が投下されて75年が経ち、被爆者の方々の直接の声を聞く機会が減ってきているのが現状です。

そのために、若い世代、特に長崎県出身である私たちが原爆の恐ろしさや核兵器廃絶を世に発信していくべきだと感じました。



三菱製機工場焼跡

③日本が戦争をやめなかった理由

日本に投下された原子爆弾がアメリカ本土からテニアン島に運ばれたのは、7月26日のことでした。同じ26日にアメリカ、イギリス、中華民国はポツダム宣言を発表しました。これは日本に降伏することを勧告する文でもあり、この文の最後には原子爆弾を投下するという意味が含まれていました。ポツダム宣言発表の少し前から、天皇は戦争を早く終わらせたいとのことで、その旨を政府の各大臣に伝えて

いました。

また、日本の政治、経済、一般会社の指導者の多くは戦争に負けていることに絶望し、戦争終結を望んでいました。このような状況下でポツダム宣言が出されたことにより、多くの政治家、政府の役人は受諾することを考えましたが、陸軍と海軍の首脳者は大反対していたため、ポツダム宣言を黙殺することになったのです。

そして、8月6日午前8時15分、広島に世界で一番最初の原子爆弾が投下されました。外務大臣は天皇に、広島におちた爆弾は原子爆弾だという事を伝えに行きました。その時、天皇は戦争を終結することを強くおっしゃっていました。

その後、陸相が皇居を訪れたときに、天皇は「広島に落ちた爆弾は原子爆弾と聞くが、これに対する陸軍側の考えは、どうか」と尋ねられました。陸相は知ってはいましたが「のちほど、よく調査をしてお答えします」とその場をごまかしたそうです。陸軍としては、降伏することは日本の不名誉である以上に、陸軍の不名誉になるため、本土への戦争に持ち込むというような方針を変えることをしませんでした。陸相が承知しないため、戦争終結の処置をとることができませんでした。

アメリカは、広島原爆の後すぐに追いつけをかけ、できるだけ早く日本を降伏させるために、第2弾を早急に投下することにしていました。

そして、8月9日午前11時2分、長崎に原子爆弾が投下されました。

もし、ポツダム宣言が出された時すぐに戦争終結を決めていたら、広島におちた原爆により亡くなったたくさんの命、後遺症に苦しむ人達はいなかったのだらうと思います。また、広島原爆がおちた時点で戦争の終結を決めていたら長崎に原爆が落ち、たくさんの命、後遺症に苦しむ人もいなかったのだらうと思います。原爆は、たくさんの死者を出し、その後もたくさんの人々を傷つけ後遺症をもたらしました。



ここにある写真は戦後にとられた写真です。上段にいる女の子たちは防空頭巾をかぶっています。これは、原爆の後遺症で髪の毛が抜けたりしているのを頭を守るためにかぶっているそうです。

年端もいかない子たちが、髪が抜け落ちていることがどんなに衝撃で辛いことだろうか…。考えるだけでも胸がくるしくなります。今現在、世界中には2020年1月時点で、9か国（北朝鮮を含む）が核を保有しており、核兵器の保有数は13,400にも及ぶそうです。この核兵器が使われないことがなく、長崎が

最後の被爆地になることを願ってやみません。そして、戦争がない世界に少しでも近づくように発信していかなければなりません。

質疑応答 ◆長崎への原爆投下

Q 長崎の小中学校では平和に関する授業はある？
学生の中での平和の認識はどんな感じ？（ベトナム）

A 小中高で平和学習が行われており、原爆の被害を受けた山里小学校では毎年8月9日に記念式典がある。また、「長崎さるく」というイベントがあり、浦上天主堂や原爆資料館など、原爆に関する施設を訪問することもできる。

Q 原爆投下時には外国からの労働者や宣教師などがいたかと思うが、そういった方々に対する補償や治療の支援などはある？（韓国）

A 詳しくはわからないが、被爆していない宣教師もいたため被害者を助けた教会もあった。当時の孤児が宣教師などになった例もある。亡くなった外国の方もたくさんいて詳しくわかっていないこともあるが、今はその人たちのために慰霊碑をつくり、毎年8月9日には日本人の被害者と同じように冥福を祈っている。

Q 広島と長崎の特徴的な違いは比べてキリスト教の有無だと感じていて浦上天主堂が原爆ドームと対応するような象徴的なものかと思う。
爆心地にはキリスト教徒だった人もいるかと思うが、反核運動や伝承のための活動をキリスト教の団体や教会が積極的に主導するような動きはある？（広島）

A 長崎としては宗派を問わず平和のためには祈ると思っているが、私たちはカトリック系の学校であるため、純心が平和のために積極的に関わっていることは知っている。被爆者の方々による長崎市周辺の学校での被爆体験の発信も行われている。また、爆発した地点は最もカトリックが多い浦上地区ということで、浦上天主堂は爆心地から大変近く、多くのカトリック信者が亡くなった。その後カトリック信者だった永井博士が復興に大きく携わったためイメージ的にもカトリックが突出して印象づけられているかと思う。

Q 沖縄でも6月に平和学習があり、主に沖縄戦について学ぶ。
長崎での平和学習は、原爆投下地ということで、広島・長崎の両方について学んでいる？（沖縄）

A 主に長崎の原爆について学んできた。特に被爆者の方の生の体験談はとても印象的だった。

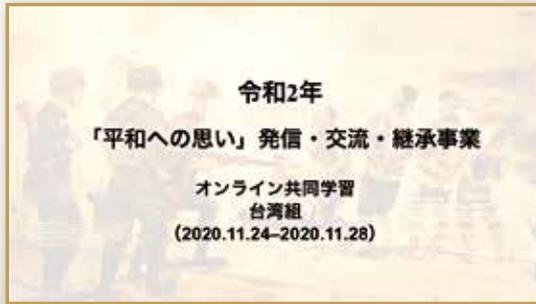
Q 沖縄では戦争や基地について話すことは少しタブーな雰囲気になることがあるが長崎ではどうか知りたい。（沖縄）

A 被爆者の方の中にはケロイドなどの傷を持っている人も多かったため、被害後しばらくは語りたがる人は多くなかった。その後、徐々に体験を語らなければ原爆の惨状が引き継がれないということで語り部として活動するようになった。したがって積極的に話す方も多いと思っている。





台湾 テーマ：2.28事件



台湾の2.28事件についてお話ししたいと思います。2.28事件を紹介する前に、まず、簡単に台湾の歴史を話します。

1945年、長かった大東亜戦争がついに終わり玉音放送で、日本が無条件降伏を伝えた途端、日本に統治されていた台湾も敗戦国になりました。

しかし、蒋介石が国民政府を代表し台湾を受け入れると、「接收」された台湾はあっという間に戦勝国になり大喜びで、祖国の接收を楽しみにしていました。

た。実際は、接收された生活はよくなりませんでした。むしろ、もっと大変になりました。



次に、2.28事件の起源に関して、政治・経済・文化の3つの面からお話します。

政治面では、50年の日本統治を経た台湾人は、接收後は台湾を自分たちで管理できるものだと思っていた。しかし、台湾を接收しに来た行政長官は、行政、立法、司法や軍隊などの権力を握りました。台湾人は中国大陸から来た国民政府の汚職の凄まじさに驚き、失望しました。



経済面では、国民政府は日本統治時代の専売制度を拡大しただけでなく、日本の残した公営、私営の企業を全て取り戻して管理下に置き、全てを包括するようになりました。このように政府に独占された市場では中小企業が生き残ろうとするもより困難になりました。



文化面では、日本との戦いを終えた国民政府の軍隊は和風な服を着ていた台湾人を見て、自分らの土地や家を奪っていた日本人だと感じ、台湾人をひたすら「日本の奴隷」呼ばわりしました。文化的な違いは大きなすれ違いを生みました。



2.28 事件の導火線を説明します。

この写真をご覧ください。1947年2月27日、台北市で闇タバコを販売していた女性を、政府の官憲が摘発しました。女性は土下座して許しを懇願しましたが、取締官は女性を銃剣の柄で殴打し、商品および所持金を没収しました。



戦後の台湾では、日本統治時代の専売制度を引き継ぎ、酒・タバコ・砂糖・塩等は全て中華民国の専売となっていました。しかし、中国大陸ではタバコは自由販売が許されていたため、多くの台湾人がこの措置を差別的と考え、不満を持っていました。タバコ売りの女性に同情して、多くの台湾人が集まりました。すると取締官は今度は民衆に威嚇発砲し、まったく無関係な台湾人に命中し死亡させた後に逃亡しました。



暴動が多くの地域に拡大し、5月15日に収まりました。犠牲者数推定は1万～2万人ぐらいと言われています。

この事件をきっかけとし、民衆の中華民国への怒りが爆発しました。翌28日には抗議のデモ隊が省行政長官の公舎に大挙して押しかけましたが、庁舎を守備する衛兵は屋上から機関銃で銃弾を浴びせかけ、多くの市民が死傷しました。

この事件はラジオによって台湾中に広まり、「台北タバコ取り調べ抗議活動」は全台湾での反乱事件になりました。



2.28事件後、1949年、中国で国共内戦の敗戦により、国民党軍とともに台湾に撤収する人々が激増しました。そして、1949年に台湾は戒厳に入りました。戒厳とは、戦時、事変に際し、治安を維持するために、兵力をもって全国または一地域を警備することです。よって、この時期、台湾全土は常法を停止し、行政権および司法権の一部もしくは全部が軍隊に移されました。戒厳は1987年に解除されるまで、38年間もの長期にわたって施行されました。20世紀を通じて世界最長の戒厳とされています。

戒厳の期間、国民党政府が台湾国民に対し、相互監視と密告を強制し、反政府勢力のあぶり出しと弾圧を徹底的に行いました。それは台湾において、白色テロと呼ばれる一種の国家テロとみなされました。白色テロの期間、蒋介石率いる国民党に対して実際に反抗する、あるいはそのおそれがあると認められた140,000名程度が投獄され、そのうち3,000名から4,000名が処刑されたと言われています。

国民党支配に反抗したり共産主義に共鳴したりすることを恐れ、国民党は主に台湾の知識人や社会的エリートを収監しました。訴追された者のほとんどは中国共産党のスパイのレッテルを貼られ罰せられました。当時、社会全体を恐怖に陥れることになってしまいました。永きに渡った戒厳の38年間を終えて、1996年に台湾で初めて国民が選挙で総統を選ぶことができました。初めて国民で選ばれた総統が、皆さんもご存じの「李登輝」総統です。このような台湾の民主化も2.28事件の影響を受けていたと言われています。

2.28事件に対して、どのような記念の行動があったのかをお話します。



1995年から、2月28日が台湾の法律で定められた平和記念日及び国民の祝日になりました。現在の台湾では、記念館、公園、記念碑などは24ヶ所あります。

1987年に戒厳が解除されると共に、人々は「2.28事件」や「白色テロ」について話すことを次第に恐れなくなってきました。そして、1995年に当時の台湾の李登輝総統が、政府の立場として正式に謝罪し、犠牲者やその遺族に対して、追悼と補償するための「2.28事件記念基金会」が設立されました。2月28



台湾における平和の継承の挑戦についてお話しします。

1つ目の問題は、現在の台湾では「2.28 事件」について、多くの人が「無関心」であるということです。台湾の小・中・高の社会・歴史の教科書では、「2.28 事件」について1ページ、あるいはそれ以下しか触れていません。現在の台湾の人々は「2.28 事件」があったということを知っていても、それがどのような事であったかよく知らず、それが無関心につながっています。

2つ目は、「2.28 事件」の事をあまり知らないので、「共感できない」という人が多いことです。最後に我々台湾人として最も重要なことを皆さんにお伝えしたいと思います。「台湾国民としてのアイデンティティが一致していない」ということです。

下の棒グラフをご覧ください。一番最初はオランダ、その次は中国の明、そして清と続き、日本の統治時代が続きました。そして1945年に当時の中国の国民政府軍が台湾に撤収してきました。台湾は古くから、多民族からの支配が度重なり発生し、多民族同士の衝突の歴史がありました。このような複雑な歴史の中で、台湾人はアイデンティティが一致していません。台湾人がそれぞれの歴史に対して考え方が違うという見方があります。



ビデオ紹介・・・取締官が一般市民を抑圧している様子。

「2.28 事件」事件の1か月後のある駅で起った実際の出来事を再現しています。このビデオは、現在の人々に当時台湾でどのような事が起ったかを伝えるために作られたそうです。

また、現在は「2.28 事件」について語られた映画、ドラマ、ビデオなどが制作・放映され、歴史を継承しています。



ご清聴ありがとうございました。

質疑応答 ◆2.28事件

Q

私は日本人である自分と、うちなーんちゅでもある自分に対して、アイデンティティの葛藤を感じたことがあるが、みなさんはどうか。自分のことを何%ぐらい台湾人だと思う？（沖縄）

A

（様々な国の支配を経たことについて）おそらく今学生の中でアイデンティティの葛藤を抱えている人はなくて、ほとんどみんな自分は100%台湾人であると感じていると思う。

Q

世代によってアイデンティティの感じ方に違いはある？（沖縄）

A

ほとんどの若い人たちは、自分が台湾人であるというアイデンティティをもっている。でも親、もしくはその上の世代では中国から来た人とその2世、3世の人もいるので、その人たちは中国人だと感じているかもしれない。

Q

日本国内で台湾は親日国としてのいいイメージが先行しているけど、日本が台湾に対して行った支配や加害の面は見なかったり、美化したりするような風潮があると感じている。台湾における日本の支配に対する思いはどういったものがある？（広島）

A

日本の支配以前から台湾に住んでいた人の2世・3世の多くは、日本に対して良い印象を持っている。しかし外省系と呼ばれる中国から台湾に入ってきた人たちは、日本と戦った歴史があるため、その方達の間では日本支配は悪だった、という考えが多いと言われている。





ベトナム テーマ:ベトナム戦争

ベトナム戦争

ホーチミン市、2020年11月26日
ベトナム国立 ホーチミン市師範大学日本語学部

皆さん こんにちは。ベトナムチームです。私たちはホーチミン市師範大学日本語学部の学生です。本日、「ベトナム戦争」について発表いたします。



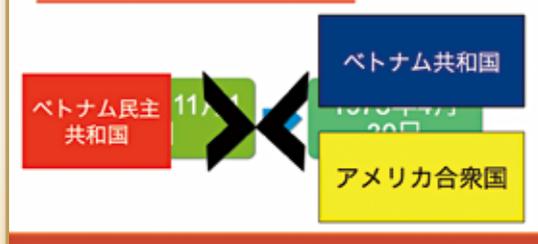
ベトナムは東南アジアの一国で、首都はハノイです。国名は「ベトナム社会主義共和国」です。南北の全長は1,650キロメートルです。

目次

- I. 概要
- II. 歴史的出来事
- III. 特別な事件
- IV. 戦争の犯罪
- V. 得られる教訓
- VI. 平和な社会の創造・維持

今日の発表内容です。

概要



ベトナム戦争とは1955年から1975年にかけて起きた、北のベトナム民主共和国と南のベトナム共和国の戦いです。

概要

- アメリカ資本家の利益を得るための侵略戦争
- 社会主義諸国の影響と威力を衰えさせる



不正義戦争

理由は2つあります。1つ目はアメリカ資本家が利益を得るためです。2つ目は社会主義諸国の影響と威力を衰えさせるためです。以上の理由からこの戦争は不正義戦争だと言えます。

概要

ベトナム
共産党の
統率者



ホー・チ・ミン



ヴォー・グエン・ザップ

当時のベトナム共産党の統率者は、ホー・チ・ミンとヴォー・グエン・ザップです。

概要

抗戦勢力： ベトナム国民
ベトナムでの抗米救国戦争は人民戦争ともいわれる



正義戦争

ベトナム戦争に参加した人は「ベトコン」と呼ばれました。ベトナム民主共和国の抗戦戦力はベトナム全国民でした。この戦いにベトナム人は誰でも参加したと言われています。この戦争は正義戦争だと言われています。

背景

- ジュネーブ休戦協定が調印された
- フランス軍の敗北で植民地制度が終わり、インドシナに全軍が撤退した
- 1956年、アメリカはフランスのかわりに南ベトナム戦争に介入した
- アメリカの軍事経済援助を受け、ゴ・デイン・ジエンはベトナム共和国の大統領になった

ベトナム戦争が起った背景について話します。1945年にジュネーブ休戦協定が調印されて、フランスの敗北で植民地制度が終わりました。インドシナへの全軍の撤退が伴い、1956年にアメリカはフランスの代わりに南ベトナム戦争に介入しました。さらに、アメリカから軍事経済の援助を受けて、ゴ・デイン・ジエンがベトナム共和国の大統領になりました。

北緯17度線を停戦ラインとして一時的にベトナムを南北に分けた



赤いエリアは、ベトナム共産党統率のもとで北ベトナムになりました。



一方で、黄色のエリアはベトナム共和国のもとで南ベトナムになりました。

北緯17度線は停戦ラインとして、一時的に南北に分けられました。

背景

北ベトナム (後方)	南ベトナム (前線)
<ul style="list-style-type: none"> • 社会主義への過渡期 • 経済、文化、新技術科学を開発 • 南ベトナムの後方を担当する 	<ul style="list-style-type: none"> • 南ベトナム解放のために、民族民主の革命を続け、アメリカとベトナム共和制度の統治を倒す

この間、北ベトナムは、社会主義への過渡期に入っ
て、経済、文化、新技術・科学を少しずつ開発して
いました。その上、南ベトナムの後方を担当しまし
た。

北ベトナムに反して、南ベトナムを解放のために革
命を続けて、アメリカとベトナム共和制度を倒す計
画を図っていました。

特別な出来事

1. ドンコイ運動の勝利
2. スティリ・テイラー計画・統合作戦の戦争
3. ディエン・ピエン・フーによる空爆作戦
4. 4月30日の事件

代表的な事件についてお話します。

ドンコイ運動の勝利（1959～1960）



「アメリカ軍！南ベトナムから出て行け」

「長髪軍隊」伝説

「ドンコイ運動」とは、アメリカ軍の弾圧に反対する最初の運動です。1959年末に始まり、ドンコイ運動が1960年に勝利を得ました。

写真は「長髪軍隊」という女性の軍隊です。

ドンコイ運動の勝利（1959～1960）



「ロンアン学生はアメリカ軍・ベトナム共和国を蜂起する仏教徒とフエ学生を熱心に応援」

ステイリ・テイラー計画（1961 - 1965）



ヘリコプターで上陸している傀儡政権の軍隊

2つ目は「ステイリ・テイラー計画」です。

統合作戦の戦争（1965～1968）



アメリカ軍の集合

「統合作戦」です。上の2つの出来事は、ベトナムを新型の植民地にする目的でベトナムの革命を破壊したアメリカの計画ですが2回とも失敗しました。

ディエン・ビエン・フーによる空爆作戦

北ベトナムが社会主義に過度するうちに、2回、アメリカ軍を攻撃した

一回目
1965年～1968年
二回目
1972年（12日間）



ハノイを破壊していたアメリカのB52大型爆撃機

3つ目はアメリカ軍が北ベトナムに対抗している戦いで「ディエン・ビエン・フーによる空爆作戦」です。ベトナム戦争の間に北ベトナムを破壊し、南ベトナムが北ベトナムに援助することを阻止するために1965年から1972年にかけてアメリカは北ベトナムを何回もB52爆撃機でせめていました。

ディエン・ビエン・フーによる空爆作戦



アメリカ軍に対抗している北ベトナムの軍民

しかし、北ベトナム軍はアメリカ軍に抵抗し、アメリカ軍の作戦は失敗しました。

ディエン・ビエン・フーによる空爆作戦



ハノイでの壊れた街

この写真は、アメリカ軍の爆弾が投下されたハノイです。

ディエン・ビエン・フーによる空爆作戦



墜落させたB52攻撃機の一部



今まで残ったB52攻撃機の一部

現在でも、ハノイに訪問すると、B52爆撃機の一部が残っています。

4月30日の事件



大統領官邸の門を倒し、突入している「南部開放軍」の戦車

最後に、一番重要な、南北統一を決定する「ホー・チ・ミン作戦」、あるいは「4月30日事件」と言われる事件について話します。

「ホー・チ・ミン作戦」は1975年に起った総攻撃で、重点的な作戦攻撃のひとつです。4月30日の午前、ベトコンの戦車と軍隊が衝突して、敵の政府を捕まえ、ベトナム共和制度の大統領を退任させました。

4月30日の事件



館内に走り込んでいる「南部開放軍」の軍人

同日11時半、ベトナム大統領府の屋上にベトナムの旗が揚げられ、アメリカとベトナム共和国の敗北でベトナム戦争が終わりました。

4月30日の事件

結果：
21年間にわたる「ベトナム戦争」が終結した
ベトナムは南北を統一するようになった

「4月30日」事件の後、21年間にわたる「ベトナム戦争」が終結しました。そして、ベトナムは南北を統一するようになりました。

戦争の犯罪



ナパームガール

戦争の犯罪について話します。

最初は、「ナパームガール」です。「ナパームガール」はベトナム系アメリカ人の写真家が1972年に撮った写真です。ベトナム共和国の爆撃によりやけどしている9歳の女の子が撮影されました。この写真は当時、世界で最も優れた報道写真と認められました。

戦争の犯罪



ベトナムに枯葉剤を投下するアメリカ軍

次は「枯葉剤」についてです。

この写真は、アメリカ軍がベトナムに枯葉剤を投下している様子です。

戦争の犯罪



枯葉剤の悪影響をした障害者

枯葉剤は、今でもベトナム人に悪影響を及ぼし続けています。

戦争の犯罪



悪影響を及ぼした環境

環境にも悪影響を及ぼしてしまいました。この写真を見ると、ほぼすべて破壊された様子が分かります。

戦争の犯罪



ミ・ライでの虐殺(1968/03/16)
死体だらけ

次は、ミ・ライでの虐殺です。この事件は1968年に起こりました。死体だらけの写真です、ミ・ライは惨状となり、生存者はわずか3人となりました。

※アメリカ軍の小隊が、南ベトナムソンミ村のミライ集落を襲撃し、無抵抗の村民504人を無差別射撃などで虐殺した。

戦争の余波



被爆者、地雷障害者

戦争の余波について話します。

現在でも、当時アメリカ軍が投下した爆弾が不発弾として残っていて、それらを踏んで地雷障害者になる人が多いと言われています。

戦争の余波

死者	310万人
傷者	260万人
中毒した人	200万人
遺骨が見つからない人	30万人
虐殺事件	320件
投下された爆弾の量	785万トン
投下された枯葉剤の量	7510万リットル
...	

グラフを見ると、戦争での死者に次いで、傷者の数が多いのが分かります。死者は兵士と一般人を合わせています。戦争は、悲しみ、失望、苦しみばかりです。

ティック・クアン・ドック事件



ベトナム共和政権が行った仏教に対する弾圧政策に抗議するため、焼身自殺したティック・クアン・ドック

最後は、ティック・クアン・ドックの事件です。皆さんは、戦争の影響を受けない対象は誰だと思いますか？ それは僧侶です。しかし、ベトナム戦争では僧侶も戦争の被害者になってしまいました。代表的なものはティック・クアン・ドックの事件です。ティック・クアン・ドック（僧侶）はベトナム共和政権が行った仏教に対する弾圧政策に抗議するため、焼身自殺しました。

得られた教訓

- ・ 侵略戦争は不正義戦争
→ 敗北するに違いない
- ・ 愛国心のあるベトナム人は「自由」、「独立」、「平和」を守るため、自分の命を捧げぬく
- ・ 統率力に優れたベトナム共産党のホー・チ・ミン
- ・ 民族団結、特に人民戦争
- ・ 海外からのサポート

ベトナム戦争から得られた教訓は何かを話します。概要でお話したように、侵略戦争は「不正義戦争」だということです。ですので、侵略戦争は敗北するに違いないと思っています。ベトナム戦争での死亡者が多かったのはご存知だと思います。しかし、愛国心のあるベトナム民族は、兵士に限らず自分の命を快く捧げ抜きました。ホー・チ・ミン氏によるベトナム共産党の優れた統率力、またベトナム国民の老若男女を問わず戦争に参加する団結精神、更に、

中国、ソ連、キューバなどの社会主義国からのサポートも重要だと言われています。

平和な社会の創造・維持

- 若者に戦争が残した苦しさ、被害の認識を深める
- 世界各国は主権、国土、歴史、文化、信仰、宗教などを尊重しあう。人種差別や領土紛争などのような行為、発言を避ける
- 紛争問題を平和で解決する
- 文化理解を分かり合うために、OPACのような交流会を行う

平和を創造、維持するために何をすべきかを考えました。

まず、ベトナムの未来を担う若者たちは、昔戦争が残した苦しさを体験したことはありません。だからこそ、今残っている書籍が保存されている博物館を尋ねたり、枯葉剤で影響を受けた人に向けたボランティア活動に参加したりして、戦争被害の認識を深めるようにすると思います。

また、現在はソーシャルネットワークが拡大していて、一言だけでいろいろなバージョンで急速に広がります。ですので、気を付けずにいい加減なことを言ってしまうと、国防と他の国との関係が悪くなる恐れがあります。人類差別、領土紛争などの行為、発言を避けるべきだと思っています。

その上、主権、国土、歴史、文化、信仰、宗教などを尊重し合うことも大切です。

そして、紛争問題をかかえている国が少なくありません。ベトナムは、このような問題に対して平和的に交渉する方針に沿っています。

民族が多いことが知られるベトナムでは、内乱がほとんどなく、全国の54民族が一緒に平和に住んでいます。

さて、平和を維持するために、文化理解ができるような事業をすることがいいのではないかと思います。例えば、ホーチミン市師範大学では、毎年、日本の大学が私たちの大学を訪問し、フィールドリサーチなどを実施し、相互理解を深めます。

ベトナム人にとって戦争は過去になり、恨みはありません。過去は変えられないので、過去は閉ざし、将来に向けて進んでいった方がいいのではないかと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

ご清聴
ありがとうございました

質疑応答 ◆ベトナム戦争

Q 今のベトナムの人たちはアメリカに対してどのように感じている？（台湾）

A 戦争はもう終わったこと。今ベトナムは平和を大切にしているし、アメリカとの関係は徐々に良くなり、関係は強まっていると感じている。

Q ベトナム戦争で使用された枯葉剤で具体的にどのような影響があった？
今も何か影響はある？（長崎）

A 枯葉剤は人体への影響と自然への影響があった。枯れ木は新たに植樹され自然は回復し始めているが、枯葉剤を投下した地域の水が今でも飲めないなど、現在に続く影響もある。

Q アメリカの枯葉剤の使用について、ベトナムが補償を求めた裁判を起こし却下されたと聞いたが、今はどのような状況？（長崎）

A これは 2004 年に起きた裁判で、アメリカからの賠償は未だない。ただアメリカの社会団体からはベトナムに対する経済的なサポートがあった。

Q なぜミ・ライ集落の人々が虐殺されてしまった？（沖縄）

A ミ・ライだけでなくベトナム全土 230 の地域で虐殺があった。ミ・ライは住民のほぼ全員が殺害され生存者が 3 名しかいなかったため、最も有名な地域となっている。

Q ベトナム戦争では韓国軍も派遣され様々な戦争犯罪に介入していた。
この歴史的な事実をベトナムの人たちにどのように伝わっている？
韓国に対してどのような感情がある？（韓国）

A アメリカや韓国との国際関係は徐々に良くなってきており、戦争の辛い記憶や恨みといったものはない印象。学生は韓国ドラマが好きだし、悪い印象はない。



(5) 4日目 ディスカッション（争いはなぜ起きるのか・平和な状態とは何か）

****第1セッション****

テーマ	争いはなぜ起きるのか
日時	2020年11月27日（金）
講師	沖縄平和協力センター（OPAC）
場所	那覇市人材育成支援センター まーいまーい Naha

ディスカッション概要

◆「争いはなぜ起きるのか」に関する意見

- ・個人間の争いを避けることは難しいので、それを平和的に解決する方法を考える必要がある。
- ・個人間の対立の基礎には文化、価値観、正義、民族の違い、資本主義制度の抱える課題などがあると思われる。
- ・争いは必ずしも悪い面ばかりではなく、争いの当事者同士が競争することで互いを高めあうという側面もあるし、全ての争いが武力を伴う争いに発展するわけではない。
- ・平和的な争いの解決手段の一つが話し合いであるが、相手が話し合いに応じない場合も想定される。
- ・相手が話し合いに応じない場合、例えば、原子爆弾廃絶に関する取り組みでは争点を変えて価値観（人間性など）に訴えかけたり、原爆を持たない国で規範をつくるという方法がとられており、異なるアプローチが必要となる。

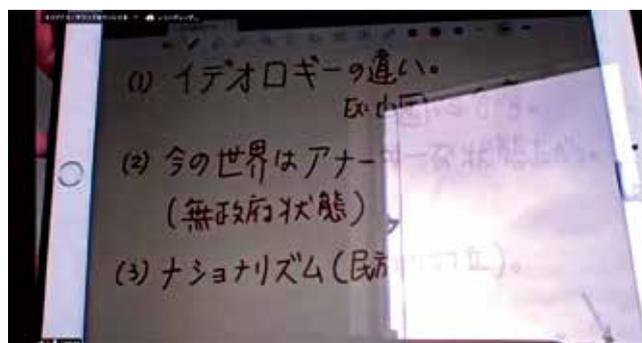
———ディスカッション（争いはなぜ起きるのか）———

OPAC

本日はディスカッションを2つのセッションに分けて行います。昨日まで、各地域による発表をとおして、様々な戦争・事件について学んできていますが、今日のディスカッションでは、「争いはなぜ起きるのか」という問いについて考えていきたいと思っています。

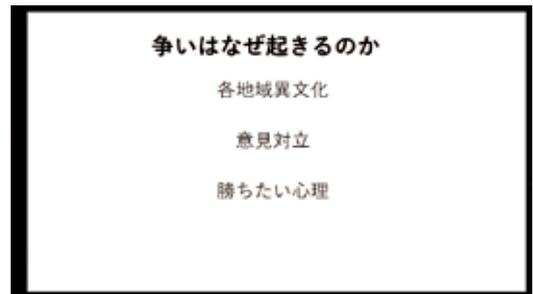
台湾チーム

私たちは争いが起こる理由として、(1) イデオロギーの違い（例：中国と台湾）、(2) 今の世界はアナーキーな状態だから（無政府状態）、(3) ナショナリズム（民族対立）の3点をあげたいと思います。イデオロギーの違いとは、例えば、かつて、アメリカとソ連はイデオロギーの違いから冷戦に突入してしまいました。また、世界がアナーキーな状態にあるというのは、今日、国家を超越するような世界政府というものがいないために国家を制限する力がなく、国家間での戦争がおきてしまう現状があるということです。ナショナリズムとは、冷戦後に中東などでナショナリズムによってイスラム教同士の争いなどの民族間の対立が生まれました。



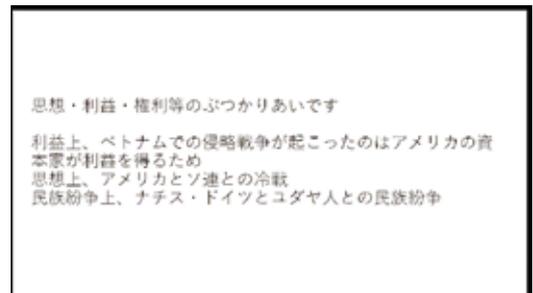
ベトナムチーム

争いがなぜ起きるのかというと、各地域の異文化、意見対立、勝ちたいという心理によって争いが起きていると考えています。世界には100を超える国があり、異なる文化や考え方のために地域間で理解が困難な状況が生まれてしまいます。また、意見の対立がある場合には、勝ちたいという心理が働くために争いが起きてしまうのかもしれません。



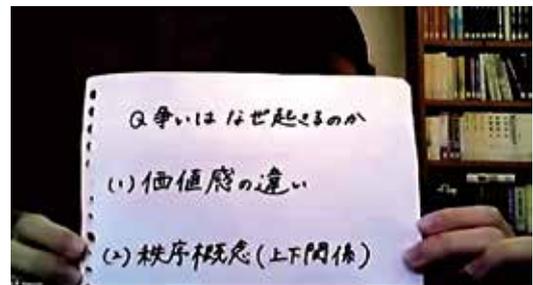
ベトナムチーム

その他の意見としては、「思想・権利・利益のぶつかり合い」ではないかと思いました。例えば、ベトナム戦争が起きた背景にはアメリカの資本家が利益を得るというものがあり、また、アメリカとソ連の冷戦という思想上の違いもありました。民族紛争については、ナチス・ドイツとユダヤ人の例もあります。



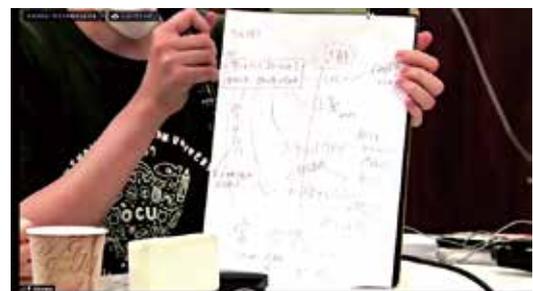
長崎チーム

2つの意見を私たちは持っています。1つ目は価値観の違いです。人種や宗教、生まれ育った環境が違うために異なる価値観の衝突が起きてしまい、争いがおきてしまうのだと思います。二つ目は秩序概念です。貧富の差などの秩序概念もしくは上下関係が出来上がってしまい、それによって他者よりも優位に立ちとうとする人間の欲望や気持ちが高まり、争いがおこるのだと思います。



沖縄チーム

争いが起きる理由として、誤解や価値観の違いから起こる争いもあると思っています。また、無関心や過去の歴史からの学びが足りなかったことも挙げられると思います。その他には、正義の違いもあるかと思っています、信じている正義が異なるから争いがおこるのではないのでしょうか。また、対話が足りないことも理由の1つかと思っています。例えば、奥さんは旦那さんが皿を洗ってくれると思っていたのに、皿を洗ってくれなかったとか、「言わなくてもやってくれるでしょ」といった相手への期待によるものもあるのではないのでしょうか。



韓国チーム

私たちは争いの原因は、主に2つあると思っています。まず、資本主義社会では、他者の不利益を前提として自分が利益を得ることができるため、争いが起きてしまう背景には資本主義の本質があるのではないのでしょうか。2つ目は、国ごとの社会的・経済的立場の差が争いの原因だと思います。先ほど、沖縄チームから無関心という言葉がありました。関心には様々な努力、お金、時間が必要となるため、資本主義の本質とは相いれない行為だと思っています、無関心も資本主義の本質なのではないかと思っています。



広島チーム

チーム内で大きく2つの意見がありました。1つは争い自体の定義に関する意見であり、もう1つは性善説・性悪説に関する意見であったと思っています。1つ目の争いの定義については、争いにも武力紛争や戦争に発展するような争いと、能力を高めあったり・競い合ったり、プラスに働く争いであったり、意見の相違はある状態だが武力を伴っていないという争いもあるので、色々な種類の争いがあるとの意見が出ました。では、それらの違いは何なのか。それは、意見の異なる相手の立場に対して理解や敬意があるのかどうか、争いを行う手段の選択によって違いが出てくるのではと思います。2つ目については、性善説・性悪説というようなことなのかもしれませんが、人間の性質としてそもそも争いがある状態が本質なのか、平和な状態が本質なのかという議論をしました。1つの意見として、人間は争いを抱えている状態が常態、つまり、意見が異なる、対立している状態にあるけれども、努力をして対話を行い、争いというベースの上に平和をつくっていくことを目指しているのではないかという意見ができました。

OPAC

ありがとうございました。皆様、画面上で意見を集約しておりますが、他にも意見があるという方はぜひ教えてください。個人的な意見ですが、貧困は争いの要因としてはこの中に入らないでしょうか。



長崎チーム

私たちが議論をした中では、学歴の差や格差が貧困を生んでいるのではないかという意見がありました。

OPAC

格差が貧困を生み出してしまうということですね。他にも新しい意見があればご提示いただきたいと思います。

沖縄チーム

争いがなぜ起きるのかということですが、人間は争わないと理解しあえない動物なのだろうかと考えていたのですが、例えば裁判では、双方が言い争うことで分かり合うこともあると思うので、争いは相手のことを理解するために起きるのではないかと考えています。現代社会では争いの手段が問われており、過去には戦争によって無理やり相手に理解させたこともありましたが、現在は話し合いなどが用いられるなど、手段が問われているのかもしれないと思っています。

OPAC

争いを無くしていくことはできないけれども、その手段を変えていくことはできるということですね。今の意見に対してどのように思われますか。

台湾チーム

私たちも沖縄チームの意見にほぼ同意できると思います。多分、人間同士の争いというのは日常でも起きていて、例えば恋人の間でもありますし、国同士になると昔は戦争といった攻撃的な手段しかありませんでしたが、これからは対話などの平和的な方法で進めていく必要があるのかと思います。

OPAC

ありがとうございます。では、ここからは既に出されている意見について、質問があればお伺いできますか？

ベトナムチーム

沖縄チームの意見に質問があります。価値観の違いという点は理解できるのですが、正義については人によって違うとされていて、沖縄チームにとって正義というのはどういうものなのか教えていただけませんか？



沖縄チーム

個人の意見としては定義が難しいのですが、個々人の信念であったり大事にしていることであったりするのかなと思っています。沖縄戦においては天皇を称える思想が「正義」であったように、国や個人が持つ信念なのかなと思っています。逆にお聞きしたいのですが、ベトナムチームの思う正義について教えていただけますか？

ベトナムチーム

自分の国を愛して、自分の命をささげて国を護るということだと思っています。

沖縄チーム

回答ありがとうございます。ベトナムチームの回答も理解できるのですが、やはり沖縄は沖縄戦において4人に1人が亡くなっており、その歴史から私たちが得たものは「命どう宝」という、国よりも自分の命が大切ということを学んでいることもあり、意見の違いというか価値観の違いのようなものを感じました。ありがとうございます。

OPAC

今の沖縄チームとベトナムチームのやり取りのように、既に出てきている意見について追加で聞いてみたいことがあれば、意見を聞きたいと思っています。各チームからひとつずつ意見をお伺いしていきます。先に沖縄チームお願いいたします。



沖縄チーム

まず、聞きたいことがあります。皆さんの国に徴兵制度はありますか？（徴兵制度がある国としてベトナム、台湾、韓国が挙手）日本には徴兵制度がないのですが、徴兵制度がある国にお聞きします。徴兵されて訓練などに参加する際の思いについて教えていただけますか？

ベトナムチーム

ベトナムには徴兵制度があり、それは人々の義務になっています。しかし、昨今は男性だけが参加しており、女性は希望者のみとなっております。また、ベトナムは現在平和なので、徴兵制度に反対する人もいないのですが、そういった人は非常に少ないのではないかと思います。

台湾チーム

台湾にも徴兵制度があります。私は今年、軍事訓練を終えたばかりなのですが、軍事訓練の中では、武器を使った訓練やトレーニングを行います。台湾人の全員が訓練に参加する必要はないと思っており、それは時間の無駄だと思っています。

韓国チーム

私は、20歳になって軍隊にいきました。高校生まではどのようにして人を助けるのか、どのようにして人々と平和に暮らすのかという価値観を学校や家でも学んできました。しかし、軍隊に入った瞬間、どうやって人を殺すのか、どうやって効果的に人を制圧するのか、ということ学んだので、20歳のころにアイデンティティの混乱のようなものが生じました。

沖縄チーム

韓国、台湾のほうから軍事訓練に参加したという方がいらっしゃいましたが、訓練に参加する前後で気持ちの変化はありましたでしょうか。

台湾チーム

台湾の軍事訓練期間は約4か月で、たった4か月の訓練に参加するだけでは大きな変化はないと思うので、時間の無駄だと思っています。

韓国チーム

軍隊では人をどのように殺すのかなど色々なことを学びます。軍隊の生活で学んだ考え方、習慣、思想などは、兵役を終えた後も引き続き影響をもちます。就職したり、自分が社会人になったりしても、自分の中にいわゆる「軍隊文化」が残っており、そのような文化が韓国社会の中のある種の男性文化にもつながっています。なので、韓国の男性社会が「軍隊文化」のようになっているとの思いがあります。



OPAC

次にベトナムチームから質問を願いたします。

ベトナムチーム

争いにはよい面があるのでしょうか？というのが私たちからの質問です。

OPAC

先ほど広島チームからこの質問に関連する意見が述べられていたと思いますので、広島チームから回答を願うことができますか？

広島チーム

私たちが考えるよい面を持つ争いとして、お互いを認め合ったうえで、お互いを高めあうことができるものだと思います。お互いのいいところを知ったうえで競い合いながら高めあう、ケンカや暴力に依るものではなくて、高めあうことができるものが、いい面を持つ争いの種類だと思います。

OPAC

次に台湾チームから質問を願いたします。

台湾チーム

先ほど徴兵制の話について質問を受けましたが、今回は逆に日本にいる皆さんに向けて聞きたいと思います。皆さんや皆さんと同じ20代前後の学生は徴兵制に対してどのような考えを持っていますか？



沖縄チーム

率直な意見ですと日本にも昔、徴兵制度がありました二度と復活してほしくない制度だと思っていて、いい印象は持っていません。日本の憲法でも平和主義などが書かれていますし、戦争に向けた準備をするということで嫌悪感を感じる制度かなと思います。

長崎チーム

色々な意見があると思いますが、自分が徴兵されたくはないなと思います。戦争が起きた際には誰かがしなければいけないことだとは思いますが、私は怖いしきたくないなと思ってしまう。

広島チーム

沖縄の方の意見にすごく共感します。嫌悪感があるし、「戦争の準備をするなんて」という抵抗感もすごくあります。しかし徴兵制に抵抗を感じる一方で、日本には軍隊ではないということになっている自衛隊という組織があり、私はそれに対する自己矛盾を抱えています。自分の国や感情の中でも矛盾が生じていることを感じています。

OPAC

続いて、長崎チームからお願いいたします。

長崎チーム

先ほど沖縄チームが争いを無くすことは難しいが、手段を考えていくことが大切と言われていましたが、その手段としてはどういったものがあるのでしょうか？

沖縄チーム

話し合いなどによる論争は平和的にお互いを理解するためのいい意味での争いではないかと思っています。

長崎チーム

話し合いをすることは大事だと思いますが、相手が話し合いに応じない場合はどのようにすべきだと思いますか？

沖縄チーム

継続的に話し合いをしようという努力はしつつも、それでも話し合いができない場合は、どちらにも不利益が生じないように折れることが大切なのかなと思っているのですが、そこは人類として未来永劫の課題であるとも感じています。

長崎チーム

私は、譲歩にも時と場合があるのだと思っていて、相手が話し合いに応じないという時点で、既に譲歩をしているとも言えるので、やはり手段というのは色々と考えなければいけないのかなと私は思っています。

OPAC

先ほど広島チームのほうからも手段に関する意見が上がっていたかと思うのですが、これまでの長崎チームと沖縄チームのやり取りをご覧になって、相手が話し合いに応じない場合にとりうる手段としてどのようなものがあると思いますか？

広島チーム

例えば国同士の争いの場合、解決する方法が色々あると思っていて、力によるもの、お互いの利益を調整していく方法、あとは国際的に規範をつくっていくなど、色々段階があると思います。核兵器の問題では、冷戦期にアメリカとソ連による抑止力による対立がありましたが、そのやり方にも限界が訪れました。また、新しく核兵器を持つとする国が交渉に応じなかったこともあり、多国間交渉をしたり、核兵器を持っていない国々が話し合いをして人間性という視点から規範を作っていくと核兵器禁止条約ができました。このように視点を変えて別のアプローチを進めていくことも必要なのかなと思っています。

長崎チーム

やはり、なかなか難しく一つの答えではないということがわかりました。話し合いだけでなく、色々な考え方ですり合わせていくことが大事なのかもしれませんね。

OPAC

ここまで「争いはなぜ起きるのか」について議論してきましたが、このテーマについてはここで終了としたいと思います。

個々の人間に焦点を当てていくと、争いを避けるのは難しいのではないかという意見がいくつかの地域から出てきたかと思えます。また、争いを解決するための手段を検討していかなければならないのではという意見もありました。さらに、個々の争いがおこる前提や基礎の部分では価値観や格差が争いを起こす火種のような役割を持っているのかもしれないという意見もありました。

また、非常に面白かったのが、争いという状態が常態であり、平和という状態を作り出すには何らかの努力が必要であるという認識が多くの地域で共有されていた点でした。従いまして、平和というのはただ待っているだけではなく、何らかのエネルギーを使って作り出していく状態だと認識されているのかと理解いたしました。非常に興味深いセッションをありがとうございました。



****第2セッション****

テーマ	平和な状態とは何か
日時	2020年11月27日(金)
講師	沖縄平和協力センター(OPAC)
場所	那覇市人材育成支援センター まーいまーい Naha

ディスカッション概要

◆平和な状態に関する意見

- ・戦争がない状態が平和でなく、基本的人権や個人の幸福など、個々人が希望を持てたり、個人の平和を追求できたりする環境が平和なのではないか。
- ・人々の抱く平和のイメージが時代とともに変化しているかもしれないし、それを脅かす脅威も変化してきているために、だれもが共感する平和を想定することは難しいのかもしれないが、だれもが何らかの形で平和のイメージを持っている。

◆平和を作り出すための手段に関する意見

- ・現実社会に存在する、身分、貧富、性別、障がいの有無などに関わらず、等しい立場で平和的に争うことができる場の創設が必要ではないか。
- ・国家間で協力して環境問題や貧困問題などに取り組む共助の形が必要ではないか。

——ディスカッション(平和な状態とは何か)——

OPAC

第2セッションでは「平和な状態とは何か」、つまり平和とはどのような状態なのかについて意見を聞きたいと思っています。各チーム発表をお願いします。

ベトナムチーム

平和とは、戦争がなくなるというイメージが一般的だと思います。しかし、この考え方では十分ではないと思っています。平和とは基本的人権が守られる、戦争・暴力・飢饉がない、医療環境が良いなどという状態だと思っています。つまり、平和は社会、政治、国際関係などの、全体の安定のことだと思っています。

平和とは

平和といえば、戦争がない、戦争がなくなるというイメージがいっぱい

平和とは基本的人権が守られる、戦争・暴力・飢饉がない、医療が良いなどという状態

社会、政治、国際関係など、全面の安定

広島チーム

私たちのチームでは、これまでの人類の歴史の中で平和という状態があったのかという話題になり、議論の結果、平和というものは達成されることがないという意見になりました。例えば正しいかどうかはわかりませんが、平和とはある種の神様のような絶対的な何かがあり、それを1人1人思うところは違うけれどもみんな信じていて、それを民主的に話し合いながら、お互いを理解しあえる状況が平和に持っていける状況なのではないかという話になりました。

OPAC

一通り全地域から意見をいただきました。他の地域からの意見を聞きながら思いついた新たな意見や質問などがあればお伺いしたいと思います。

ベトナムチーム

長崎チームに質問があります。先ほど時代に合わせた平和の形があるという意見を発表されていましたが、どういう形があると考えていますか？



長崎チーム

昔は、戦争がないことが平和のようなものと考えられていたと思いますが、現代では「戦争がない＝平和」という考え方ではなく、個人の貧困などに着目したり、個人の幸せが守られていたりする状態が平和なのではないかなと思います。

OPAC

次に韓国チームからの質問です。

韓国チーム

オンライン共同学習をする必要がなくなっている状態が平和な状態だと思っています。

OPAC

今回のオンライン共同学習のように、平和を継承したり考えていく必要がなくなっている社会、つまり、既に平和が社会の中にある状態と言うことですね。

OPAC

次に広島から早手が挙がっていますのでよろしくお願いいたします。

広島チーム

韓国チームから出てきた、オンライン学習をしなくてもいいという意見について、チーム内で話し合いました。平和というものが達成されたとしても、こういった学習や意見交換の場はあったほうがいいというのが私たちの意見です。例として、広島には広島平和資料館があり原爆の恐ろしさを伝えていますが、この世の中から原爆が亡くなったとしてもそれは続けていかなければならないとっていて、それは、亡くなったとしてまた造られてしまう可能性があるかもしれず、平和になったとしても話し合いの場は必要なのではないかという意見となりました。

韓国チーム

オンライン共同学習をしなくてもいいということについては、色々な意味があると思うのですが、私たちの意図としては、コロナ禍のために直接お会いできず、対面で一緒に踊ったり、飲んだり、学習をしたりする機会がなく、先ほどベトナムチームが医療に関する意見を述べられたので、医療や健康という視点から見ると今は平和ではないのではという意味でした。

OPAC

ごめんなさい、私の理解が韓国チームの趣旨とは異なっていたようで申し訳ありません。
では次にベトナムチームにお願いいたします。

ベトナムチーム

今はコロナ禍にあります、コロナウイルスは争いの原因の1つだといえると思いますか？という質問をさせていただきたくて思っています。

コロナわざわい、
今の状況は平和と言える？
コロナウイルスは争い原因の一つだと言える？

沖縄チーム

新型コロナウイルス感染症拡大が争いの原因になっているかと聞かれれば、大きな争いになることはないと思うのですが、小さいコミュニティ内ではウイルスにかかってしまったことで、「あの人たちはウイルスに感染しているから近づかないでよ」といった差別につながってしまい、争いが起きる原因になるのかもしれないとは思っています。

韓国チーム

医療サービスについて意見がありましたが、医療サービスにあっては、例えばお金や貧富の差がワクチン接種の順序についても影響してくると思いますが、医療における不平等をなくすためにはどういう方法が必要でしょうか？

OPAC

韓国チームから新たな質問をいただいたのですが、残り時間が限られているため、先に他のチームから質問や意見をいただいて時間が余っていれば、今いただいた質問についてほかの地域に聞いてみるという対応にしたいと思います。ごめんなさい。では引き続き台湾チームから意見を伺いたいと思います。

台湾チーム

沖縄チームが発表した「脅威がない」という意見に非常に共感したのですが、沖縄チームは基地を大きな脅威と認識されているのかと思いますが、台湾も同様に脅威が存在している状況であり、沖縄から見て台湾は平和な状態にあると思いますか？

沖縄チーム

去年、私は3か月間台湾に滞在していたのですが、台湾はとても平和な気がしました。しかし、某国からの圧力が台湾にかかっているという話を台湾の友人からも聞いていて、また、その子の親の世代は選挙の話などもしていたので、大変な状況に置かれていて沖縄と似た構造を持っているなと感じました。

沖縄チーム

広島チームへの質問なのですが、先ほど平和な状態について話をされた際に民主的な空間で対話を重ねていくことが平和につながるのではないのかと言われていましたが、私は、沖縄には、沖縄の問題について民主的に対話をしていく空間がないのではと感じています。そこでどうすれば沖縄は民主的な対話の機会を持つことができるのか意見を聞いてみたいと思っています。



広島チーム

具体的ではないかもしれませんが、個人的には対話が段階的に進んでいく中で、まずは「知ること」を大事にしています。国内でも世界でも様々な問題があって、知ることや共感することで前に進んでいくと信じているので、このような意見交換の機会を利用して様々な地域のことを勉強してみる。また、今であれば直接会うのではなく SNS を利用するなど、知る人を増やしていくことで、その先に国同士や地域同士の大きな話し合いの場ができるのではないかと考えています。

沖縄チーム

意見を参考にさせていただきます。ありがとうございます。

OPAC

残りは長崎チームになります。よろしくお願いたします。

長崎チーム

ベトナムチームもしくは韓国チームだったと思いますが、コロナ禍における医療制度に関する意見があったと思います。日本の医療制度は一部負担で医療を受けることができますが、ほかの地域ではどのような医療制度となっているのでしょうか。特に新型コロナウイルスへの対応だけではなく、貧富の差を問わず医療を受けることができるのか伺いたと思っています。



OPAC

これは日本以外の地域への質問となりますね。

台湾チーム

私の理解している範囲で回答させていただきます。台湾の保険制度は全民健康保険といって、台湾人に限らず外国人でも一定の保険料を納めていれば医療を受けることができる制度です。昨今のニュースを見ている限りでは、台湾の保険医療制度は整っているという印象を持っています。

韓国チーム

韓国の保険医療制度も日本や台湾と同じものです。国民保険制度によって医療サービスを受けることができます。

ベトナムチーム

ベトナムには民族保険というものがあり、それによって医療を無償で受けることができたり、医療費が減額になったりします。新型コロナウイルスについては、ウイルスが広がった当初はすべての患者が無料で医療を受けることができましたが、現在は医療費を少し払わないといけません。

OPAC

ありがとうございました。本来であれば、私と皆さんでこれまでに出てきた意見のまとめを行うべきところですが、時間がないため、私が簡単にまとめをさせていただきます。

OPAC

まず、平和については皆さんが同じイメージを持っているわけではないと感じました。沖縄チーム、長崎チームは個人の自由だったり、個人が選択できる環境だったり、個人の衣食住などに焦点を当てていたと思います。また、参加地域全体の意見における共通点として、戦争がない状態を個人の幸福の前提にしている点があります。次に、普遍的な平和が存在しない理由としては、脅威も多様であるという事かと思われました。例えば台湾であれば、安全保障上の脅威がありますし、世界全体で見ればコロナウイルスという脅威があるように、平和を定義しづらい環境が継続しているのかと思いました。そういう意味では広島チームが述べていた「平和という状態はいまだかつて存在していないのではないか」という意見は、真実かもしれません。台湾と韓国は具体的な手段を提案されていたと思います。台湾からは国と国が協力しあう共助という関係性が必要という提案、韓国からは争いを平和的に解決するため、もしくは、争いをしていくための民主的で平等な空間が設けられるべきであるという提案をいただきました。最後に、ベトナムは個々人の幸せも大事であるし、手段も大事だということに、これまでの意見を包括する意見を提示されておりました。簡単ではありますが、まとめとなります。



本日のお昼から継続してきたディスカッションですが、これにて終了となります。本日はディスカッションにご協力いただきありがとうございました。



(6) 5 日目 各地域のアクションプラン発表

*****アクションプラン発表*****

日 時	2020 年 11 月 28 日 (土)
場 所	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha
司 会	沖縄平和協力センター (OPAC)

各チームのアクションプラン概要

◆広島チーム

オンライン共同学習の参加者がSNSを通じて身近な知人に向けて共同学習の感想などを発信することで、若者がSNS上で戦争や政治に関する投稿を行うことが「クール」だという文化を創りたい。

◆韓国チーム

現実社会に存在する立場や身分の隔てなく平和を発信・交流・継承する架け橋の役割を果たすことができる平和プラットフォームを構築・運用し、だれもがいつでも平和に関するコンテンツを共有できるようにする。

◆長崎チーム

日本国内外の学生を対象とし、オンラインで被爆者による被ばく体験講話を聴いてもらい、その後、感想の発表や交流を通じて、戦争被害を受けた地域とそうでない地域の間に存在する知識差を埋めていきたい。

◆台湾チーム

台湾国内の大学で、2.28事件に関する講義を提供し、講義の中で事件に関する記念公園を訪問し、台湾の若い世代に2.28事件について知ってもらうことで民主的価値と平和の大切さを知ってもらいたい。

◆ベトナムチーム

ベトナムの国や文化、ベトナム戦争について理解し、ベトナムと日本の友好関係を深めることを目的として、日本の大学生とホーチミン市師範学校の生徒と一緒にフィールドリサーチを行う。

◆沖縄チーム

沖縄の歴史や習慣に関する動画を制作し、来沖する人々向けに飛行機で流したり、修学旅行生などと沖縄の学生が対話する場を設けたり、共感型のワークショップを開催する。

広島チームによるアクションプランの発表



> 広島チーム

私たちのアクションプランでは、このオンライン共同学習の参加者が身近な友達に向けて、SNS で共同

学習の感想などを発信するというものです。どうしてこのアクションプランになったのかというと、今年、沖縄慰霊の日に Youtube のライブ配信を見ていたのですが、最近沖縄の若者の間で慰霊の日が近くなると SNS に「おじいちゃんに昔の話を聞いてみよう」といった投稿が行われていて、若者の間で SNS に戦争のことなどを書き込むことがクールに思われ始めているということを知りました。それを聞いて、若者が政治のことや戦争のことを発信することを「クールだっていう文化」を創るということが重要だなと気づき、自分の身近なところから、今まさにこのプログラムに参加者が発信をしてはどうかと思い、アクションプランを作成しました。

> OPAC

ありがとうございます。質問ですが、このアクションを進めることで、どのような社会をつかっていきたいと考えていますか？

> 広島チーム

最終目標としては、SNS を利用して参加者が発信していくことで、若者に「政治についても私たちが発信していいんだ」、「発信することっていいな」と思ってもらって、そういう輪が広がっていけばいいなと思っています。

> OPAC

追加説明ありがとうございます。広島チームからの発表に対して質問があればお願いします。まずは沖縄チームお願いいたします。

> 沖縄チーム

沖縄では、6月23日前後、SNS 上で慰霊の日について投稿が増えますが、広島や長崎でも原爆の慰霊祭や原爆投下の日には若い人が「原爆について考えよう」という投稿をすることはありますか？

> 広島チーム

私は広島に住んでいて、広島の学生と交流があり

ますが、広島の学生の中では原爆について知っているのは当たり前であって、それを SNS で発信するのはすこし「恥ずかしい」、「真面目過ぎる」という文化があり、広島で SNS を使って発信をするという人は限られていると思います。

> 沖縄チーム

沖縄では青い海や自然だとか、今の状況に感謝するような形で慰霊の日に触れているので、「真面目過ぎる」とは思われなと思うので、一緒に SNS で拡散していきましょう。



> 広島チーム

もちろんです！

> OPAC

次は韓国から質問があるようです。お願いいたします。

> 韓国チーム

発表ありがとうございます。各国の言語が違うことが、話し合いを進めるうえでの難しさの1つだと思うのですが、これに対する何らかのアイデアがあれば教えてください。

> 広島チーム

確かに、言語の壁はあると思いますが、それを乗り越えることができる可能性を持っているものが、写真や絵だと思っています。私たちが発表の際に利用したスライドを思い出していただくと、絵や写真をたくさん使っていました。それは目で見て一瞬でわかるものを使うことで心に訴えるものがあるのではないかと狙いで、絵や写真をたくさん使っているのも、写真や絵というのは言語の壁を乗り越える手段になるのではないかと考えています。



> OPAC

ありがとうございました。広島チームに拍手をお願いいたします。

韓国チームによるアクションプランの発表



>韓国チーム

韓国チームから提案したいアクションプランのタイトルは「平和プラットフォームの構築・運用」です。プランの目的は、今回のオンライン共同学習において各地域の参加者が語り合ったアイデアを拡大し再生産するために、だれもがいつでもコンテンツを共有できるインターネット・プラットフォームを構築するというものです。このプラットフォームは、差別や不平等が横行する現実世界で平和を発信・交流・継承するにあたって架け橋の役割を果たすことができます。具体的には、アジア・太平洋地域を含む全世界の人々がアジア・太平洋地域を含む全世界の人々に対して、各地域の平和コンテンツを自由に共有します。例えば、だれでも自由に各地域の平和祈念館や博物館を旅することができるVlogを作成して、発信し、意見を交換することが挙げられます。この場合、誰もが情報の発信者であり受信者となります。これによって自分の周りにはある争いや平和に関する出来事を共有することができます。

> OPAC

ありがとうございました。今の韓国チームからのアクションプランについて、ベトナムチームから手が挙がっていますね。お願いいたします。

>ベトナムチーム

発表ありがとうございました。発表いただいたアクションプランについて、誰が行っていくのかということについて質問があります。アジア・太平洋地域を含む全世界の人々ということ、かなり対象が広いと思っており、具体的にどの国や団体なのか、だれが主体者となってプラットフォームを構築するのか教えてほしいです。



>韓国チーム

質問ありがとうございます。平和プラットフォーム構築の主体は沖縄県のように資本や組織を持っている主体が妥当かと思えます。ターゲットは、その都度異なるのかと思えますが、重要な点は誰もが自由に情報を投稿したり、見たりすることができるということです。

> OPAC

回答いただきありがとうございました。韓国チーム発表ありがとうございました。

長崎チームによるアクションプランの発表

【長崎チーム】戦争と平和についての理解	
FORMAT プランの目的・ゴール 東部に戦争の被害を受けた地域とそうでない地域の戦争の知識の差を埋める。そして、平和について考え、私たちにできることを実際に活動する。大学生は、戦争や紛争の残酷さを知ってもらう。戦争を知るきっかけを作り、交流の場で得た知識を基に、それぞれの県や国で発信してもらう。	
Who (誰が)	長崎県内の大学生が
to/with Whom (誰に/誰と/誰に対して)	日本の学生(都道府県にこだわらない)や留学生と
What (何をする)	オンラインを通じて貴重な被害者による被爆体験講話を聞き、感じたことをディスカッションして、戦争の理解を深め、私たちに何ができるのかを考える。交流する機会を作り、ブレイクタイムを設けながら仲を深めた上で発表を行い、戦争への理解を深めてもらう。

>長崎チーム

「戦争と平和への理解」というタイトルのアクションプランを作成しました。プランの目的とゴールは、実際に戦争被害を受けた地域とそうでない地域の間には、その戦争に関する知識の差があると思うのでその差を埋めることです。そして、平和について考える時間を設けて、私たちにできることを考えながら実際に活動していく、というものです。また、大学生に対して戦争や紛争の残酷さを知ってもらう。戦争を知るきっかけをつくり、交流の場で得た知識をもとに、それぞれの県や国で情報を発信してもらう、ということもプランの目的となります。また、対象は長崎県内の大学生や日本の学生、留学生としています。彼らに、オンラインで被爆者による貴重な被ばく体験講話を聞いてもらい、感じたことをディスカッションし、何ができるのかを考えるという案となっています。更に、まったく交流のない人から話を聞くよりも、仲のいい人から話を聞くことで理解が促進されると考えているので、長崎の学生と他県の学生の間でブレイクタイムという時間を持ち、自己紹介などで仲を深めてもらったうえで発表を行うことで、戦争への理解をより深めてもらうという内容になっています。

> OPAC

発表ありがとうございます。長崎が発表したアクションプランに対して、韓国チームから手が挙がっております。よろしくお祈りします。

>韓国チーム

発表ありがとうございました。アクションプランについては十分に理解できました。発表いただいたアクションプランの具体例となるものがもしあれば、それを教えていただきたいのですがいかがでしょうか？

>長崎チーム

長崎では各高校から選ばれた生徒が平和大使として活動しています。平和大使は長崎以外の県に出向いて平和に関する活動を行っています。平和大使というのは、国境、人種、宗教の壁を越えて日本と世界の平和を実現に寄与するグローバルリーダーということになっていて、おそらく、平和大使に関する活動には広島からも参加されていると思います。その他にも、長崎では核兵器の廃絶に向けた署名活動も行われており、集まった署名は毎年ジュネーブにある国連平和本部に送付されています。



> OPAC

回答ありがとうございます。これで長崎チームによる発表を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

台湾チームによるアクションプランの発表



>台湾チーム

私たちのアクションプランの最終的な目的は、台湾の若い世代に2.28事件についてもっと知ってもら

うというものです。歴史を知ってもらうことで今の民主的価値観と平和の大切さを理解してもらうということが目的となっています。次に、どうやってこれを進めていくのかというと、台湾各地域の大学が大学生全員に対して授業の一環として各地域の2.28事件の記念公園や記念館などを見学しに行く機会を提供します。私たちの発表でもお伝えしましたが、台湾は北から東部まで、2.28事件に関する記念碑が結構な数存在していますが、そういった場に行ってしまうことで、2月28日が祝日となっている意義を知ってもらいたいと思っています。

> OPAC

発表ありがとうございました。長崎チームから手が挙がっていますので、長崎チーム質問をお願いいたします。

>長崎チーム

発表ありがとうございました。気になった点として、台湾の学生を中心に活動をするということでしたが、世界各国の学生を対象とした活動も選択肢としてはあるのかなと思ったのですが、どう思われますか？



>台湾チーム

もちろん、最終的には世界の学生たちと交流できればよいと思っていますが、今、私たちが注目している問題としては、2.28事件について台湾国内の若者でさえあまり知らない現状があるので、先に台湾国内の若い人たちに知ってもらいつつ、その後、その他の地域の人たちと一緒にやっていければいいのかなと思っています。

> OPAC

回答ありがとうございました。続いて沖縄チームから質問があるようです、お願いいたします。

>沖縄チーム

発表されたアクションプランでは、大学生が2.28事件に関する記念碑などを見学に行くということでしたが、見学を終えてから実施するアクションプランは考えていたりしますか？



>台湾チーム

アクションプランは、大学の授業の一環としてできればいいのではないかと考えているので、学生にレポートなどを作成してもらうこともできると思いますが、やはり、一番大切なことは知ってもらうことなので、単純にレポートを書いてもらうのではなく、その場に行ってもらおうということが一番大きな意義だと考えています。

> OPAC

沖縄チームも今の回答で理解いただけたようですが、もう一つ質問があるようです。

>沖縄チーム

アクションプランを発表されたスライドの右側に台湾の地図がありましたが、2.28事件の記念公園は台北に集中している感じがしたのですが、例えば、記念公園が多い台北地域の人とそれ以外の地域の人では2.28事件に関する知識の差はあると感じますか？

>台湾チーム

質問の内容としては、記念公園などが少ない東部地域の人と台北地域の人と比較だと理解しました。おそらく、台湾全体で2.28事件に関する知識の差というものはありません。全国的にあまり知られていないことが大きな問題かなと思っています。台湾は小さいので、東部の学生であっても2、3時間で台北に行けますし、修学旅行として台北に行ったり、他地域の2.28事件記念碑や公園に行ったりすることができると思います。なので、そういった記念公園などに行って2.28事件について学んでもらうことが1つの目的になると思っています。

> OPAC

沖縄チームも今の回答で理解いただいたようです。これにて台湾チームの発表を終了します。

ベトナムチームによるアクションプランの発表

【ベトナム】海外語学社会研修プログラム	
プランの目的・ゴール	ベトナム国・文化・人間のことを理解する 戦争に関する知識を高める 両国の友好を深める
Who (誰が)	ホーチミン市師範大学日本語学部の 教師・学生
to/with Whom (誰に/誰と/誰に対して)	日本の協定大学の学生
What (何を)	1. 文化・言語の授業を行う 2. 一緒にベトナムでの戦争に関する博物館、名所に訪問する 3. 枯葉剤の被害者に会いに行く

>ベトナムチーム

これよりアクションプランの発表を行います。私たちのアクションプランでは、ホーチミン市師範大学日本語学部の学生が先生たちのサポートを受けて、ベトナムに来た日本の協定大学の学生と一緒にフィールドリサーチを行うというプログラムを考えました。このプランの最初のゴールはベトナムという国・文化・人々を理解すること、2番目は戦争に関する知識を高めること、3番目は両国の友好関係を深めることとなります。このプログラムでは、ベトナム語やベトナム文化に関する講義だけではなく、ベトナムの学生がベトナム戦争の遺構や戦跡などを案内します。日本人の若者は統一会堂や戦争証跡博物館、クチトンネルなど、ベトナム戦争に関連する場を見学します。また、枯葉剤の影響を受けて障がいをもって生まれた子どもがいる家族を訪問して、戦争が残した痛みはどういうものなのかという点について話を聞いたりします。プログラムの最終日に師範大学の学生と日本人の学生は実際に見聞きしたこと、感想、プログラムへの参加前後でどんな変化があったか発表を行います。また、本プログラムに参加した日本人学生が、5年後や10年後に再度ベトナムを訪れて、枯葉剤の被害に遭った家族を再訪したり、ボランティア活動をしたりすることも期待しています。

> OPAC

ありがとうございました。ベトナムチームからの発表に沖縄チームから質問があるようです、よろしくお願いします。

>沖縄チーム

両国の友好を深めるということで、日本をターゲットに挙げておられますが、ベトナムが友好関係を築いていく相手としては、アメリカなのではと思ったのですが、なぜ日本をターゲットに選ばれたのですか？



>ベトナムチーム

理由が2つあります。1つ目はこのアクションプランでは、私たちが日本語学部に所属しており日本語の能力があるという点も考慮に入れつつ、自分たち学生がどこまでできるのか、という視点でアクションプランを作りました。2つ目の理由は、アメリカの関係は大切ですが、ベトナム人にとってはアメリカや日本、その他の国との友好関係は等しく大切なものなので、どこの国を優先すべきということは考えていません。

> OPAC

2つの理由を説明いただきましたが、沖縄チームにも理解いただけたようです。ありがとうございました。これにてベトナムチームからの発表を終了いたします。ありがとうございました。

沖縄チームによるアクションプランの発表



> 沖縄チーム

私たちのアクションプランのゴールは、違いを認めたくて争いを無くすということが目標となっています。今までのディスカッションの中で、おそらく広島チームからの発表でしたが、「それぞれの宗教とか信念の違いを認め合い、そのうえで民主的な話し合いを持つ」という意見に私たちも共感しました。なので、私たちはこれをゴールにしています。このアクションプランでは、私たちが同世代の人に対して違いを認知してもらうために何ができるのかということで、3つのアイデアを考えました。1つ目は、沖縄に関する動画を制作して飛行機で流すというものです。例えばパラオでは既に実施されているのですが、沖縄でパワースポット化している場所に焦点をあて、「ここはお祈りをするための場所となっているので観光の方は入ることができないよ」というマナーや知識に関する動画を制作し、飛行機で観光客向けに流すというものです。また、この動画を見た観光客が友人同士で「こういった違いがあるのか」と対話してもらう空気が作れたらいいなと思っています。次に、私たちや沖縄について学んでいる人たちが修学旅行生や県内の大学生に対して、心から腹を割って対話する場を設けるというのもいい例かなと思いました。最後に、フォトランゲージを使って共感型のワークショップをするというのは、沖縄県内の学校で戦前の写真や本土復帰直後の写真を見せて、「これはどういう写真でしょうか？」と問いかけ、その後グループでディスカッションをしたうえで発表をしてもらうというものです。ワークショップの最後には、私たちが写真の説明を行います。事前の知識は必要なくて、自分たちで想像力を使って考えてもらった後に、説明を聞くことで「なるほど」と感じてもらえると思うので、共感型ワークショップをするというのはよい例かなと思いました。

> OPAC

沖縄チームの発表に対して韓国チームと長崎チームから手が挙がっていますので、韓国、長崎の順に質問をお願いいたします。

> 韓国チーム

先ほど動画を作成してそれを飛行機の中で放映するとありましたが、なぜ飛行機を選ばれたのか教えていただけますか？

> 沖縄チーム

沖縄は島なので、飛行機がおもに使われていて、機内誌のような感覚で視てもらいたいと思っています。離陸前に緊急脱出の案内などがありますが、あのようなイメージで観光客のみんなが視聴できるようにし、沖縄がどんな場所なのか紹介するという感じです。

> OPAC

ありがとうございます。では、続いて長崎チームをお願いいたします。

> 長崎チーム

韓国チームの質問とも関連しているのですが、動画を放映するのは沖縄に到着する便ということですか？また、沖縄から国際便があれば、英語版を作って放映するのもいいと思うのですがどう思われますか？

> 沖縄チーム

沖縄に来る前に知っていただきたいので沖縄に到着する便で放映することを考えていました。また英語版をつくることは賛成です。



> OPAC

ありがとうございます。韓国チームから再度手があがっておりますので、よろしくお祈りいたします。

> 韓国チーム

飛行機で視聴するということでしたが、飛行機ですと中産階級の人々しか利用できないのではと思っています。また、沖縄から遠い海外の人は飛行機を乗り継いで沖縄に来ることが困難かと思いました。そうすると、結果的に沖縄からの発信力が限定的になってしまうと思いますが、どうでしょうか。



> 沖縄チーム

確かに沖縄は遠隔地からは訪問しづらい場所かもしれないですね。考えたことがなかったですね。沖縄

に来ることができない人たち向けに、韓国が提案してくれたような平和プラットフォームで沖縄に来てくださった方が、沖縄の実情を紹介・拡散してもらえればありがたいなと思っています。

> 韓国チーム

このようなコラボレーションは素晴らしいアイデアだと思います。

> OPAC

コラボレーションの実現を期待しております。これにて沖縄チームの発表を終了といたします。ありがとうございました。参加いただいているチームすべてから発表をいただきました。素晴らしいアクションプランを考えていただきありがとうございました。

沖縄県によるアクションプランへのコメント

> OPAC

皆さんのアクションプランについて、本事業の主催者である沖縄県よりコメントを頂戴したいと思います。

> 沖縄県

アクションプランの発表ありがとうございました。私どもも取り入れてきたいなと考えさせられる非常に素晴らしいアクションプランがあり、たくさんのメモをとらせていただきました。初日のセレモニーにも参加しましたが、皆さんの表情を見比べるとまた違った表情をされていますね。沖縄チームによる三線の演奏やかチャーシーから初日が始まり、各地域の発表やディスカッションで得た情報を取り入れつつアクションプランが作成され、また、アクションプランに対する質問も深く考えられていました。他地域からの提案を取り入れたり、協力を求めたりするなど、私も楽しく参加させていただきました。今後皆さんには、作成されたアクションプランも踏まえつつ、それぞれの地域でそれぞれの事情に応じながら、今回の経験を生かしていただければ幸いです。ありがとうございました。



(7) 5日目 閉会式

5日間にわたる「オンライン共同学習」は、参加者による積極的な意見交換がなされ、それぞれの考える平和な社会づくりに向けたアクションプランが作成された。5日間を通して安定したオンライン接続が確保され、閉会式を迎えた。

沖縄県の主管課長による閉会のあいさつの後、参加者は各地域でソフトドリンクを用意し、5日間のお互いの頑張りを「乾杯（カリー）」で労った。

また、それぞれのチームには、地域を象徴するような小物などを用意してもらい、オンライン上で記念撮影を行った。

全日程が終了し、スクリーンの向こうにいる参加者が続々と消えていくのを、沖縄チームは寂しそうに見送っていた。直に会えない状況のなか、また5日間という短い期間であったが参加学生たちは友情を育てていたようであった。

閉会の挨拶



沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課長 榎原 千夏

乾杯（カリー）



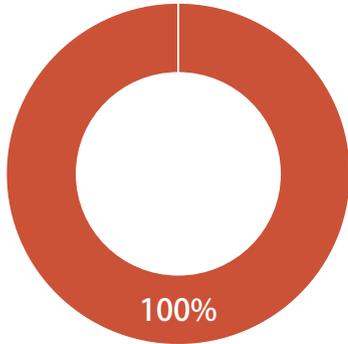
第3部 事業評価



1 アンケート結果

本事業の全体的な満足度

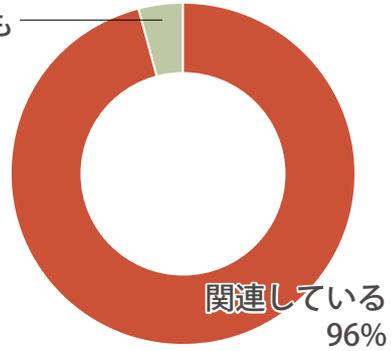
「とても満足」「満足」と回答した参加者



本事業と自分の専門分野との関連性

「非常に関連している」「関連している」と回答した参加者

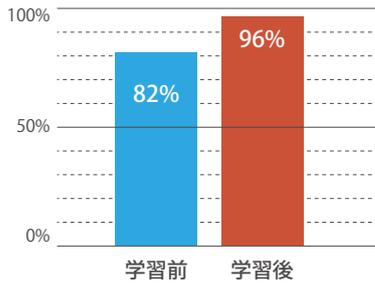
どちらとも
いえない
4%



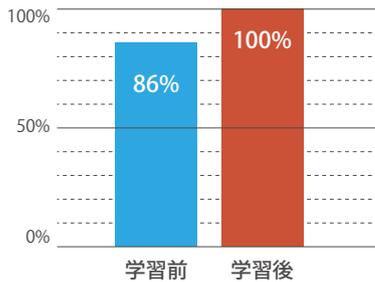
テーマ別 興味・関心度の変化

「(関心が)とてもある」「ある」と回答した参加者

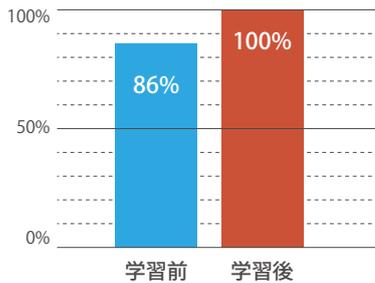
歴史から得られる教訓



地域を超えた相互理解



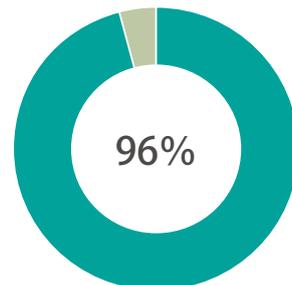
戦争体験等の発信・継承



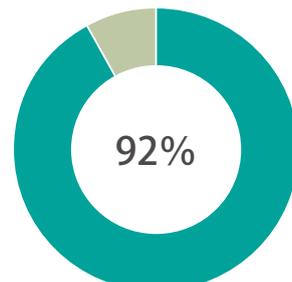
沖縄に関する項目の満足度

「とても満足」「満足」と回答した参加者

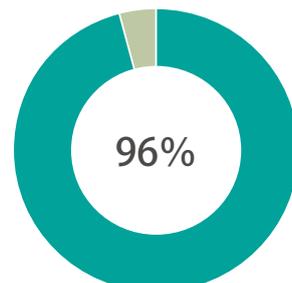
歴史・文化に関する講義



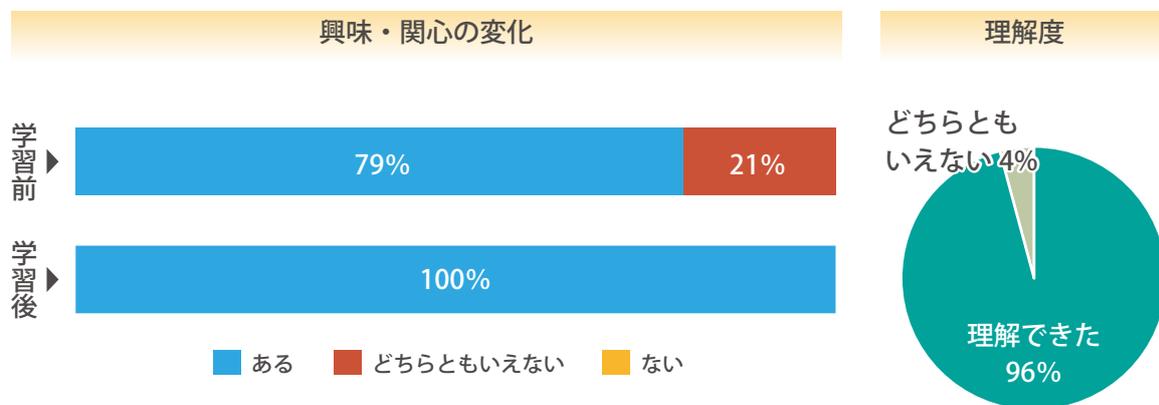
沖縄戦・戦後復興に関する講義



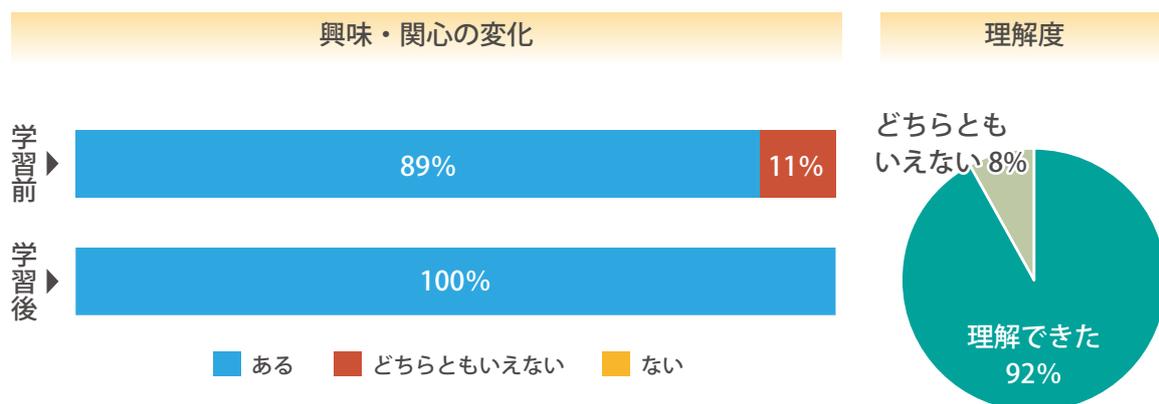
沖縄県制作の動画



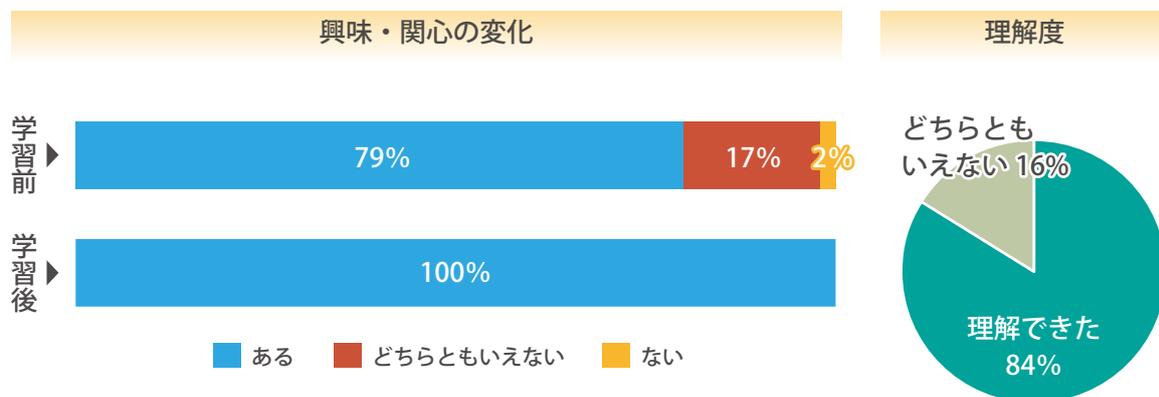
参加者の興味・関心の変化と理解度 [広島原爆投下]



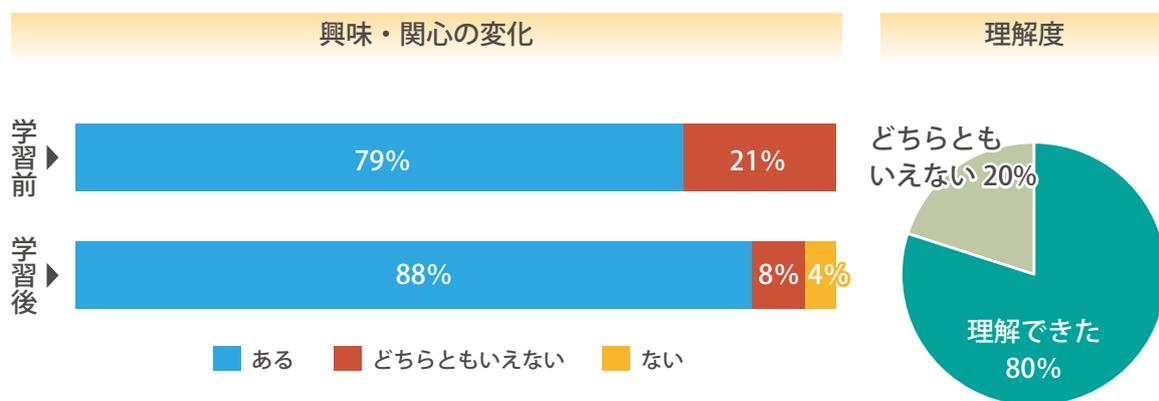
参加者の興味・関心の変化と理解度 [長崎原爆投下]



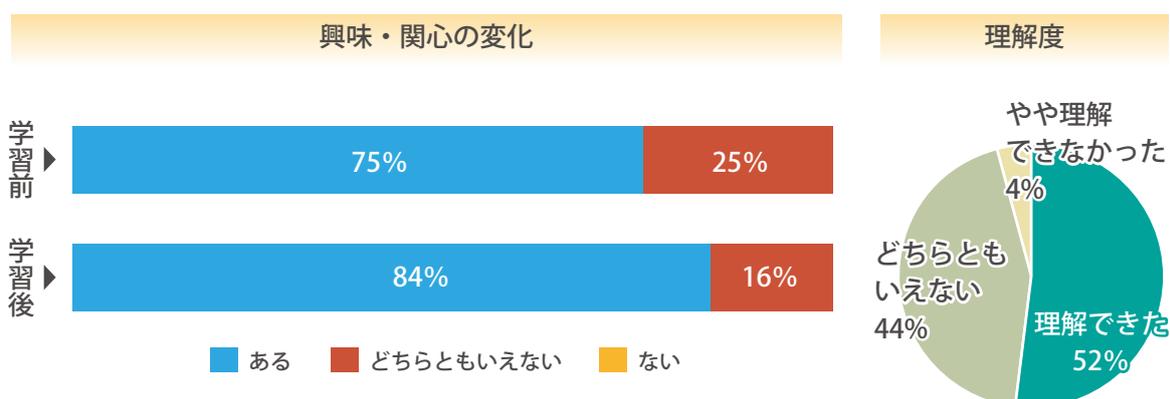
参加者の興味・関心の変化と理解度 [ベトナム戦争]



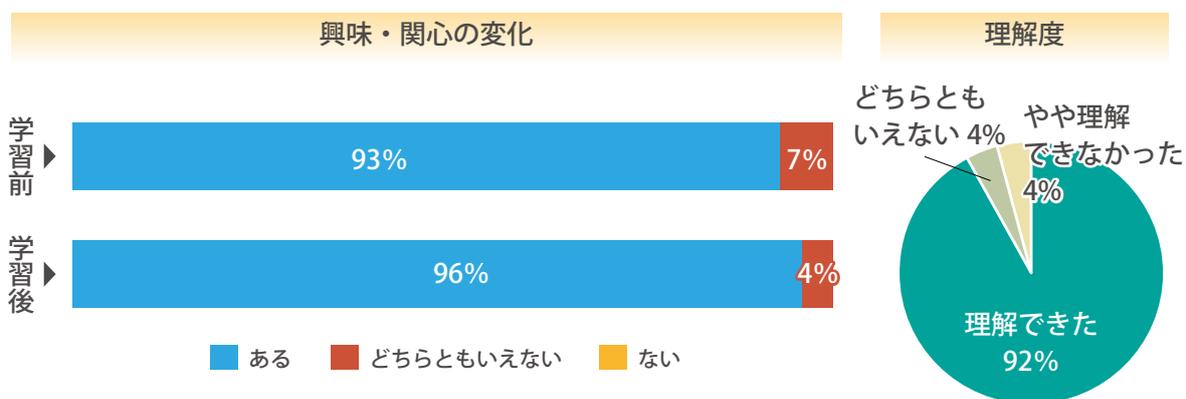
参加者の興味・関心の変化と理解度 [台湾 2.28 事件]



参加者の興味・関心の変化と理解度 [濟州島 4.3 事件]



参加者の興味・関心の変化と理解度 [沖縄戦]



本事業でどのようなことについて学びましたか。(自由記述)

戦争の悲惨さと平和の重要性を学びました。そして、平和的な状態を維持する困難度も感じました。(台湾)

特に各地域の学生の、平和に対する異なる意見が聞けて興味深かった。(広島)

当たり前の日常が平和であることを再認識したけど、それでも沖縄は米軍基地があるせいでいつも危険と隣り合わせ。私が学んだことは、広島チームが言っていた、争いがあるのは普通（人それぞれ違うからそこで争いがあるのは仕方がない）だけど、それではいけないから平和を望むのなら、民主的な話し合いを持つことが大事。納得したし、人間が争いを起こすなら、それを止めるのも、争わないようにするのも人間しかいないと思った。(沖縄)

自分の専門である国際関係理論を用いて争いの原因をみんなにシェアできてよかったと思います。そして、みんなから平和の手段とかいろんな意見をいただけて面白かったです。(台湾)

意見の食い違いは環境や文化が違うから当たり前起こる。しかしその違いを認めあつてこそ平和な世界に繋がると感じました。(長崎)

この事業を通じて、戦争を経験したアジアの国・地域のそれぞれの若者たちの考えを理解し合うことができました。戦争も平和も、一人一人が異なる思い、異なる考えをもっていることが分かりました。そのほか、国々での平和教育の方法は違う点があることもわかりました。(ベトナム)

文化の多様性、さまざまな国の学生にとっての歴史に対する視点。(韓国)

忘れがちな過去の戦争を改めて知り、それを各国や次世代を担う人達と共有することが出来て良かったです。(長崎)

本事業を通して、あなたが平和のためにやりたいことは何ですか。(自由記述)

沖縄や長崎の大学生ともっとたくさん語り合ってみたいです。このプログラムを通して、違う土地の人間がつながることが、平和のためになると感じました。(広島)

人に伝えられるようになる。自分の事、沖縄の事をもっと深く知る。(沖縄)

空きコマなどのちょっとした時間に、ただ世間話をするだけでなく、平和について友だちとか身近な人とでもいいから話してみる。(長崎)

平和のために、世界中の人間と友達になって、交流してお互いに理解できるようになりたいと思っています。(ベトナム)

今回の事業で学んだことを周りに発信すること。学びをやめないこと。(沖縄)

相互理解の促進、より良い発信方法の発見 (広島)

交流 (韓国)

ネットで平和を提唱することです。(台湾)

平和は大切です。異文化から起きる矛盾が平和を乱す最初の原因だと考えますので、できるだけこの事業のような文化・平和の思いなどの国際交流会に参加したいと思います。平和は相互理解、同感、尊重から構築されるものではないかと思っています。また、私はホーチミン市師範大学日本語学部の皆とベトナムチームの発表したアクションプランの実施に力を入れたいです。(ベトナム)

今instagramを使って平和、沖縄、アイデンティティについて発信しようと沖縄チームで動いているので、若者にそういった思いが伝わるように発信していきたい。また、家族や友達と平和について話を振って、身近な人とも平和について考える。平和教育でアクションプランで言っていたフォトランを使って、地域の小・中学生に実際に平和教育を若い世代同士でつなげていく。将来、中学校で働く機会があれば、中学生に慰霊の日だけではなく、6月は沖縄戦について学ぶ機会やグループワークなど、一回だけでは終わらないように、今までとは少し違った平和教育を進めたい。(沖縄)

本事業への全体的な感想、フィードバック（自由記述）

今回は貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。小中高と平和学習は行ってきましたが、大学ではあまりそういった機会がなかったので、今回参加できて光栄です。改めて戦争の恐ろしさや世界平和への祈りの大切さを学び、新たな関心と価値観を得ることができました。ありがとうございました。（長崎）

時間ももっとほしいなあと思います。オンラインなら、時間をもっととっていただければいいなあと思います。（ベトナム）

日程は月曜から金曜までが良かったと思う。（台湾）

アジアの学生が相互の歴史を学び交流する本事業は、非常に有意義で貴重な機会であると感じます。参加させていただきありがとうございました。スムーズな進行やカメラワーク等含め、運営目線としても参考になりました。

オンラインでありながら、各地域の歴史や意見に触れることができ、楽しい時間を過ごすことができました。少し提案させていただけるなら、発表後、発表者だけでなく他の地域にも同じテーマで質問できたり、感想を共有し合ったり、「発表者 対 聴講者」だけではなく、より自由な交流ができれば、もっと有意義な時間になるのではないかと感じました。（例：沖縄や韓国など、各地域が発表した課題について、発表者だけでなく、他地域の意見も聞いてみたいです。） 今度は対面でお会いできるのを楽しみにしています。（広島）

さまざまな場所で持続的な平和に関するプロジェクトをシェアしていければと思う。（韓国）

今回、このような状況の中、オンラインで平和学習を開催していただきありがとうございました。自分自身、知らなかったこともたくさんあったし、とてもいい機会となりました。（長崎）

5日間という期間は長いと思っていたけど、終えてみるととても短く、充実していました。またこのような機会があれば絶対に参加したいです。ありがとうございました。（広島）

たくさん勉強になりました。ありがとうございます！とてもいい経験でした！（台湾）

今回の事業はみなさんに対面で会えなくて、残念だと思いましたが、ネットでこんな素晴らしい事業が行えて、感謝しています。この前に、知っていた情報を確認することができて、満足しました。OPACに心から感謝しております。ありがとうございました。（ベトナム）

大満足（韓国）

4年次で卒業論文もあり、忙しくなりそうだったので参加するか迷っていましたが、参加できて本当に良かったです。毎日が新しい学びや気付きの連続で、他の地域の戦争体験や平和教育の仕方について元々関心があったので、それぞれの違いを受け入れ、学ぶことがとても意義ある時間でした。また沖縄についても学ぶ機会を与えてくれたり、自分たちでどんなプレゼンにするのか、したいのか、また沖縄について話せたことも、とても勉強になりました。このような機会がまたあれば参加していきたいと思いました。今回繋がれたOPACさんや参加者のみなさんとこれからも平和構築はもちろん、平和を作る peace makerになれるようにこれからも繋がりを保っていきたいです。（沖縄）

素晴らしい共同学習オンライン会議を開催頂きありがとうございます。各地域の参加者と楽しい時間を過ごしました。良い経験になりました。（台湾）

色々な各国のお話をききディスカッションしたことで平和への理解を深めることが出来ました。（長崎）

アジアの各地域の学生と意見交換をする機会をくださり、ありがとうございました。欲を申し上げますと、去年のように直接対面ができなかったことが残念で、ディスカッションが盛り上がり時間が足りなかったのでディスカッションの時間がもう少し欲しいと思いました。コロナ禍でも最善の準備をしてくださり、オンラインでも滞りなくディスカッションができたのはOPACを始め、サポートしてくれた技術の皆さんのおかげです。貴重な体験をほんとうにありがとうございました。（沖縄）

2 総括評価

最後に、参加者へのアンケートや各地域の指導者からのコメントを踏まえつつ、総括評価を述べたい。端的には、いずれのアンケート結果においても高い評価が得られており、事業目的はおおむね達成されたと考えられる。5日間の様子を見てみると、オンライン共同学習を通じて各地域の参加者の学びが深まり、かつ、意見交換する場を持てたことで、若者が異なる考えに触れながら同年代の仲間たちとの絆を深められたと実感している。他方で、時間配分やオンライン共同学習の開催時期については検討の余地があるが、事業全体の評価を下げるものではないだろう。また、昨年の総括評価にて改善事項として挙げられていた沖縄からの参加者への指導者の配置、アイスブレイクの導入などは対策がとられていた。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者の往来を取りやめ、合同宿泊研修をオンライン共同学習に変更したが、専門のスタッフを配置するなど可能な限りの準備が行われていたと感じている。また、県内でのフィールドワークにかえて、沖縄戦や県の平和推進の取組に関する動画を制作し活用するなど、工夫を凝らした対応であった。

以下にて、オンライン共同学習初日、2日目から4日目にかけて行われた各地域による発表とディスカッション、そして5日目のアクションプラン発表について個々に評価を述べたい。

初日の講義では、「沖縄の歴史・文化」、「沖縄戦と戦後復興」の2つの講義が提供された。両講義ともに参加者からは高評価を得ている。他方で、特定のトピックについてもう少し詳しく聞きたかったなどの声も上がっていることから、次回は講義の時間を確保しつつも講師と質疑応答の時間をより長く確保したい。

2日目から3日目にかけて、参加地域がそれぞれに発表を行った。学習対象について概論的に発表を行う地域もあれば、特定のトピックに焦点を絞って発表を行う地域があるなど、参加者の個性が伺えた。なお、済州島4.3事件については、事件そのものが複雑なため、他の戦争・事件の理解度に関するアンケートと比較すると「どちらともいえない」という回答が多くなっていると推測できる。

4日目のディスカッションでは、国、文化、言語が異なる参加者が「争いはなぜ起きるのか」、「平和とはどういう状態か」の2つのテーマについて意見を交わした。オンラインということもあり、開始当初は意見を述べることに遠慮があるように見えた。時が経つとともに活発に意見が出るようになっていったが、参加者と一緒に意見をまとめていくには時間が足りなかったようで、司会がまとめを行うなど、現場での柔軟な対応が行われていた。アンケートにはディスカッションの時間が短かったとの意見もあることから、タイムマネジメントについては引き続き創意工夫が必要だろう。

最終日となる5日目には、各地域からアクションプランが発表された。短い時間の中での準備となったが、オンライン上のプラットフォーム構築、地域間の連携、過去の戦争・事件を知ってもらうための学習機会の提供など、視点の異なる6つのアクションプランが発表された。5日目までの意見を踏まえながら、既存のテクノロジーや制度を活用しつつ、柔軟な発想が盛り込まれており、興味深いプランに仕上がっていた。

各地域の指導者からのフィードバックでは、実施時期が講義期間中と重なっていたことで参加者の確保が困難であった点や事業を対面で実施できないことの難しさに触れつつも、非常に前向きな評価をいただいた。また、ディスカッションの方法や事業の今後の方向性についても具体的なご提案をいただくなど、指導者としてだけでなく、協力者及び理解者として事業にかかわっていただき心からの感謝を申し上げますと同時に、さらなる改善が必要だとの認識に至った。

最後に、参加いただいた学生たちへの感想を伝えたい。素直な感想として、彼らの存在を頼もしく感じる5日間であった。また、同時に平和を構築していくには不断の努力が必要であると認識させられた。参加者からは、日々の生活の中から争いを無くしていくことは難しいが、対話などによる平和的な解決の手段や、争いの当事者同士が良きライバルとなり互いに高めあうような関係に転換していくことが必要である、との意見が出された。彼らは、非常に冷静に社会を見つめ、よりよい社会をつくるにはどうすべきかを考えている。翻って私たち大人世代はどうか。彼らが言うように、これまでの社会が真の平和という状態を作り出すことができている

いのは明白であろう。より良い社会状況を若者たちに提供するために努力の継続が必要だと、彼らの意見に聞き入りつつも襟を正す瞬間の連続であった。私たちにとっても貴重な機会を提供してくれた彼らに感謝しつつも、今後もより良い事業のために改善に取り組む必要があるとの決意をもって統括評価とする。

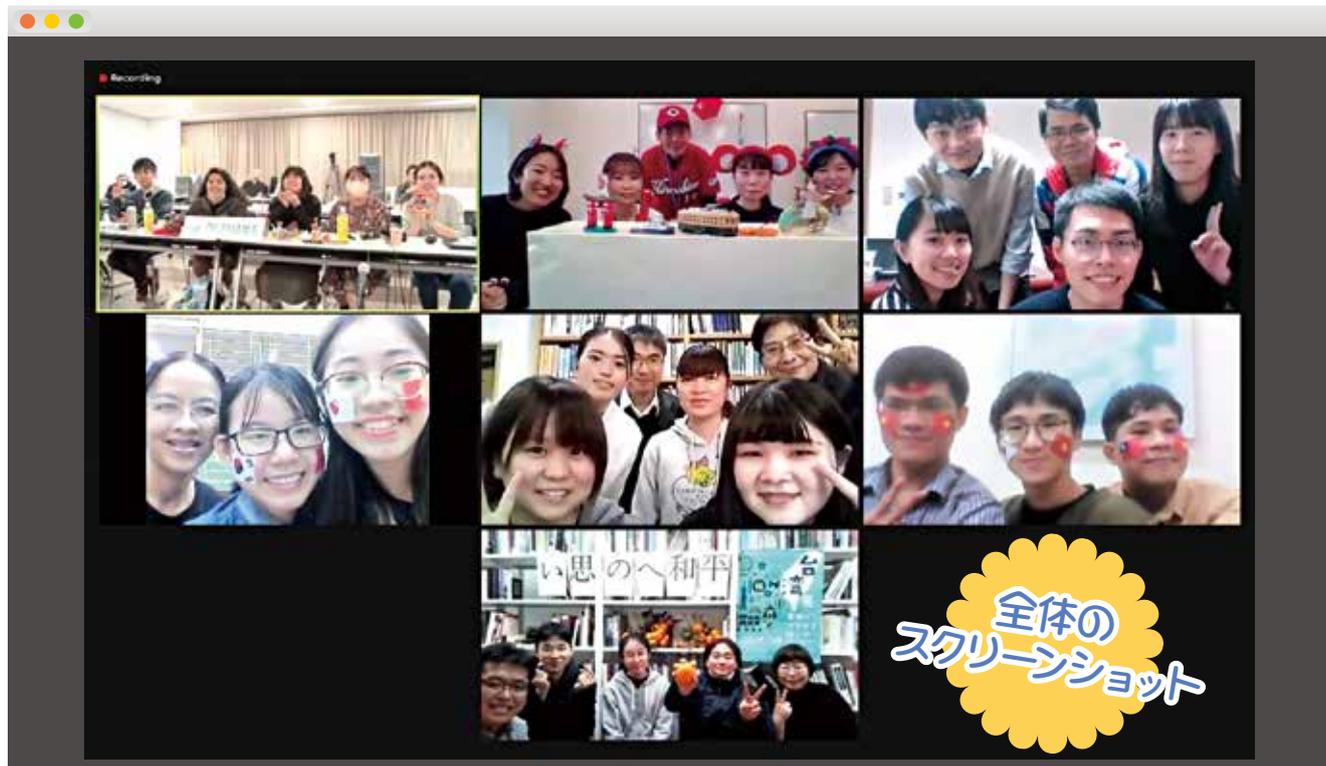
第4部 資料編



1 オンライン共同学習の様子







それぞれの地域を紹介



韓国チーム
 済州島はみかんの名産地。食べに来てね。



長崎チーム
 大学の研究誌を披露！



広島チーム
 もちろん!! 広島カープを応援します！



台湾チーム
 タピオカドリンクは台湾発祥!!



ベトナムチーム
 参加者の国旗を頬にベトナムとの友好を伝えます。



沖縄チーム
 シーサー、沖縄そば、琉球舞踊の扇子…諸々沖縄！

悲惨な歴史継承 学生がアイデア オンライン報告会

戦争や弾圧が起きた国や地域の学生が平和について考える「平和への思い」のオンライン学習報告会が28日、那覇市内であった。沖縄や長崎、台湾などの学生計29人が参加。各地で起きた悲惨な過去を学び、歴史を継承するために若い世代



が取り組むべきことなどについて考えを共有した。県内からは沖縄キリスト教学院大学と琉球大学の学生計5人が参加。争い事をなくすには、違いを認め合うことが重要だと主張。沖縄を動画で流し、歴史や文化を観光客が事前に学ぶアイデアを提案した。

台湾の学生たちは、当時の国民党政権が住民の抵抗運動を弾圧した「2・28事件」を紹介し、台湾の若い

各地の学生らとオンラインで意見交換する県内の大学生ら28日、那覇市上間・市人材育成支援センターまーいまーいNaha
世代で同事件を知らない人が多いと問題視。レポートだけでなく、事件にまつわる場所を訪れて歴史を直接学ぶ必要性を訴えた。
県の交流事業で、今年2回目。広島やベトナム、韓国・濟州島からも学生が参加し、5日間の日程をオンラインで開催した。

沖縄タイムス社 提供

国境超え平和議論

那覇 学生らオンライン共同学習



オンライン共同学習で、チームを組んで議論を交わす学生ら=27日、那覇市上間の市人材育成支援センターまーいまーいNaha

県は27日、戦争体験の継承に取り込む地域やアジアの学生を対象にした、オンライン共同学習を那覇市上間の市人材育成支援センターまーいまーいNahaで開いた。平和構築のためのネットワーク形成と人材育成が目的。沖縄、広島、長崎や韓国、台湾、ベトナム

の学生ら29人が参加した。共同学習は24日から28日の5日間実施した。27日は地域ごとにチームを組んで「なぜ争いは起きるのか」「徴兵制についてどう思うか」などテーマを設定し、議論した。「なぜ争いが起きるのか」というテーマでは、沖縄チ

ームから「正義の違いから起きるのでは」という意見が出た。各国チームから同意する意見が出た一方、何が正義なのかという問いに「命を愛し、命をささげ守ること」とする回答もあった。その回答に対し、沖縄チームは沖縄戦で県民の4人に1人が犠牲になったことを挙げて、違和感を伝えるなど活発な議論を展開した。
沖縄キリスト教学院大学の津波古明瑞さんの28日野湾市は「他国の人の価値観や信念を聞くことで、さらに他人を理解しようと思った」と話した。共同学習を通して得た知識やつながりを生かし、28日には今後どのように平和を構築するかなど、アクションプランを策定した。

琉球新報社 提供

令和2年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業 報告書

沖縄県

<主 管> 沖縄県 子ども生活福祉部 女性力・平和推進課

<実施団体> 「平和への思い」発信・交流・継承事業委託業務コンソーシアム

(特定非営利活動法人 沖縄平和協力センター 株式会社うるま AV センター)

